

宵振

41号 2022年12月



福岡歯科大学同窓会

《巻頭フォト》

『講堂に飛行機雲の一直線』

撮影者：福岡市 川口智弘（29 期）

撮影日：令和 4 年 9 月 21 日

カメラ：SONY ILCE-5100

レンズ：SONY SELP1650

設 定：F 値 9・露出時間 1/250 秒 ISO100



「表紙題字：故 松本洋一名誉学長 書」

目 次

巻頭言	「会長二期目を迎えて」	福岡歯科大学同窓会長 吉 永 修……	1
挨拶	「創立50周年を迎えて」	福岡学園理事長 水 田 祥 代……	2
〃	「ご挨拶」	福岡歯科大学学長 高 橋 裕……	3
〃	「ご挨拶」	参議院議員 比嘉奈津美……	4
〃	「病院長就任ご挨拶」	医科歯科総合病院病院長 坂 上 竜 資……	5
〃	「教授就任のご挨拶」	歯科保存学分野教授 松崎英津子……	6
〃	「就任のご挨拶」	成育小児歯科学分野教授 岡 暁 子……	7
〃	「教授就任のご挨拶」	麻酔管理学分野教授 池 田 水 子……	8
〃	「就任のご挨拶」	眼科学分野教授 大 島 裕 司……	9
〃	「教授就任のご挨拶」	整形外科科学分野教授 西 尾 淳……	10
〃	「就任のご挨拶」	口腔健康科学分野教授 谷 口 奈 央……	11
退職挨拶	「感謝」	障害者歯科学分野教授 小 島 寛……	12
〃	「アクセプトを求めて。齷齪と……定年退職のご挨拶」	口腔医学研究センター教授 大 野 純……	14
挨拶	「教授および学科長就任のご挨拶」	福岡医療短期大学教授 松 尾 忠 行……	16
誌上講座	「臼歯部欠損症例に対するインプラントを用いた固定性補綴処置」	冠橋義歯学分野講師 山口雄一郎……	17
私の臨床	「睡眠歯科学と呼吸法のすすめ」	ひゃくだ歯科・ファミリークリニック 百 田 昌 史……	22
府県同窓会だより	「福岡県西同窓会会長就任のご挨拶」	福岡県西同窓会会長 持 山 達 郎……	27
〃	「佐賀県同窓会会長就任のご挨拶」	佐賀県同窓会会長 小 柳 進 祐……	28
〃	「開業して41年目になります」	中部同窓会会長 伊 藤 恒 一……	29
学内同窓会（学術振興事業）	「これまでの研究報告と今後の展望」	高齢者歯科学分野 江 頭 留 依……	30
府県同窓会だより	「第74回九州歯科医学大会報告」	鹿児島県同窓会「福歯会」専務理事・実行委員長 平 川 俊 洋……	31
学園通信	福岡学園はいま	学園企画課……	33
学生だより	「令和4年度学生近況」	総務委員長 河 本 大 葵……	40
W a t c h	「ものの見方、経験とともに」	松永歯科クリニック 松 永 興 昌……	41
〃	「安心・安全な医療」	峯田歯科クリニック 峯 田 公 隆……	42
O B 会だより	サッカー部OB会「サッカー部の歴史を感じて」	サッカー部OB会 青 木 隆 宜……	43
トーク&NOW	「コロナ禍での医院承継と移転開業」	こが歯科医院 古 賀 幹 一……	44
〃	「趣味の River SUP」	國松歯科医院 國 松 佳 司……	45
親子で頑張る同窓生	「福岡歯科大学ボウリング部創設」	小坪義博／昌一郎……	46
〃	「感謝と恩返し」	馬場篤子／裕康……	47
〃	「感謝です！」	南原賢一／太晴……	48
昇格・学位取得者紹介		……	49
本部会務報告	令和3年度定時評議員会・総会報告	江藤ゆかり……	52
〃	第69回全国歯科大学歯学部・同窓会校友懇話会	江藤ゆかり……	53
〃	12校会議（Web 会議）	江藤ゆかり……	53
〃	学術事業報告 第34回学術講演会開催第38回福岡歯科大学臨床セミナー開催	宮 園 祥 爾……	53
〃	〃 2022年度臨床スキルアップセミナーの開催と第35回学術講演会のお知らせ	西 耕 作……	54
〃	〃 第38回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会	葛 西 秀 夫……	55
〃	ご逝去のお知らせ	……	56
〃	学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念事業報告	高 嶺 明 彦……	57
福岡歯科大学同窓会役員名簿		……	59
会 務 報 告		……	62
会 計 報 告		……	65
福岡歯科大学同窓会会則・諸規則		……	70
編 集 後 記		大 川 伊 織……	85

「会長二期目を迎えて」



福岡歯科大学同窓会

会 長 吉 永 修（４期）

先生方のご支援のおかげで、会長になり二期目を迎えることができました。一期目では同窓会本部の仕事を把握することに努めました。同窓会の仕事内容の概略が把握できましたので、今期は改善をさらに進めてまいりたいと思います。

一期目の２年間、コロナウイルスのパンデミックにより活動の多くが制約されました。その中にあって Web による常務理事会を毎月一度開催することにより各委員会の連携が良くなり、仕事がスムーズに運ぶようになりました。日々の診療で忙しい中、各副会長、常務理事の先生方には毎月参加していただき心より感謝申し上げます。

さらに、今年の４月より支部の会長会議を毎月一度開催することにしました。これは各支部が同じような問題を抱えていると感じたからです。これらの諸問題をみんなで考え、解決していこうと考えました。まだ始めたばかりで成果は出ていませんが、必ずいろんな問題が解決されるものと信じています。この会議の議長には沖縄県同窓会会長の松島一夫（８期）先生、副議長には大阪府同窓会会長の石田哲也（９期）先生に、就任していただき、毎回活発な意見が出ています。

二つの会議とも Web ではありますが、毎月顔を向き合っていることでお互いの顔を覚えることによって親睦が高められています。まず、本部、支部ともにお互い同窓会をどこへ導きたいのか、意思の疎通を図りベクトルを統一することが重要なことと考えます。

今年度になりパンデミックの状況にもよりますが、各支部の総会がリアルで行われ始めました。また、各歯科大学、同窓会の周年行事も始まりました。私は可能な限り出席し、皆さんと交流することに努めています。その結果、同窓生、他校の同窓会の先生方、また歯科医師会の先生方から多くを学んでいます。自分の視野の狭さを痛感する毎日です。

今年度の最大のイベントはわが母校である福岡学園・福岡歯科大学五十周年記念式典の開催です。水

田理事長をはじめ緻細で綿密な計画のもと準備が進められ、素晴らしい式典となりました。開催場所として最新技術を駆使した設備の整った五十周年記念講堂が新築されました。同窓会からはグランドピアノを贈らせていただき、理事長をはじめ大学関係の皆様大変喜んでいただきました。さらに同窓会の先生方には約七千万円の寄付をしていただき、皆さんの母校愛を改めて感じました。本当にご協力ありがとうございました。

８月に参議院選挙が終わったのを機に沖縄県出身の比嘉なつみ（８期）先生に「なつみの会」を発足していただきました。これは２年半後に控えた比嘉先生の参議院選挙を同窓会として応援するためです。比嘉先生の HP に申し込み手順が載っていますので、是非、自民党員入会と「なつみの会」入会をよろしくお願いします。また、サポーターは費用がかかりませんのでスタッフの方々になっていただくようにお願いします。そのために９月に比嘉先生の政治活動ポスターを皆さんに送りました。医院の控室に貼って比嘉先生の顔と名前をスタッフの方々に覚えていただいてください。よろしくお願いします。

各医院でいろいろな問題を解決する努力はしなければなりません。政治でないと変えられないことも数多くあります。比嘉先生に我々の生の声を直接国会に届けてもらうために同窓会を挙げて応援したいと考えています。同窓生１人ひとりの力を合わせて頑張りましょう。

二期目になってからの報告と今後目指している方向性を述べてきました。誰かがするだろう、私一人ぐらいはしなくてもいいだろう、と考えていたのでは同窓会は良くなりません。「俺が今やらねば、誰がやる」という気概を持って歯科医療界を良くするために我が同窓会が先陣を切って挑戦したいと思います。

今後とも、変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

「創立50周年を迎えて」



学校法人福岡学園
理事長 水田 祥代

福岡歯科大学同窓会の皆様におかれましては、日頃から大学運営にご協力いただき誠にありがとうございます。福岡学園（旧福岡歯科学園）と福岡歯科大学は昭和47年（1972年）7月27日に文部科学省（当時文部省）から設置認可を受け、今年で50年の節目を迎えました。これも同窓会の方々の多大なるご尽力の賜物と感謝しております。新型コロナウイルス感染症の影響で、記念式典を盛大には実施できませんでしたが、感染対策を徹底して、本年7月24日に新築した50周年記念講堂において「学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念式典」を執行了いました。コロナ禍にも関わらず、同窓会の皆様をはじめ、行政機関、歯科医師会、関係団体、国公私立大学の歯学部関係者、協力病院関係者等、多数のご来賓を全国からお招きして開催できたことに大変感謝しております。

この50周年記念講堂については、こけら落としのイベントとして記念式典を開催するという予定で建築を進め、何とか間に合わせることができました。

また、50周年記念事業の一環として、募金活動（目標1億円）を4年ほど前から進めていました。この活動も同窓会の皆様のおかげで1億円を突破することができ、記念講堂の建築費の一部に充当させていただきました。さらに、記念講堂の舞台にグランドピアノの寄贈もいただき、皆様の本学に対する愛校心を身に染みて感じました。本当にありがとう

ございました。

現在本学では、本館、体育館、アニマルセンターなどの建物の老朽化に伴い、新キャンパス整備計画を進めております。まずは、学生ファーストの精神で本館の建築を最優先に検討しています。これから5～6年かけていろいろな建築工事がありますが、完成すれば今とは全く違うキャンパスに生まれ変わりますのでご期待ください。

さて、福岡歯科大学は、現在入学試験の真っ只中ですが、ここ数年96名の入学定員を満たすことができない現状です。他の私立歯科大学も首都圏・関西圏を除いて定員確保には苦勞していますが、本学は、大阪以西に唯一の私立歯科大学という地の利を生かして、学生募集に力を入れています。同窓生のご子息、ご息女対象のオープンキャンパスも毎年開催し、本学へ足を運んでいただいております。ただ、最近の受験生の統計をみると、同窓生のご子息、ご息女の数が減っています。高橋大学長も低学年教育から力を入れて学生指導に頑張ってくださいますので、皆様の優秀なご子息・ご息女に本学をお薦めいただけないでしょうか。

最後になりますが、同窓会の皆様には、ご自愛の上、これからも末永くご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私事ながら、転倒して肋骨を2本骨折してしまい、執筆作業にも支障をきたし、感謝の気持ちをうまくお伝えできなかったことをお詫び申し上げます。

「ご挨拶」



福岡歯科大学
学 長 高橋 裕

同窓生の皆様には、いつも、福岡歯科大学にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。特に、今年は本学創立50周年を迎え、創立50周年記念募金に多くの皆様方から福岡学園にご寄付いただきましたこと、心より御礼申し上げます。また、福岡歯科大学五十年史へご執筆いただいた皆様や、創立50周年記念式典にご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

大学は今年もコロナ禍での1年でした。大学の授業は、極力、対面で実施し、また、卒業式と入学式は規模縮小で開催し、部活動は2年ぶりによりやく再開しました。しかし、謝恩会、オールデンタル、体育祭、学園祭は、今年も中止になりました。

歯科医師国家試験に関しては、平成25年度から国試合格者数が大幅削減され、全国の国試合格率は約64%となり3人に1人が不合格となる大変厳しい試験となっていました。さらに今年は、全国国試合格率が過去最低の61.6%となりました。本学は、新卒者の合格率が65%で全国平均を上回ることができましたが、既卒者の合格率は21%で苦戦し、昨年も22%で、2年連続で2割台の合格率となりました。ここでも新型コロナが影響し、予備校の授業の多くがオンラインになったため、自宅での学習に対応できなかったことが原因であると考えられます。今年は、予備校の多くの授業が通常の対面授業となっていますので、来年の国試では既卒者の合格率が向上してくるものと期待をしています。

本年度の入試に関しては、私立17大学中11大学に入学者の欠員がでて、昨年の10大学よりも更に増

え、本学も2年連続で大幅欠員となりました。原因は歯科医師職の人気の低迷していることにあり、その結果、私立歯学部全体の受験生が大幅に減少しました。この傾向はしばらく続くことが予測されており、この志願者大幅減は入学者の学力と修学意欲の低下に深く関連し、本学では国試の成績にも影響しました。そこで本学では入試成績が特に優秀な受験生を入学させることを目的に、理事長の水田先生にご理解とご支援をいただき、来年の入試で新たな特待生制度を設けることになりました。6年間の学納金がほぼ半額のS特待を、20人に設けています。是非、多くの皆さんに、本学への入学を目指してほしいと思います。

教育に関しては、現在、カリキュラムを大きく改正し、学生の意識改革も含め、大学全体で教育改革を行っています。学生が6年間かけてじっくり知識を積み上げていく、T.K.G.（積み上げ・繰り返し・学習）のシステムで学生教育を行い、今年で3年目に入りました。6年一貫での教育システムですので、全学年に整うまでにはもう少し時間がかかりますがかなり進んできました。また、学生の主体的な学習を促す0080運動（ゼロ・ゼロ・ハチマル運動：欠席ゼロ、再試ゼロ、CBT80点超え）は、開始して4年目になります。これらの教育・指導の成果は徐々に始め、今年2月の4年CBTの本学成績は、私立17大学+公立大学の18校の平均を初めて上回ることができました。

本学は、開学以来、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的に（学則第1条）、人格・知識・技術を兼ね備えた歯科医師育成を理念とし、国民のニーズに対応できる実践的臨床能力を有する歯科医師を養成するために、知識教育、技能教育、態度教育を行ってきました。この目的使命を達成するために、現在、本学の状況に応じた実効性のある教育の実施にむけて教職員一同頑張っています。本学の今後の進展に期待をしていただければ幸いです。

「ご挨拶」



参議院議員

比嘉奈津美（8期）

7月24日に福岡学園・福岡歯科大学の創立50周年記念式典に出席し記念講演をさせていただきました。式典が盛大に開催されましたことは、水田理事長、高橋学長をはじめ歴代の役員、教職員、卒業生の皆様のさまざまなご協力の賜物であり、卒業生のひとりとして心から敬意を表します。

文部科学省から1971年に設置許可を受け、1972年に開学となり多くの歯科医師を輩出し、地域医療に大きく貢献。さらに福岡医療短期大学や福岡看護大学を開学され、歯科衛生士や口腔保健に強い看護師養成など、人材育成に素晴らしい結果を出していた母校を誇りに思います。

また少子高齢化、女性就業問題を抱えるわが国で高齢者福祉のための介護老人保健施設や女性の就業環境整備のために保育園の開設。そして、これから女性歯科医師が増加していく中で今年度3名の女性新教授の発令などは今後の社会や大学のあり方のモデルを築いているものだと思います。

「口腔の健康」の重要性が多くの方々に認知される今、本学園の掲げる「口腔医学の確立による医



学・歯学・看護学の進展への寄与」は、従来の歯学に総合的な教育の実践です。

私は昨年10月に繰上げ当選をさせていただき再び国会議員としての仕事をしておりますが、このところ歯科器材、公共料金等の高騰が歯科医業を大きく圧迫しており、8月24日には、私が事務局長をしております「国民歯科問題議員連盟」を開催し、国会閉会中にもかかわらず、多くの国会議員に出席をいただき、歯科材料の高騰への対処の発言をいただき、歯科界を応援してくださる国会議員の多さを実感しました。同窓の先生方からも物価高騰についての現状の連絡などいただき、先月9月28日には、加藤勝信厚生労働大臣へ支援の申し入れをしてきました。

現在、支援策として「地方創生臨時交付金」が決定しておりますが、各地方自治体の裁量で支援金支給が行われているため、都道府県による支援額の「差」が出ております。この「差」を解消するべく地方自治体への厚生労働省の更なる指導と「骨太の方針」にも記載された「国民皆歯科健診」を進めていくためにも、「厚生労働省歯科保健課関連予算」について、概算要求額「満額回答」への働きかけもお願いをしてきました。

予算獲得の手段として、財務省を説得するための研究エビデンス、ビッグデータが必要となってきます。大学における研究をさらに進めていき学会との連携が重要になると私は思っています。本学園の研究者の先生方のご活躍も期待しております。

歯科界のためにできることを歯科医師として努力して参ります。私が国会議員になって良かったと感じる一つに、たくさんの同窓の先生方に支えていただき、皆さんの優しさに触れることです。福岡歯科大学の卒業生でよかったと心から思います。

創立50周年を機に母校のさらなる発展のため同窓会、心一つにがんばりましょう。



福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念式典記念講演

「病院長就任ご挨拶」



福岡歯科大学
医科歯科総合病院
病院長 坂上 竜資

同窓会の皆様、日頃は大変お世話になっております。本年4月より、福岡歯科大学医科歯科総合病院の病院長を拝命しましたのでご挨拶をさせていただきます。前任の阿南壽先生（現在は、病院顧問）と同様に、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

思えば私が福岡歯科大学に着任して以来約20年間、素晴らしい環境と暖かな人間関係に恵まれ、これまで充実した学園生活を送って参りました。その中でとくに私が誇りに感じているのは、大学教員として社会に貢献できる知識・技能・人間性を備えた数多くの卒業生と教室員を育てられたことです。本年3月までは歯周病学分野教授としての仕事をメインに勤めて参りましたが、4月からは臨床や教室のことは多くを准教授と講師に委ねています。現在は水田理事長のご指導のもと、病院と学園の発展に寄与すべく、病院全般を担当させていただいています。

皆さんもご存知のように、福岡歯科大学医科歯科総合病院は、2020年9月より新しい建物での診療を開始しました。24の医科診療科と12の専門歯科、50床の病棟からなる、全国的にも珍しい医科と歯科の総合病院となっています。本院には医科と歯科の多くの専門医と認定医が在籍し、また種々の専門学会に認定された研修施設にもなっており、一般的な診療から高難度の診療まで各診療科が連携して対応しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のなか、病院に従事する多職種の教職員が一丸となり感染対策を徹底して毎日の診療を行っています。

新病院は、「地域と社会をつなぐ」、「教育・研究・臨床をつなぐ」、「医科と歯科をつなぐ」、「未来へとつなぐ」をコンセプトに、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続けることをめざしています。さらに、新病院には「大学と同窓生をつなぐ」ことも期待されています。7月に50周年記念講堂が完成したことを契機に、ますます大学と病院とが一体となって皆様方に積極的に情報発信を行い、さらに卒後研修や学位・認定医・専門医の取得に向けてのお役にたちたいと考えます。ちなみに12月11日に50周年記念講堂で開催する福岡歯科大学学会では、「大学と同窓生をつなぐ」をシンポジウムのテーマの一つに掲げています。

新病院では「健診センター」を開設し、医科と歯科が連携して病気の早期発見に努めています。また、256列マルチスライスCTや3.0T（テスラ）MRIなど最新の医療機器を備えました。最高の医療技術と専門性、最新の医療機器を備えた本院は、2次医療機関としても機能しており、難症例やセカンドオピニオンの紹介にも対応していますので是非ご活用下さい。

近年、お口の健康が全身の健康に大きく寄与することが、多くの研究により広く認められています。歯周病の進行が、心臓病、肺炎、糖尿病など様々な病気を増悪させることや、歯を失うほどに、高齢になって寝たきりになる可能性が高くなるという報告があります。福岡歯科大学は、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の重要性をこれまでも全国に先駆けて提唱してきました。本院は、これからも「口腔医学」の理念のもと、患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の皆様の信頼に応えることのできる病院となるよう努めていきます。

皆様、今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

「教授就任のご挨拶」



福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯科保存学分野
教授 松崎 英津子

福岡歯科大学同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2022年4月1日付で、福岡歯科大学 口腔治療学講座 歯科保存学分野 教授を拝命しました松崎英津子と申します。同窓会会誌の紙面をお借りして、就任のご挨拶を申し上げます。

私は熊本市の出身で、2000年に長崎大学歯学部を卒業し、九州大学病院での臨床研修を経て、大学院の門をたたきました。九州大学大学院歯学府博士課程では、同大学医学部臨床薬理学教室に出向し、笹栗俊之教授、高橋富美先生（現産業医科大学薬理学教室教授）ご指導のもとで、細胞性粘菌 DIF による骨芽細胞分化マーカー遺伝子発現調節機構の研究に従事しました。学位取得後、前田勝正教授（現九州大学名誉教授）、西村英紀教授ご指導のもと、九州大学病院口腔機能修復科助教として、歯科保存・歯周治療の臨床、研究、教育に従事し、2014年10月に本学歯科保存学分野講師に着任しました。2020年7月より同分野准教授を経て、現在に至ります。

前任の阿南 壽教授（現病院顧問）は、数多くの臨床歯科医を育成されるとともに、在任期間中に本学医科歯科総合病院病院長、日本歯内療法学会理事長、日本歯科保存学会副理事長として一方ならぬ尽力をされ、その背中から多くを学ばせていただきました。数えきれないご指導・ご教授を賜りましたことに、改めて感謝申し上げます。また、口腔治療学講座主任教授である歯周病学分野 坂上竜資教授・病院長には、これまでも、そして新米教授の現在も、あたたかくご指導いただいております。深く感謝を申し上げます。そして、歯科保存学分野着任以来、折に触れ様々なご指導とご助言を賜っている福岡学

園理事長 水田祥代先生、福岡学園常務理事 田口智章先生、福岡歯科大学学長 高橋 裕先生に衷心より感謝申し上げます。

この2022年は、本学の創立50周年というメモリアルの年です。そのような時期に教授に就任させていただいたことを感慨深く、また大変ありがたく感じています。

50周年記念式典での水田理事長の式辞に、「学生が学びたい大学、卒業生が誇れる母校を目指す」とありました。教室を担う者として、「歯科保存学」の学問分野発展の一翼を担いけん引することが、それに応えるひとつの方策であり、肝要であると考えています。同時に、本学出身の歯科医師を育み「未来につなぐ」使命があると考えています。

教育面では、今年度より歯内療法学に加え保存修復学の講義も担っており、国家試験、CBT の合格率アップを最重要課題としています。研究面では、これまで基礎研究で積み上げてきた脂質メディエーター SIP の歯科保存領域への応用に取組んでいます。他大学や企業と多くの共同研究を実施しており、明日の臨床につながる成果となるよう教室全体でチャレンジしています。臨床面では、病院に最新のマイクロスコープおよび歯科用コーンビーム CT 装置が整備され、精密な根管検査に基づく歯内療法を基盤とした歯科保存治療を展開しています。一方、歯性上顎洞炎に対する耳鼻咽喉科・口腔外科・放射線科との連携、外科的歯内療法に対するインプラント科・歯科技工士との連携など、本学が誇る最新デジタル機器を活かしたチーム医療にも取り組んでいます。また私は、日本歯科保存学会が発信する「う蝕治療ガイドライン」作成に携わっています。超高齢社会の歯科医療において喫緊の課題である「根面う蝕」ですが、未だ確立されていないその診断基準について等、臨床研究を含む取組みを開始し、地域歯科医療に貢献できるよう努めます。

もとより浅学菲才の身ではございますが、福岡歯科大学、福岡学園、そして福岡歯科大学同窓会のさらなる発展に一層精励いたす所存です。今後とも変わらぬご指導ご厚誼のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「就任のご挨拶」



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野
教授 岡 暁子

皆様こんにちは。

2022年4月1日付けで、尾崎正雄教授の後任として、成長発達歯学講座成育小児歯科学分野教授を拝命しました岡 暁子でございます。福岡歯科大学同窓会の先生方にご挨拶できる機会を頂き、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私は、1997年に九州大学歯学部を卒業し、大学院生として小児歯科学教室に入局いたしました。小児歯科学を専攻しようと決めたいくつかの動機の1つに、大学2年生の時に、アルバイト先の歯科医院で見た小さな女の子のパノラマエックス線写真を見たことがあります。乳歯の下で育っている様々なステージの永久歯歯胚を見て、顎骨の成長に合わせて永久歯の歯胚が育ち、規則性を持って萌出してくるというプロセスを知り、「人間を成長させるプログラム」の緻密性と神秘性に心を動かされました。その後、小児歯科学の講義で「小児歯科学は、いかに健全な永久歯を獲得させるかを考えて乳歯を治療する学問です。小児歯科学医が診ているのは乳歯ではなくその先にある永久歯なんです。」という言葉聞き、さらに小児歯科学に興味を持つようになりました。その興味は、現在も全く薄れていません。

2004年から2007年には、南カリフォルニア大学歯学部 Craniofacial molecular biology センターで顎・顔面発生研究に従事いたしました。基礎研究にどっぷりと浸かったこの時期、今度は「人間を成長させるプログラム」を分子生物学的な角度から考えるという新しい経験をすることができました。顎・顔面発生研究は、継続して私の研究活動の軸となって

います。帰国後、福岡に住む夫と長男と離れて、日本大学歯学部第2解剖学教室で研究を継続しておりましたが、2009年に、生体構造学講座、沢 禎彦教授（現在、岡山大学医歯薬学総合研究科口腔機能解剖学分野）に、福岡歯科大学着任の機会を頂きました。着任時、私のお腹には7か月になる次男がいましたが、彼が今年、中学に入学しましたので本学に従事して13年の月日が経ったということになります。

2011年、第3代教授に就任された尾崎正雄先生に成育小児歯科学分野に所属する機会を頂きました。あの時の胸躍るような嬉しさは、今も忘れておりません。尾崎正雄先生には、臨床・研究・教育と多岐にわたって様々な経験させて頂き、そしてご指導、ご支援賜りました。また、入局当時からずっと変わらず、馬場篤子准教授をはじめとする教室の先生方、福岡歯科大学小児歯科学同門会の先生方にも温かいサポートを頂いて参りました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私はこれから、「Diversity（多様性）」「Sustainable（持続可能性）」「Branding（ブランド化）」の3つのテーマで教室づくりに取り組んで参ります。私は、臨床医であり基礎研究者、妻であり母親、と2足といわず何種類もの草鞋をとっかえひっかえしながら歩いてまいりました。何もかもが中途半端になりそうだと、焦りや不安を感じていた時期もありましたが、片方ずつ違う種類の草鞋を履くと意外と歩きやすかったり、草履は壊れても修理ができることを知ったり、時には草履をお借りするような経験を重ねて、気が付いたらどんなタイプの草鞋でも履き続けることができるようになっていました。これからは、福岡歯科大学成育小児歯科学ブランドの草鞋を何パターンも編みながら、「若い先生を成長させるプログラム」を模索し、情熱を持って後進の育成に邁進する所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

「教授就任のご挨拶」



福岡歯科大学
診断・全身管理学講座
麻酔管理学分野
教授 池田 水子

2022年4月1日より、福岡歯科大学、診断・全身管理学講座、麻酔管理学分野担当教授に着任いたしました池田水子と申します。この場をお借りして福岡歯科大学同窓会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は福岡生まれ、福岡育ちで、ずっと福岡で過ごしてきました。南当仁小学校、当仁中学校、修猷館高校を経て、九州大学医学部に進学しました。2002年に卒業後、母校の九州大学麻酔科蘇生科に入局しました。高橋成輔教授、外須美夫教授、山浦健教授の主催される医局で多くの先生方のご指導を受けながら、九州大学病院、九州医療センター、九州大学別府病院、浜の町病院等、関連病院で麻酔科医として研修・臨床を続けてまいりました。研究では、2006年に九州大学大学院医学系学府機能制御医学専攻博士課程に入学し、古野純典教授ご指導のもとコーヒーの肝庇護作用に関する研究で学位を取得しました。大学院を終え、臨床に戻って3年たったところで留学の機会を得ました。アメリカ合衆国オレゴン州のオレゴン健康科学大学へ赴任し、マウスモデルを用いた心肺停止蘇生後臓器障害に関する基礎研究に従事しました。帰国後母校に戻り、大学病院、関連病院で勤務した後、2021年4月1日より福岡歯科大学に講師として赴任し、現在にいたっております。

福岡歯科大学では1987年に青野一哉先生が初代教授として九州大学より赴任され、麻酔管理学講座が開設されました。1990年に歯科麻酔学講座と名称が変更されました。青野教授は1998年に定年退任され、1999年に谷口省吾先生が第2代教授として九州大学より赴任されました。2001年4月には教員組織の改組で歯科放射線学講座と統合され診断・全身管

理学講座麻酔管理学分野となりました。谷口教授は23年間勤め上げられた後、2022年に定年退任され、その後を私が引き継いでおります。

現在麻酔管理学分野に所属する医局員は日本麻酔科学会専門医2名、日本歯科麻酔学会専門医2名、認定医1名、医員4名で総勢9名です。入局者の多くは歯科麻酔認定医の資格を取得しております。今後若手の医局員には症例報告など臨床例に対する研究発表を奨励し、歯科麻酔認定医・専門医の育成を推進していきたいと考えています。

福岡歯科大学附属の福岡歯科大学医科歯科総合病院では、医科の手術は、外科、整形外科、耳鼻科、眼科手術を行っています。歯科の手術は、口腔外科による上下顎骨切り術、口腔癌手術等の長時間手術が頻繁に行われています。現在手術室は5室で運営しており、2020年の新病院移転を機に全身麻酔下手術、精神鎮静下歯科治療の手術室への集権化が実現され、より効率的で安全な麻酔の提供が可能になりました。昨年度まではCOVID-19感染症の影響もありましたが、今年度からは医科手術、歯科手術とも手術件数が増加しております。

私は今まで歯科麻酔に関わったことがなく、歯科麻酔臨床、歯科麻酔科医卒後教育、歯科大学学生教育のすべてが初めての経験になります。未知の世界ですが、これまでの経験を生かして、また医局員の皆さんに協力していただきながら、医局員全員が成長していけるような教室を作れるよう努力していこうと考えています。同窓会の先生方におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



麻酔管理学分野スタッフ

「就任のご挨拶」



福岡歯科大学
総合医学講座
眼科学分野
教授 大島 裕司

令和4年4月1日付けで、前任の川野庸一教授より引き継ぎ、眼科科長、教授として就任いたしました大島裕司と申します。福岡歯科大学同窓会の皆様へ心よりご挨拶申し上げます。

まずは自己紹介させていただきます。私は、平成5年に長崎大学医学部を卒業し、九州大学眼科学教室（猪俣孟教授）に入局し臨床、研究に従事して参りました。大学院修了後、平成12年から平成15年まで米国の Johns Hopkins 大学 Wilmer 眼研究所に留学、帰国後は別府医療センター、北九州市立医療センターに勤務し臨床に従事してきました。平成20年から28年まで九州大学眼科に戻り、石橋達朗教授、園田康平教授の下、臨床・研究・教育に努めました。その後、福岡大学筑紫病院、済生会福岡総合病院にて診療、研究に従事し、昨年度令和3年4月から当院に准教授として着任し、このたび教授に就任いたしました。

専門は眼底病変である網膜硝子体疾患で、特に加齢黄斑変性をはじめとする眼内血管新生疾患の診断・治療を中心に診療、研究に従事しております。網膜疾患の診断・治療はここ数年で大きな変革を遂げています。加齢黄斑変性、糖尿病黄斑症、近視生脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症などに対する抗血管新生療法は、めざましく発展しております。加齢黄斑変性は、中高年の中途失明の主要疾患で我が国でも失明原因の第4位の疾患です。症状はゆがんで見えたり（歪視）、視野の中央部が見えなくなる（中心暗点）などです。以前は治療困難な疾患で、放置すれば数年で重度の視覚障害をきたしてしま

たが、近年は抗血管新生薬療法によって視力維持が可能になってきました。外界の情報の7割は視覚から得ていると言われています。そのため、視覚の障害は Quality of life（QOL）に大きな影響を与えます。加齢黄斑変性による重度の視力障害（視力0.1以下程度）は、血液透析と同等の QOL 低下をもたらすと報告されています。当院でも積極的に治療を行い、少しでも多くの患者さんに見える喜びを長く感じてもらえるように診療を行っております。その加齢黄斑変性の治療の幅を広げるために、抗血管新生療法のみならず、光線力学療法（PDT）を行えるよう PDT 専用のレーザー機器の整備も行っております。また、加齢黄斑変性を含めた網膜疾患の高度な診療、治療を行うために共焦点レーザー顕微鏡も導入しております。

従来通り、白内障に対する手術治療、網膜剥離に対する手術加療、増殖糖尿病網膜症をはじめとする眼内増殖性疾患や黄斑疾患に対する網膜硝子体手術、緑内障に対する手術加療も積極的に行い、地域の医療に貢献していきたいと思っております。

最後に、浅学非才な身ではありますが、同窓会の皆様方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。一人でも多くの患者さんの視力を保つことができるよう福岡歯科大学眼科を作っていきたいと思っております。今後ともどうか、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



眼科スタッフ（2022年9月）

左から 中村陸医師、前原医師、私、中村まぐ医師

「教授就任のご挨拶」



福岡歯科大学
総合医学講座
整形外科学分野
教授 西尾 淳

令和4年4月1日付で福岡歯科大学総合医学講座整形外科学分野教授を拝命いたしました西尾 淳でございます。福岡歯科大学同窓会の皆様に心よりご挨拶申し上げます。

私は福岡県筑紫野市に生まれ、地元の小学校を経て長崎県の青雲高等学校を卒業後、福岡大学医学部に入学しました。平成7年に福岡大学医学部を卒業後、故緒方公介先生が主宰される福岡大学医学部整形外科教室に入局しました。その後、故 菊池昌弘先生、岩崎 宏先生（病理学教室）のもと大学院生として「骨軟部腫瘍の発生・進展にかかわる分子細胞遺伝学的特徴の解明」の研究に携わりました。大学院を早期終了後、ネブラスカ大学医学センターでBridge先生のもと「骨軟部腫瘍のゲノム解析による病態解明」の研究に約3年間従事しました。米国ではこれらの研究成果が認められ、Gladys Pearson Fellowship Awardを受賞しました。帰国後、平成20年4月より福岡大学医学部整形外科の骨軟部腫瘍班のチーフとして、安全でより良質な医療を提供できるよう日々取り組んでまいりました。

骨や軟部から発生する悪性腫瘍（肉腫）は内臓などから発生する悪性腫瘍（狭い意味での「がん」）と比較して発生頻度が低く、多数の組織型が存在します。そのため非専門施設では診断に時間を要したり、結果として不適切な治療が行われたりすることが珍しくありません。私は画像診断医・病理医と密に連携し、正確な診断を迅速に行うよう心がけてきました。また様々な部位に様々な組織型の腫瘍が発生するため、個々の症例に応じた最適な治療を提供

できるように努めてまいりました。近年高齢化に伴うがん患者さんの増加、がん医療の進歩による生存期間の延長に伴い、骨転移でお困りの患者さんが増えています。骨転移による疼痛、骨折や麻痺、高カルシウム血症は、原発巣や他の転移巣に対する治療の妨げになることが多く適切な対処が必要です。当科では骨の専門家として、手術、薬物、装具などの治療手段を駆使して原疾患の治療への影響を最小限に止め、元気にがん治療を継続できるためのお手伝いをしています。

皆様ご承知のように、福岡歯科大学は令和4年に開学50周年を迎えました。令和2年9月29日から新病院での診療が開始となり、それに伴い、手術室が広くなり清潔度が向上したため可能な手術の範疇が拡大しました。さらに令和3年5月より、院内にて骨密度測定が可能となりました。現在は教員3名で診療にあたり、専門の骨軟部腫瘍に加え、骨粗鬆症関連骨折（大腿骨頸部・転子部骨折、橈骨遠位部骨折等）の手術も行っています。また口腔外科をはじめ他科と連携して、入院患者の運動療法、作業療法を施行しており、リハビリテーション治療による機能回復、活動の改善にも取り組んでおります。今後は「がんリハ」にも積極的に取り組み、多様化する患者さんのニーズに応じて生活の質の向上に貢献することで、整形外科の運動器診療科としての認知度と存在価値をさらに高めるよう努めてまいります。

私事で大変恐縮ですが、現在も中学時代より始めた硬式テニスを友人と楽しんでやっています。テニスを通して、「忍耐力と謙虚さ」という2つの美德の重要性を再認識するようになりました。これらの美德はすぐに身につくものではなく、毎日の行いの中で身につける必要があることを学びました。忍耐強く、粘り強く、あきらめないことは医師としても必要であると考えています。皆様とご一緒にテニスをする機会がありましたら、その際はよろしくお願いいたします。

これからも、福岡歯科大学同窓会の皆様との連携を大事にしながら診療を行っていく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「就任のご挨拶」



福岡歯科大学
口腔保健学講座
口腔健康科学分野
教授 谷口 奈央

2022年4月1日付けで、口腔保健学講座口腔健康科学分野・教授を拝命いたしました。私は、2005年11月に総合歯科学講座総合歯科学分野に赴任し、福岡歯科大学医科歯科総合病院総合歯科・口臭クリニックで、総合的歯科診療と口臭診療に従事してまいりました。2015年5月に現在の口腔保健学講座に移ってからは、口臭診療業務に加え、学生教育に携わるウェイトがより大きくなりました。本講座は、1年の医・口腔医学概論、現代文明論、課題解決演習Ⅰ、2年の衛生学、口腔保健学Ⅰ、3年の口腔保健学Ⅱ、社会歯科学、口腔保健学実習、基礎研究演習、課題解決演習Ⅱ、4年の基礎・臨床統合演習、登院前実習、5年の臨床実習、統合演習Ⅰ、6年の統合演習Ⅱ、と全学年にわたって教育に関わり、基礎から臨床への橋渡しの役割をつとめております。またご存じのように、「衛生」は「口腔外科」となり歯科医師国家試験での出題数が多い領域でございまして、国試対策においても重要な責任があります。国試対策におきましては、近年の厳しい国家試験を合格した卒業生による経験に基づく教育が、学生にやる気と希望を与えると感じています。私が口腔保健学講座に移ったころは卒業生の教職員が1名もおりませんでしたが、現在は3名が本学の卒業生です。卒業生の活躍は国試対策のみならず、学生が将来像をイメージするためにも重要な存在ですので、彼らがその期待に応えられるように、活躍をサポートしていきたいと思っております。学生に寄り添う教育で国家試験の合格率アップを目指すよう、精進してまいります。

診療におきましては、本学に赴任してから17年

間、口臭診療に従事してまいりました。2020年秋に開院した新病院でも、総合歯科・口臭クリニックには口臭検査専用の診療室を設置していただいております。専用の個室を備え、日常的に口臭診療をおこなっている大学病院は他にはないと思います。同窓会の皆さまには、駆け出しの2006年に口臭診療について「背振」に執筆依頼をいただき、貴重な機会を与えてくださったことに心より感謝申し上げます。現在は、総合歯科学講座の米田雅裕教授とともに日本口臭学会の理事を務めさせていただいております。同窓会の皆さまには平素より患者さまをご紹介いただいておりますが、今後ともさらに盛んな連携を宜しくお願い申し上げます。来年度は第14回学術大会を6月3・4日に50周年記念講堂でおこないます。博多駅から直通となりますため、お時間ございましたら是非お越しください。

最近の話題といえば、「骨太の方針2022」に「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討」と明記され、国民にも歯科健診という言葉が浸透しつつあります。私は特に、妊産婦、大学生、労働者など若い世代への歯科健診・保健指導が法制化・拡充されることに大きな期待を寄せています。2020年秋の新病院開院に合わせて新設された、樗木晶子センター長の主宰される健診センターでは、構成員として口腔健診や学校歯科健診を担当しています。また、本年度より日本産業衛生学会に入会したところ、早速2024年の九州地方会学会の開催をお引き受けすることとなりまして、歯科医療関係者以外の会員からの産業歯科保健への熱い関心を感じております。これから関連職種や関係学会と連携しながら、国民の歯・口腔の健康を守る予防活動に一層精進を重ねていく所存でございます。

同窓会の皆さまには、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



「感謝」



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
障害者歯科学分野
教授 小島 寛

このたび定年を迎えることになりましたが、思えば18年前の教授選考意見発表会のときに当時の田中健蔵理事長から障害者歯科の今後の取り組みについて大所高所からの質問があり、自分が答える範囲を超えていると戸惑いながらもその場で思いついたことを口にしていました。実際に本学に赴任してから田中前理事長の偉大なる見識を知ることになるのですが、近づき難いオーラさえ感じました。病院長をしていた頃の私は、何かあったら腹を切らなければならないくらいの覚悟をもって4年間を過ごしていました。本当に緊張の連続でした。

水田祥代理事長には新しい障害者歯科診療室を作っていただき、深く感謝しております。診療室はすべて素晴らしいのですが、中でも医療面接のスペースは思い描いたとおりの機能的なものに仕上がったと満足しています。また、50周年記念講堂に続いて学園のほとんどの設備をリニューアルしていく大構想は夢にあふれており、いつの日か再訪してこの目で見てみたいと思わせるほど魅力的です。

赴任したばかりの頃、佐賀県歯科医師会の寺尾隆治先生には佐賀県の障害者支援事業に関与させていただき、たいへんお世話になりました。唐津の松尾憲篤先生はじめ佐賀県歯科医師会の本学OBの先生方にも親しくしていただきありがとうございました。講演会場への行き帰りに車を運転しながら眺める佐賀の晴天は最高でした。

長崎の宮口 厳先生とは理事会ほか福岡市内のいろいろな場面で一緒にいる機会がありました。話を聞いてみると、宮口先生の車はドラえもののどこで

もドアの次くらいに目的地にはやく着くようでした。いつも優しく接してくださってありがとうございました。

大分県の長尾博通先生、難波亮二先生をはじめ、同窓の先生方にはたいへんお世話になりました。思い出は、何ととっても大分のフグが日本一だと知ったことです。大分は魚も肉も野菜もしいたけも何でもおいしかったです。

沖縄の高嶺明彦先生には、当時の日本歯科医師会長であった大久保満男先生を本学に招いて口腔医学に沿った講演会を開催したときにお世話になりました。あるとき「仲介しようか」と言っていたいたのですが、それが現実になるとは規格外の力をお持ちだと驚愕しました。

福岡の神田晋爾先生とは学内の地域連携の会議で一緒にすることがありました。中 四良先生にもいろいろな場面でたいへんお世話になりました。退職が近づいたころには福岡県歯科医師会専務理事の川端貴美子先生とお話する機会があり、あふれ出るバイタリティーのお裾分けをいただきました。

以前は夏休み中に各地域の父兄と交流をもつ機会があり、九州・沖縄をはじめ東京、大阪、愛媛などへも行きました。ご当地の美味しいものでおもてなしを受け、大学教授をこんなに大切に思ってくくださるのかと毎回申し訳ないくらいのありがたさを感じていました。ご父兄の皆さま、OBの皆さま、たいへんお世話になりました。

学生との交流も強く印象に残っています。ゴルフ部の部長を引き受けてオールデンタルの引率者として応援に行ったときには、何で大学生の引率などしなくてはいけないのか、もう十分に大人ではないかと思ったものです。しかし、実際に行ってみると、これが楽しかった。学生との素晴らしい交流を経験することができました。その後、ソフトボール部の部長への鞍替えがありましたが、学生たちはみな好青年ばかりでした。関わりをもった部活では学生たちが目標をもって自主運営をしている姿を見て、頼もしささえ感じました。今では立派な歯科医師として活躍していることと思います。

我が家でご飯を食べる会を開いたのもよい思い出

です。近くのスーパーでもらった500円買い物券が3枚たまったときに使い道を考えたのですが、その当時単身赴任中だった私は悩める学生を家に誘ってふたりですき焼きを食べることにしました。それがきっかけとなり、北海道の食材を取り寄せては家で食事会を開くとゴルフ部やソフトボール部の学生が来てくれました。医局員も何度も招きました。楽しい時間をありがとうございました。

かぎられた紙面では紹介しきれませんが、福岡で過ごした18年間にいろいろな方々と出会い、親しくさせていただきました。こうして定年を迎え人生に一区切りをつけることができたのも、多くの方々の支えがあったからこそです。これまでのご厚誼ご厚情に対しまして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「アクセプトを求めて。齟齬と… —定年退職のご挨拶—」



福岡歯科大学
口腔医学研究センター
教授 大野 純

同窓会の諸先生方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、2023年3月末で定年退職を迎えることとなりました。誌面をお借りして、ご挨拶をさせていただきます。

私は2001年4月に、谷口邦久教授の生体構造学講座・病態構造学分野に講師として着任させていただきました。谷口先生とは、留学先がカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）と同じで、よくキャンパス内の駐車場で愚痴を聞いて頂きました。お付き合いは、その時から始まり本学にお誘い頂き、教育・病理診断・研究に従事させて頂きました。まず、病理診断では“術中迅速診断”業務のシステム化でした。前施設においても、自ら凍結標本を作製して迅速診断をしていましたので、比較的スムーズに実践することができました。口腔病理専門医として病理診断に関わりましたが、赴任当初は診断数はあまり多くありませんでしたが、珍しい病変がポツリポツリと現れて快い興奮を覚えながら診断したことを思い出します。また、九州大学・口腔病理学教室の坂井教授にご指導いただき約30例の剖検をさせて頂き、病理学の研鑽を積ませて頂きました。2013年に細胞診専門医となり、口腔細胞診に関わらせて頂きました。口腔細胞診は難しい、と囁かれていて、数多くの口腔細胞診・診断基準などについて九州各地で講演をさせて頂きました。そのお陰で、九州各県から細胞診標本が送られて来て、診断を致しました。

学部学生の教育に関しては、学生の病理組織像への苦手意識を無くして欲しいということでした。実

際に、実習において直接ガラス標本に接しているわけですが、学生にしてみると、全く同じ像であれば答えることができるけど、違う標本からでは分からなくなる、という感じでした。それで考えたのが、病理組織像シャワーを学生に浴びせる、との授業を組んでみました。まずは、病理実習の中で、「EBM型実習」という項目を入れてもらいました。内容としては、基本的には問題形式で、選択肢に病理組織像を入れて50題くらい解かせるものでした。同じような内容を4年生CBT対策、そして6年生での国試対策でも行いました。解説の時には、病変診断の病理学的根拠は1つあるいは2つしかない、と強調しました。また、病変の中には“一発問題型病変”がある、つまりこの組織像が出たらこれしかない！という病変グループを教え込みました。ただ、初めは私自身も効果が得られているのか？不安を感じながら進めていましたが、ある6年生の対策講義で、全くの応用した“引っかけやすい”難問の病理組織像を出題しました。案の定、多くの学生は引かかりました。しかし、一人の学生はきちんと「粘表皮癌」と結びつけました。その時には、少しは効果が出ている、と実感し嬉しくなりました。学生教育では、6年生の補講も多く担当させて頂きました。とくに、追い込みの時期での授業では、「これは覚えなくてよい！」、「この病変を答えさせる時には、この組織と細胞が必ず目立つように出ている」などというポイントを絞り込みました。このような病理学授業の準備及び実際の授業を通じて、病理学はやはり面白い、病理学に進んで幸せだった、としみじみと思いました。

研究については、前施設で行っていた臨床材料を用いた口腔粘膜病変の免疫組織学的解析と実験動物モデルによる口腔粘膜GVHD病変の病態発症及び進行の機序について進めました。“水が変わると結果も変わる?!”などと冗談よく言われますが、初めは全く期待している結果が出ずに研究沈没の状態でした。とくに、動物モデルで以前ほどの病変進行がみられずに、条件の検討などに苦労をしました。そんな焦っているところに、生体工学の福島先生から動物実験の病理組織像を検討して欲しい、との依頼

があり一緒に実験などを始めました。これが、私の再生研究のスタートとなりました。“骨分化誘導”をテーマとした福島グループに入れて頂き、お尻を叩かれながら、データを出して行きました。また、谷口先生からも院生の共同指導を依頼されて、自分のテーマと再生テーマと忙しくなりました。しかし、とても充実した研究生活となりました。こうして、福島塾では、とにかく論文を書け！ が合言葉で、論文書きの遅い私は、いつもハッパを掛けられていました。不思議なもので、実験で忙しくなると、私のテーマの方もデータが出て来て、論文を書けるようになりました。この頃から、臨床系から多くの大学院生を引き受けるようになり、益々忙しくなりましたが、さらに楽しい研究生活となって行きました。院生を引き受けると、必ず論文を仕上げなければなりませんので、怠け者の私には、とてもよい起爆剤でした。院生指導で心掛けたことは、希望者には留学、奨学金を取る、そして卒後助教になってもらいたい！ という3つでした。でも、一番は投稿論文が採択されること、です。研究は、「アイデアを実現させるために方法を組み立てる時にワクワク

クして、結果をみて興奮して、論文書きではイライラして、decision mail にドキドキする」繰り返してした。私の場合は、decision で rejection も多く経験しています。でも、revision となった時、あまりの reviewers からのコメントの多さあるいは厳しい指摘に凹んでしまうこともあります。そこは、何とか通そう！と奮い立たせて、データを追加したり返答を書いて revised manuscript を submit します。それから、その journal の status を毎日みて、いよいよ来る、と心の準備をします。そして、“accepted”を decision mail に見つけた時の喜びは！ ほとんどの同級生が開業したけど、私はこの道でよかった……と実感します。結局、このアクセプトが欲しくてやって来た研究生活だったようです。

このような楽しい22年間を本学で過ごさせて頂きましたが、皆様のご支援のお陰で無事に勤め上げることができました。最後になりましたが、同窓会の益々のご発展と会員の皆様の方々の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

「教授および 学科長就任のご挨拶」



福岡医療短期大学
歯科衛生学科
学科長・教授
松尾 忠行（13期）

平成31年4月1日付けで福岡医療短期大学 歯科衛生学科教授および令和4年1日付けで同学科長を拝命しました松尾忠行です。

卒業後、平成11年8月31日まで予防歯科学講座（現 口腔保健学講座）でしたが、同年9月1日より歯科衛生学科に配置換えとなり、短大教員生活も現在23年目となりました。

福岡歯科大学同窓会の皆様には大変お世話になっております。23年目ともなりますと、同窓生の皆様のご息女の中にも、本学歯科衛生学科にご入学・ご卒業される機会が多くなりました。

改めて、本学の特徴と言いますと、教育の面では「専門学校時代の流れを踏襲した、面倒見のよさ」と「福岡歯科大学、福岡看護大学をグループ校にもった、大学としてのレベルの高い教育環境」を併せ持つ短大であると自負しております。

本学は3年制で国家試験合格率はほぼ100%であり、就職先も、一般歯科医院・総合病院・高齢者施設・企業・行政・歯科衛生士養成機関などニーズが高く、求人倍率も15倍と好調です。また、専攻科（1年制）も有しており、養成期間内に専攻論文を作成し、独立法科大学評価・学位授与機構に論文が受理されると、4年制大学と同じ4大卒の学士（口腔保健衛生学）を取得できます。令和3年度までの学士取得者数は267名にのぼります。

研究の面では、平成29～31年に採択された文科省私立大学研究ブランディング事業の研究部門（口腔機能管理・栄養改善・運動機能維持向上・社会資源創出）の成果をさらに発展させる計画です。さら

に、福岡学園が提唱している、口腔医学基盤とする研究としてあらたに、松尾が研究代表者として「口腔マイクロバイオーームと全身疾患の研究」を令和5年4月よりスタートさせます。中間成果を令和5年福岡歯科大学学会総会で報告できたら、と思っています。

臨床の面では、令和4年5月より毎週月曜日の終日、短大教員が医科歯科総合病院3階の「総合診療」を担当するようになり、当該診療はもとより、短大3年の臨床実習の状況も把握でき、有意義な時間を過ごしています。

最後に、令和7年度施行予定の「国民皆歯科健診」により、今後、歯科医師、歯科衛生士の需要が高まると予測され、「口腔の健康を通して、全身の健康を推し量る」事ができる歯科医師、歯科衛生士が国民から重要視される時代が近い将来やってきます。

歯科衛生士養成機関の教員として、「口腔医学を実践できる、患者に寄り添うことができる」歯科衛生士を今後も育てていきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

なお、下記のイラストは、将来の福岡学園のランドデザイン構想（案）です。

まだ6～7年先ですが、短大は、口腔歯学部と同じ建物に入る予定です。



歯科大本館と短大2026

「臼歯部欠損症例に対するインプラントを用いた固定性補綴処置」



福岡歯科大学
咬合修復学講座
冠橋義歯学分野

講師 山口雄一郎 (32期)

1. はじめに

臼歯部を含む多数歯欠損により咬合支持域が減少すると、咀嚼障害だけでなく、残存歯の挺出や傾斜を起因とする咬合性外傷による歯の予知性の低下を引き起こし、さらなる歯の喪失を引き起こす可能性がある。インプラントを用いた欠損補綴歯科治療は、失った咬合支持域と咀嚼機能を回復する手段として有効であり、広く普及している。しかし、インプラントは天然歯と違い歯根膜がないため、生体力学的に過大な応力が発生する可能性が高く、より慎重な術前の治療計画と術後の管理が必要となる。さらに、夜間のブラキシズムや日中の上下歯列接触癖（TCH；Tooth Contacting Habit）の傾向が認められる症例では、上部構造の破折や、顎関節症の発症を防止するために、適切な患者指導およびナイトガードを使用するなどの対応も考慮すべきである。今回、上顎臼歯部欠損に対してインプラント支持による固定性補綴歯科治療を行った症例に関して、術前の治療計画と治療内容、術後管理について紹介する。

2. 症例解説

〔患者概要〕

患者：65歳の女性。

初診日：2015年4月3日

主訴：仮歯が何度も壊れて、奥歯で硬い食べ物が咬めない。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：初診日の10年以上前に、他院で下顎両側臼

歯部にインプラントを用いた補綴治療を受けていた。上顎には、初診時全ての残存歯を支台としたテンポラリーブリッジが装着されていた（図1）。低い審美性と違和感の大きさから部分床義歯ではなく、インプラントによる治療を希望し当院を受診した。



図1 初診時口腔内写真

現症：上顎のテンポラリーブリッジは以前から破折と脱離を繰り返しており、咀嚼が困難であるとの訴えがあった。下顎臼歯部の硬質レジン前装冠の咬合面の一部には咬耗が認められ、メタルフレームが一部露出していた。＃25のインプラント体は重度の周囲炎により動揺を認め、疼痛を訴えていたため初診時に除去した。

検査結果：全顎的にプラークコントロールは良好で、歯周組織検査では唇側中央に4 mmの歯周ポケットを認めた上顎左側犬歯以外の部位は全て3

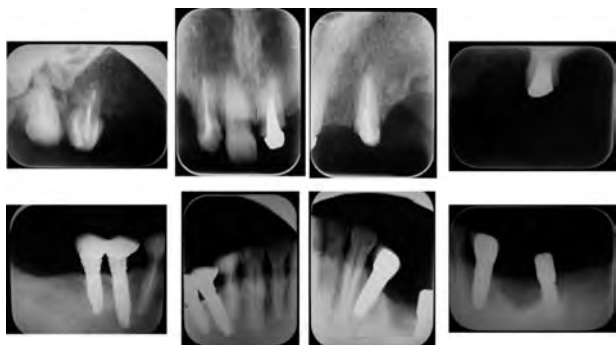


図2 初診時デンタルX線写真

mm 以下で、残存歯に動揺はなかった。初診時のデンタルX線写真上で、#16, 17の根尖部にエックス線透過像を認めた(図2)。現在歯数は14本で、咬合支持は Eichner 分類では Class B4 だった。治療前後の咀嚼能力を山本式咀嚼能率判定表(咬度表)で評価し、主観的な患者満足度を Visual analogue scale (VAS) を用いて評価した。VAS による質問票は100mm の直線的一端を「まったく満足していない=0」、他端を「とても満足している=100」と設定した。

診断：上顎多数歯欠損に起因する咀嚼障害と診断した。(公社)日本補綴歯科学会の部分歯列欠損の症型分類による難易度は Level III だった。

[治療方針および計画の立案]

本症例の主な問題点として、①臼歯部に咬合支持がない状態(Eichner 分類:B4)による度重なる暫間補綴装置の破損、②日中の上下歯列接触癖(TCH; Tooth Contacting Habit)と夜間のブラキシズムの疑いが挙げられた。①を考慮した上での最終補綴装置として、ブリッジの適用は支台歯の数が不足しており、力学的安定性に欠けるため不可能と考えられた。したがって、外科的侵襲のない可撤性部分床義歯による治療とするか、外科的侵襲はあるが積極的に咬合支持域を増やし咬合を安定させるためインプラントを用いた固定性補綴処置とするかを、それぞれの利点・欠点を十分に説明し、患者は後者を選択した。②に対しては、TCH 軽減のために患者指導を行い、夜間のブラキシズムに対しては補綴治療終了後にナイトガードを装着することとし



図3 診断用ワックスアップ

た。治療計画に対する同意を得た上で、歯周基本治療と口腔衛生指導を開始し、初期治療終了後の診断用模型に診断用ワックスアップを行い(図3)、CT を撮影した。シミュレーションソフトウェアを用いてインプラントの埋入位置や本数の検討を行い、その後インプラント支持による固定性補綴治療および上顎前歯部と下顎左側小白歯部の残存歯と既存のインプラントに対する固定性補綴治療を行い、メインテナンスに移行することとした。

[処置内容]

2015年11月に外科用ガイドプレートを用いて 543|456 相当部にインプラント埋入手術(Nobel Replace CC[®], 54|45 部: $\phi 3.5 \times 11.5\text{mm}$, 3|6 部: $\phi 4.3 \times 11.5\text{mm}$)を行った(図4, 5)。その際に、#23唇側に垂直性歯根破折を認めたため、患

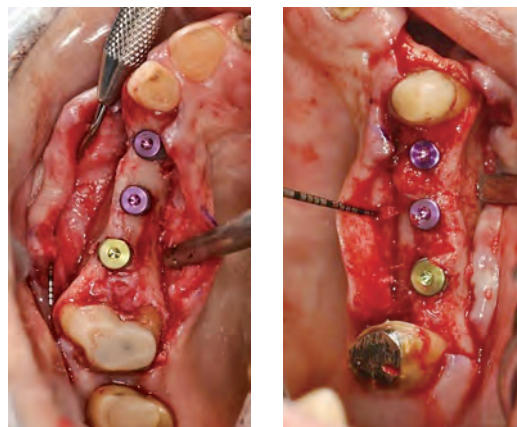


図4 543|456 インプラント埋入時口腔内写真



図5 543|456 インプラント埋入後パノラマエックス線写真

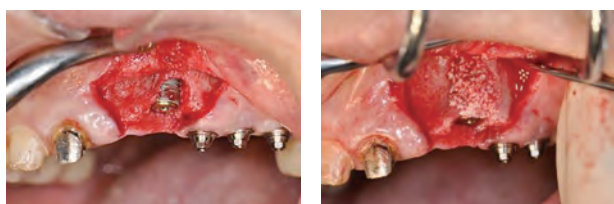


図6 3 インプラント埋入時口腔内写真



図7 3 インプラント埋入後パノラマエックス線写真

者の同意を得た上で後日抜歯し、追加埋入を行うこととした。免荷期間中は、上顎残存歯を支台とした暫間補綴装置を装着した。543|456 相当部の二次手術と同時に#23の抜歯およびソケットプリザベーションを行った。6カ月後に#23にインプラント埋入手術（Nobel Replace CC[®], φ4.3×11.5mm）を行った（図6, 7）。#23の免荷期間中、543|456のインプラントを支持とした暫間上部構造を製作・装着した。#23の二次手術終了後に、上下顎臼歯および上顎前歯部に最終的なプロビジョナルクラウンおよびブリッジを装着した（図8）。#16, 17は根分岐部までの垂直性骨吸収と根尖部の透過像を認めたため、保存不可と診断し抜歯を行った。咬合状



図8 暫間上部構造装着時口腔内写真

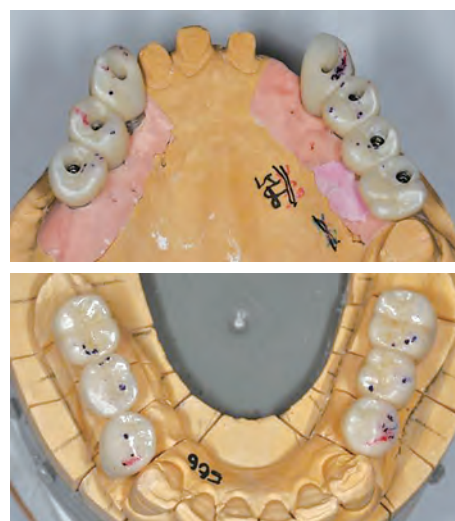


図9 上下顎ジルコニアフレーム試適時の臼歯部咬合接触点

態、清掃状態、発音および咀嚼機能に問題が無いことを確認し、最終上部構造製作に移行した。2018年2月に543|3456にスクリュー固定式のモノリシックジルコニアクラウン（MZC）の連冠を、65にセメント固定式のMZC連冠を、456にセメント固定式のMZC中間ブリッジの製作・装着を行った（図9, 10）。他の残存歯に対しては、21|12にジルコニアフレームに陶材を築盛したオールセラミックブリッジ（#22延長ポンティックの延長ブリッジ）を（図11）、#44にMZC単冠の製作・装着を行った（図12）。



図10 完成した臼歯部最終上部構造



図13 3年経過時の口腔内写真

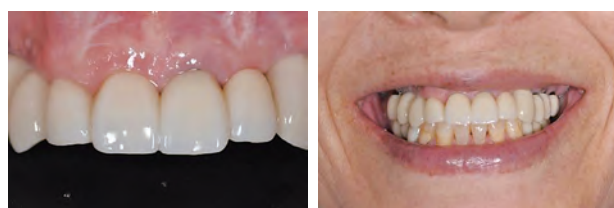


図11 前歯部最終上部構造装着時の口腔内写真と顔貌写真



図14 3年経過時パノラマエックス線写真



図12 最終上部構造装着時の口腔内写真

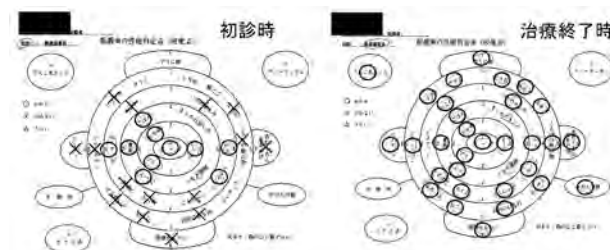


図15 山本式咀嚼能率判定表（咬度表）

[術後の経過]

最終上部構造の保護の目的で、加熱重合型義歯床用アクリル系レジンを用いた厚さ1.5mmのナイトガードを製作し、就寝時に装着するように指導した。3カ月毎に定期的なメンテナンスを行い、インプラント周囲組織の検査、スクリューの緩み、咬合および清掃状態の確認を行っている。現在4年6

カ月が経過しており、機能的・審美的に患者の高い満足を得ている（図13）。デンタルX線写真上で#14のインプラント周囲に垂直的な骨吸収像を認めたため、支持療法を行い、良好な経過をたどっている。その他のインプラントの周囲に著明な骨吸収像は認められない（図14）。

治療前後の咬度表から咀嚼能力の向上が認められた（図15）。VASによる評価に関しては、術前のスコアが0だったのに対し、術後のスコアは100に向

上していた。

3. まとめ

本症例では初診時、臼歯部の咬合支持の皆無（Eichner 分類：B4）に起因した暫間補綴装置の破損により咀嚼機能が低下していた。プロビジョナルクラウンを一定期間装着することで、患者の口腔内に適した顎位、咬合状態、清掃性および審美性を確認し、クロスマウントにより暫間上部構造装着時の顎間関係、アンテリアガイダンスおよび歯冠形態を可及的に最終上部構造へ反映できた。初診時および暫間上部構造装着時に臼歯部の咬合面に咬耗が認められ、日中の TCH と夜間のブラキシズムが疑われた。インプラント体への側方力を軽減するために、偏心運動時には犬歯誘導咬合を与え、インプラント周囲歯肉への生体親和性、審美性、前装のチッピングなどの合併症を考慮し、本症例では MZC を採用した。

＃14は最終補綴装置装着後1年経過した時点で、インプラント周囲に垂直的な骨吸収像を認めた。CIST を基にした支持療法¹⁾により対応し、良好な経過をたどっているが、今後周囲炎の進行によりインプラント体の撤去が必要となった際には、追加埋入あるいは上部構造の再製作を行うことで同意を得ている。

本症例では、術前の診断用ワックスパターンで形成された咬合平面から右側大臼歯部のデンチャースペースの不足が予想され、対合は＃45相当部のインプラントまでしかなく、あえて大臼歯までの咬合再構成を考えず、短縮歯列²⁾を適用した。幸い予想

通り、治療前後の咬度表および VAS に示されるように、患者立脚型アウトカムによる患者の主観的評価により、明らかな咀嚼機能の向上と高い患者満足度を得ることができた。短縮歯列の場合、TCH が天然歯や補綴装置の破損、顎関節症発症のリスクとなる可能性を患者に説明し、日中は非機能時の歯の接触を避けるよう指導を行い、夜間は硬性のナイトガードを使用することで、天然歯、補綴装置ならびに顎関節に関するトラブルの予防に貢献できたと思われる。現在のところ、最終補綴装置に問題は起きていない。今後も長期的な管理を行っていく予定である。

臼歯部の咬合支持を失った症例に対して、インプラントを用いた固定性補綴歯科治療を行うことで、長期的に良好な経過を得ることが出来た。多数歯欠損症例におけるインプラント支持の固定性補綴装置を用いた欠損補綴処置は、術前に患者の咬合習癖も考慮した上で治療計画の立案を行い、基本に忠実な補綴歯科治療の遂行と術後管理が重要であると思われる。

文献

- 1) Lang NP, Berglundh T, Heitz-Mayfield LJ, Pjetursson BE, Salvi GE, Sanz M.
Consensus statements and recommended clinical procedures regarding implant survival and complications.
Int J Oral Maxillofac Implants 2004 ; 19 : 150-154.
- 2) Käyser AF. Shortened dental arches and oral function. J Oral Rehabil 1981 ; 8 : 457-62.

「睡眠歯科学と呼吸法のすすめ」



ひゃくだ歯科・ファミリークリニック

院長 百田 昌史（5期）

睡眠指導と呼吸法を診療に取り入れよう！

このたび拙著ですが「歯科医だからわかった睡眠呼吸障害の治し方」（現代書林）を上梓いたしました。あまり知られていない、病いの起源ともいわれる「睡眠呼吸障害」の話です。

自らの7年前に発症した謎の睡眠障害・呼吸障害を経験し、内科医に一番突然死をするタイプと警告され、研究研鑽を重ね、この本の出版に至りました。今思えば口腔機能低下による睡眠時の呼吸障害：睡眠時無呼吸症候群の大きないびきをかかないバージョンで上気道抵抗症候群、舌骨低位症候群、睡眠呼吸障害、それらに伴う鼻炎、喘息、高血圧、不整脈、胸痛、横隔膜の攣縮、肩こり、頭痛、吐き気などの自律神経失調症と様々な症状を経験しました。

このような睡眠・呼吸・口腔機能低下（オーラルフレイル）は今後の歯科界において、歯周病など同様に全身との関わり大きな分野となります。

健康とは身体に良い食材を適度に採り、無理のない有酸素運動をして、骨休みになる休養（特に睡眠）をとることと考えます。

人生の1／3は睡眠人生です。この睡眠時の呼吸の質が良質であれば良い休養となり骨休みとなります。睡眠の質の向上は健康長寿の一つの条件です。

是非 皆様に知って頂きたい健康法です。

拙書ではございますが、ぜひご購入頂けたらと思います。



「歯科医だからわかった睡眠呼吸障害の治し方」

上記の文章は今年の8月に Facebook に投稿した私の本の出版を紹介した文章です。

お陰様で Amazon の歯の医学で1週間ほどベストセラー1位になりました。



顔も変わる 舌の密着化（タングアップ）をした顔写真

1. 自己紹介

誠に唐突にすいません。福岡歯科大学同窓会の皆様、改めまして、私は5期卒の百田昌史^{ひゃくだまさし}と申します。現在64歳で、卒業後40年も経過しました。同窓会役員の方には、いつもお世話になるばかりで恐縮いたします。私は生まれ故郷、玄界灘の孤島壱岐の島に帰り、開業34年目になりました。壱岐の島は長崎県に属し、長崎県歯科医師会、福岡歯科大学の長崎支部の歯ってん会の皆様にもお世話になっています。長崎県歯科医師会の傘下にある壱岐市歯科医師会は少人数のため若い頃から役員となり、それなりに役を勤めて参りましたが、歯ってん会（同窓会の長崎県支部）は幽霊会員に近くこちらも誠に申し訳なく思っています。

その私も年齢も進み昨年より壱岐市歯科医師会の会長を仰せ使って壱岐島の皆様の歯科保健を始め、歯科医師会の会員の方の代表として微力ですが会務に励んでいます。

その私がこの度「歯科医だからわかった睡眠呼吸障害の治し方」（現代書林）を上梓しました。自ら発症した病での経験の事を本として出版をさせていただきました。

2. 本の出版に至った経緯 自分の病

ここからは私の病の話です。7年前の2015年の秋ごろから診療中に度々、息苦しくなり診療中に胸痛と頭痛で診療が出来なくなり、患者さんの合間をみて休み休みの診療をしていました。血圧を図ると収縮期が160から180、拡張期も90から100、心拍数も120、130となり、そのまま年末まで歯医者者の不養生で放置した状態でいました。

年末も迫る12月年の瀬も迫る29日の夜中、就寝中に突然、息苦しさで目が覚めたのです。心臓はドキドキと鼓動を打ち、しばらくすると落ち着いたのですがその時はホッとしました。しかし、これがこの後、約数年間にわたる「睡眠呼吸障害（SDB: Sleep-disordered breathing）」との闘いの幕開けになろうとは、想像もしていませんでした。

睡眠呼吸障害とは睡眠時に呼吸が停止したり（無呼吸）、弱くなったり（低呼吸）することで身体に



③壱岐島 芦辺町の清石浜（くよしばま）

悪影響を引き起こす病気を言います。

なお、皆さんご存知の「睡眠時無呼吸症」は睡眠呼吸障害の一部です。

睡眠時無呼吸症はその名の通り、寝ている間にたびたび気道が閉塞して無呼吸になり、日中の眠気などに悩まされる病気です。しかし最近では、睡眠時無呼吸症の診断基準に当てはまらない患者さんの中にも、正常な呼吸が障害され、そのことでさまざまな症状を引き起こしている人が子どもから大人まで、想像以上に多いことがわかってきています。

むしろ、無呼吸がほとんどなく、いびきも目立たないために家族も気づきにくく、日中の体調不良だけが突出してしまうため、「何かを受診すればいいのだろうか？」と悩み、さらにさまざまな科で原因がわからず、「ドクターショッピング」してしまうケースが問題になっています。

こうした背景から睡眠時無呼吸症も含め、広く「睡眠呼吸障害」という名称で、診療、治療をするようになってきています。

私の場合もまさにこうしたケースで、さまざまな不調の原因が睡眠呼吸障害に関係しているとわかるまで、6ヶ月以上の時間がかかりました。睡眠時無呼吸症があったのですが、いびきはほとんどなく、無呼吸頻度も少なかったからだと思います。

私が最も症状のひどい頃、あいうべ体操を広めたことで有名な今井一彰先生をたまたま壱岐市の歯科医師会で呼びし、口呼吸の弊害、鼻呼吸の大事

さを知りました。私の睡眠呼吸障害に関係ありそう
なことが分かってきました。

世界で初めて IgA 腎症のある患者さんの扁桃を
摘出することで治した堀田修先生（腎臓内科）が会
長を務められる日本病巣疾患研修会にも入会しまし
た。

ちなみに睡眠呼吸障害は睡眠研究で有名なスタン
フォード大学のギルミノ教授がいわれる「上気道
抵抗症候群」や日本歯科大学名誉教授で初代顎関節
症センター長の丸茂義二先生^{まる も よしつぐ}の「舌骨低位症候群」
なども含まれます。

3. どういう病気か

舌や口蓋垂や軟口蓋、甲状軟骨のさがり、副鼻腔
炎、鼻炎、鼻中隔湾曲症、アデノイド、口蓋扁桃肥
大、首の周りの脂肪や筋肉のサルコペニアなどに
よって気道を狭窄して無呼吸、低呼吸になって呼吸
障害だけでなく、COPD や喘息、はたまた高血圧、
不整脈、動悸、さらに循環器まで及び狭心症、心筋
梗塞、心房細動、大動脈破裂、突然死にも及ぶ危険
な病気です。サルコペニアや炎症と内臓脂肪による
物理的解剖学的な気道の狭窄が原因です。病の起源
とも言われます。

4. 診断法として

内科、呼吸内科、耳鼻咽喉科等では、「無呼吸低
呼吸指数」があり、5～15が軽症、15～30が中等
症、30以上が重症とされます。終夜睡眠ポリグラフ
検査（PSG 検査）で AHI20以上で CPAP 療法（経
鼻的持続圧呼吸療法）がありますが、それ以下の軽
症や中等症は歯科で作成するスリープスプリント
（OA：オーラルアプライアンス）等のケースとな
ります。

以前から、小児歯科医、矯正歯科医の中には舌筋
の位置が悪いものは歯列不正、不正咬合となること
がわかっていました。またその子どもたちがいびき
をかかなくなる者がいることも知られていました。
この病の大元は舌筋の位置的問題や衰えが関係して
います。



終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）を受ける



下顎前方移動型のマウスピース（スリープスプリント）

そういう口腔育成や予防矯正などの研修会にも参
加します。マウスピースで舌の位置を修正する予防
矯正をする考案者に睡眠を教えてくださいとお願い
するとその先生から、「それは百田先生がやったが
良い」と言われました。

その後、恒志会という故片山恒夫先生のお弟子さ
んから構成される勉強会を知ります。全身を診て歯
周病などを治す「恒志会」という勉強会に出会いま
した。お弟子さんというけど、私より10年以上の先
輩の先生が主です。片山先生は、私が学生だった40
年以上前に呼吸法、栄養などを考えて、う蝕や歯周
病の治療をしてあったようです。口腔と全身の研究
を一早くから行われていました。

その研究会で講演されたある講話が、茨城県睡眠

センター長の土井永史先生の講演なタイトルが「睡眠呼吸障害」だったのです。土井先生は熊本の出身で鹿児島ラサール高校から東京大学医学部出身の精神科医です。

私の呼吸内科の主治医は「いびきをかくでしょう？」と言われるけどいびきは大してかかないので納得いきませんでした。しかし、この土井先生の講義を聞いていびきをかかない、症状のない睡眠呼吸障害がありことを知りました。

そのあと、睡眠歯科学会にも入会しました。その中のポスター発表の中に小児歯科で行われているMFT（口腔筋機能療法）が睡眠呼吸障害に効くと研究がありました。

5. 口腔を扱うもの（歯科医）がわかりやすい病

- ① eラインやオトガイと甲状軟骨の最下点とのライン、気管内挿管のマランパチ分類や首のまわり（40センチ以上）などが目安になります。
- ② 舌と咬合平面との位置関係、舌尖の位置、舌の大きさ、口腔に舌の占める容積
- ③ オーラルフレイルのパタカ検査（舌圧検査）など歯科医が最も日常に注意して観察しとけばわかるものです。
- ④ ユニットを倒して鼻呼吸が出来ず、むせてしまう人、比較的長めのチェアタイムに耐えられない人など歯科医なら理解しやすいかと思えます。
- ⑤ 毎回治療中に眠りに入る人

健康長寿の条件として舌筋を始めとする口腔筋は、大腿筋に匹敵するくらい大事です。呼吸と関係し、循環器にも影響します。

6. オーラルフレイルはフレイルの前駆症状として認知されつつあります。

現在オーラルフレイル予防として、口腔リハビリテーション（口腔リハ）などに口腔筋機能療法また口腔ケアとしての口腔清掃の必要性が周術期などにおいて重要視されています。しかし、口腔筋機能療法は誤嚥性肺炎の予防だけじゃ無く、病の起源となる睡眠呼吸障害の治療となり、大きな健康貢献とな

るのです。

私は睡眠指導そして呼吸法指導 姿勢調整 口腔育成から（迷走神経）体幹育成と歯科学には医学として大きく広がる可能性を感じています。

7. 壱岐の主治医（病院院長）の九州大学医学部卒の内科医にも最近、壱岐区域地域医療構想会議で壱岐市歯科医師会の代表として、お会いしたときに本の出版を褒めていただきました。

最後に私が書籍の出版を Facebook で投稿したとき、あいうべ体操を広められた先述の内科医 今井一彰先生が即座に紹介文を書いて頂いたものです。（ちなみにこの文章の掲載は事前にご本人に了解を得ています）

これから歯科医療は、睡眠障害治療分野へさらなる貢献をしていくことが予想されます。

SAS（睡眠時無呼吸症候群）という言葉が一般の方も知ようになり、医療機器であり人工呼吸器でもあるCPAP（持続陽圧呼吸療法装置）が普及してきました。

ところが、CPAPを導入するにはいろいろと要件があり、まず重度のSASと診断されなければなりません。

では軽症、中等症の場合はどうなるのか、重症になる前に食い止めることができれば、患者さんの負担も減るわけです。

たとえ中等症であってもあいうべ体操のような口腔体操や就寝の際のマウステープで改善できますが、口腔内装置もとても大きな役割を果たします。

降圧効果においてもCPAPと口腔内装置ではそれほど遜色がありません。

この本の著者である百田先生は、現在は壱岐市歯科医師会の会長です。

百田先生はながらく呼吸苦、睡眠時の呼吸困難に襲われていました。いろいろな検査をするも原因がわからずどんどん心身ともに疲弊していきま

そこへたまたま私が壱岐市へ講演に呼ばれ、慢性上咽頭炎や口呼吸のお話をしたところ、「これだ」ということでそれから熱心に、精力的に様々なことを学ばれて「歯科医だからわかった睡眠呼吸障害の治し方」を発刊するに至りました。

睡眠障害は、大袈裟で無く人生の一大事です。SASの治療では、CPAPの前に口腔内装置をお勧めします。医師の紹介状があれば健康保険で作成できます。私も積極的に紹介して、CPAP導入にならず改善したケースがたくさんあります。

CPAPで救われる命もありますが、そこに至らせないようにする方法もたくさんあります。私は歯科治療からの睡眠治療のますますの発展に大きな期待を寄せています。

百田先生、素晴らしい本の出版おめでとうございます。

Facebookのコメントで数分の間で書かれた返しの文章です。さすが本を何十冊も書かれた人は語彙力が違います。

現在、私の臨床は、睡眠以外にも呼吸法の指導として鼻呼吸や腹式呼吸やボーア効果を見込んだ二酸化炭素(CO₂)を呼気に増やす「息を止める呼吸指導」などに興味を持っており、壱岐の患者さんに睡眠衛生指導と呼吸法訓練を取り入れた診療で島民の健康長寿に貢献したいと考えています。

故田中健蔵理事長の言われる「歯学から口腔医学へ」の一つアイテムとして睡眠歯科学をお勧めしたいとも思います。ぜひその入門書として我が拙著「歯科医だからわかった睡眠呼吸障害の治し方」を読んで頂いたら嬉しく思います。手前味噌ですが、結構タイムリーな出版となり、舌学のマニアには話題となっているようです。

睡眠医学はアメリカのスタンフォード大学が世界的に有名ですが、日本のスタンフォードを福岡歯科大学が目指すのも良いのではないかと考えます。



睡眠 呼吸 舌の本

福岡県西

「福岡県西同窓会会長
就任のご挨拶」福岡県西同窓会
会長 持山 達郎（13期）

福岡歯科大学同窓の先生方、大変ご無沙汰しております13期生の持山達郎でございます。

この度、中田 宏会長の後任として2022年7月より第10期福岡県西同窓会、福岡県地区会会長を拝命致しました。紙面からではございますがご挨拶申し上げます。

2020年1月から世界中が新型コロナウイルス感染症により多大なる影響を受け、それまでは想像もしていなかった3年が過ぎようとしています。我々歯科業界も大きな影響を受け、この状況を脱するべく暗中模索に明け暮れた期間だったと思います。

同窓会活動の目的の1つに、同窓生間の親睦・懇親がありますが、コロナ禍の現在、その在り方が問われる時代になったと思います。最近やっとリモート等を上手く活用し会議を行う事にも慣れて来たの

ですが、本当にリモートで懇親が取れるのか、疑問を抱いておりました。そんな時に、10月22日、九地連（九州歯科医学大会）が3年ぶりに鹿児島県で開催されました。福岡歯科大学同窓会懇親会は、鹿児島県同窓会 要 光会長のリーダーシップのもと対面で開催され、出席人数制限等、コロナ感染症対策にご配慮頂き、準備から開催にかけ大変なご苦勞をなさったと思います。大学からは福岡学園水田祥代理理事長、高橋裕学長をはじめ多くの先生方にご出席頂き、ご祝辞も頂戴し盛会裡のなか、大変有意義で楽しい時間を過ごすことが出来ました。これが本来あるべき同窓会懇親会だな、と改めて感じたのは私だけではなかったと思います。

新型コロナウイルス対策について国内では、ワクチン接種の進捗に応じて、国民の行動制限や経済活動の制限の見直しを行うなど、「with コロナ」に向けた新たな段階に移行しつつあります。私もこのような社会状況を鑑みて福岡県西同窓会、福岡県地区同窓会の今後の事業を同窓の先生方のご理解、ご協力のもと実施していく所存です。

我々の母校、福岡歯科大学は創立50周年を迎え、それぞれの地区または方面でご活躍の同窓生が数多くいらっしゃいます。母校・福岡歯科大学と我々同窓生は車の両輪であり、お互いの活躍が相互の発展につながると信じております。福岡県西同窓会新役員の先生方と、その先生方を下支えし母校の発展に寄与していきたいと考えております。今後とも皆様のお力添えをお願いいたしまして、簡単ではございますが、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

第10期（令和4年・5年度）福岡歯科大学福岡県西同窓会役員

会 長	持山 達郎（13）
副会長	神田 晋爾（4） 水谷 匡秀（6） 高山 義之（15） 北村 勝文（9） 日高 英治（5） 西原 浩平（10）
専務理事	重富 澄保（24）
組織常務理事	石本 圭（16）
会計常務理事	吉兼 透（22）
企画常務理事	池田 正博（18）
庶務常務理事	牧野 正敬（25）
厚生常務理事	杉本 大輔（24）
広報常務理事	吉岡 和彦（25）
監 事	原 宏之（10） 枡 泰生（11）
組織・会計理事	劉 中憲（14） 加治木 聡（24） 花田 道人（23）
企画理事	前田 通光（20） 郡家 浩人（23） 小島 拓（33）
庶務理事	高口 愛子（18） 花水 麻美（30）
厚生理事	小篠 政之（29）
広報理事	丸目 剛（25）
選挙管理委員長 選挙管理副委員長 選挙管理委員	加藤 明彦（7） 藤本 誠一（4） 疋田 三郎（6）

福岡歯科大学福岡県西同窓会支部長名簿

地 区 名	支 部 長	
宗 像 地 区	赤間 伸(仮)	12
粕 屋 地 区	藤 戸 孝 章	19
筑 紫 地 区	西 原 浩 平	10
糸 島 地 区	飯 田 聖 子	17
福岡市東支部	前 田 仁	8
福岡市博多支部	本 田 淳 也	24
福岡市中央支部	下 田 恒 久	7
福岡市南支部	真 玉 光 希	7
福岡市城南支部	岡 部 千香夫	5
福岡市早良支部	古 賀 仁	24
福岡市西支部	神 田 恭 宏	8

佐賀県

「佐賀県同窓会会長 就任のご挨拶」



佐賀県同窓会
会長 小柳 進祐（12期）

同窓生の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。令和4年4月より、前会長 浦 嘉則先生の後を引き継ぎ、福岡歯科大学佐賀県同窓会会長に就任致しました12期卒業の小柳進祐と申します。

佐賀県同窓会では、このコロナ禍の2年間は、総会、学術講演会、厚生行事（サガン鳥栖サッカー観戦）、新年会をリアル開催することが出来ず、総会においては書面票決という形で開催させて頂きました。今春からオンライン会議のシステムを導入し、オンラインで顔を合わせての理事会、学術講演会開催できるように致しました。ウィズコロナのこれからは、何らかの形で同窓会の活動を再開させていきたいと思っております。

福岡歯科大学佐賀県同窓会では、総会を各地区持ち回りで総会を開催しております。会員の皆様におかれましては、各地区に出向いて顔を合わせて懇親を深めることを楽しみにしていた先生も多いと思いますので、今後の再開に向けて状況を鑑みながら慎重に進めて参りたいと思っております。

また今期より、多くの若手の先生方に役員をお願いし、会員数の増加、組織の活性化を諮りたいと思っております。年々終身会員となる先生が多くなってきている一方、若手の先生方が故郷の佐賀に帰ってこられます。お帰りになられた先生方には、私どもからお声掛けさせて頂きますので是非佐賀県同窓会へのご入会を賜りたいと思っております。

最後になりますが、年々増加してきている自然災害、物価の上昇、円高が私達の生活を脅かしている

状況ではありますが、同窓会会員の先生方におかれましては、健康にご留意頂き、皆様元気で、笑顔でご活躍頂きますよう心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

役 職	氏 名	期
会 長	小 柳 進 祐	12
副会長	酒 井 正 男	14
専務理事	寺 谷 烈	18
常務理事（学術、厚生）	江 口 隆 郎	17
常務理事（広報、会計）	泉 福 浩 志	22
学術担当理事	田 代 剛	26
	梅 津 健太郎	27
広報担当理事	富 安 紀 文	22
	酒 井 貴 芳	25
厚生担当理事	眞 島 亮 太	28
	小笠原 誠 司	30
会計担当理事	秋 山 兼 範	25
	井 上 将 成	28
監 事	上 原 正 純	2
	重 松 秀 樹	7
地区長（佐賀） （鳥栖） （武雄） （唐津）	酒 井 正 男	14
	權 藤 総一郎	12
	久 野 麻 弓	12
	中 溝 誠	18
顧 問	寺 尾 隆 治	1
	山 口 倫 仁	7
	浦 嘉 訓	12

中部支部

「開業して41年目になります」



中部同窓会
会長 伊藤 恒一（2期）

①同窓会の皆様こんにちは、中部地区支部長の2回生伊藤恒一です。今回の支部長就任は再登板となります、富山県で開業されている前支部長の和田三茂先生（15期生）が地元歯科医師会の役員に就任され多忙となられた為、4月より急遽私が再登板する事になりました。次の世代に繋ぐまで取り敢えずこの一年支部長として活動させて頂きます、宜しくお願い致します。中部支部は会員数的には、同窓会会員は18人と言う弱小支部であります、地域的には東海、北陸地方を網羅しておりかなり広い支部ですので会合を開くのも難しく、地元には愛知学院、松本歯科大学、朝日大学等の歯学部も有り、同級生の子弟も母校に進学するよりも地元の歯学部に進学しているケースが多く、研修会も地元の大学の方が利便性が高く、自然と母校との関係も薄れつつあるのが現状です。結果として会員率の低下を招いています。また私自身がそうであった様に後輩の皆さんの中には歯科医師の子弟で無い方もみえ、開業等のアドバイスも受ける機会が少ない事を非常に憂慮しています。

②これからの中部支部は同期の豊橋市開業の菅谷彰先生や私と同じ岐阜県の後藤邦久先生、早川昌伸先生、また愛知県の後輩の先生方と協力して歯科医師の子弟で無い方の開業の相談、開業後の技官による指導、税務署の指導等に対する対策の相談のお手伝いが出来ればと考えております。私自身も開業して40年を過ぎましたが岐阜県中津川市の田舎診療所にしてはレセプトも毎月700枚を超し保険点数も平均より高く、東海北陸厚生局による指導は元より旧厚生省の直接指導も受けています、指導結果も取り敢えず大きな問題も無く、税務調査もオリンピックと同じサイクルで4年に1

度は経験します。平均の先生方より経験値が高く後輩の先生方に有効なアドバイスが出来ると思います。

③今年の2月にCAD/CAM用のセレックを導入しました。私自身は昨年秋までものづくり補助金の存在を知りませんでしたが市内の若い開業医の先生に教えて頂き、サポート会社の支援を頂き1回の応募で採択頂きました。補助金の内訳は下記の通りです。

セレック総額	1,500万円
成功報酬（支援会社）	150万円
補助金	900万円
自己負担	750万円

自己負担が750万円、実質半額で購入出来ました、ご存知の様に今年の4月からCAD/CAM保険対象歯が増え、インレーなら印象10分、作成20分、患者さんに待って頂き1日2度来院で終わり、使い勝手が大変良いです、ものづくり補助金を利用してセレック導入のご検討をお勧めします、良い支援会社のアドバイスを受けて今回は1回で応募を通過しました、ご希望の方は支援会社をご紹介します。

④地元朝日大学歯学部で活躍されている同窓を紹介させて頂きます。22期江原道子先生です。以下にご本人からの自己紹介を添付させて頂きます。私は朝日大学歯学部口腔病理学分野の講師です。大学では病理診断と教育、そして研究に勤しんでおります。教育では赴任してから12年になりますが、2年生から6年生までの病理学関連講義はもちろんのこと、メンタルケアを含めた6年生への対応を担当しております。研究では口腔がんの糖鎖研究を主に行っておりますが、口腔細胞診の基礎的研究にも力を入れています。



学内同窓会（学術振興事業）

「これまでの研究報告と 今後の展望」



福岡歯科大学
総合歯科学講座
高齢者歯科学分野
江頭 留依（38期）

私は、平成28年3月に福岡歯科大学を卒業し、研修期間を経た後、福岡歯科大学総合歯科学講座高齢者歯科学分野の大学院へ進学しました。令和3年に卒業し、現在は同分野の助教として在籍しております。今回、同窓会の学術振興事業制度：研究助成金の援助を頂きましたので、これまでの研究内容と今後の研究について、この場をお借りしてご報告申し上げます。

大学院の時は主に2つの研究を行いました。1つ目は「口腔機能と認知機能の関連性」についてです。アルツハイマー型認知症はアミロイドβやタウタンパクという異常なたんぱく質が脳に蓄積し、神経細胞が死に、脳が萎縮します。アミロイドβは認知症を発症する20年前から蓄積し始めると考えられています。しかし、このアルツハイマー型認知症になる前の段階に軽度認知障害（MCI）という状態が存在します。MCIは放置すると5年間で40%の人が認知症に進展する一方で、適切な治療や予防を行うことで回復したり、発症を遅らせたりすることができると言われています。近年、日本の高齢化は急速に進んでおり、認知症患者も増加しており、当院へ通院している患者様も高齢者が多くなってきています。この研究では高齢者歯科に通院中の患者様を対象に、舌圧や咀嚼能力、嚥下機能などの口腔機能を測定し、認知機能の測定にはMMSEとMoCA-J（神経心理学的検査）を使用しました。また採血を行い、アミロイドβやタウタンパクなどの異常なたんぱくの量も測定しました。その結果、舌圧と現在歯数が認知機能低下と関連することが認められました。

2つ目は「認知症およびMCIに罹患している高齢者における脳萎縮と口腔機能との関連」についてです。この研究では、協力施設である近医内科通院中の患者を対象として行ったところ、現在歯数と全

脳萎縮の間に相関が認められました。この研究を通して、2019年6月にカナダのバンクーバーで開催されたInternational Association for Dental Research：IADRに参加し、ポスター発表を行いました。初めての国際学会で、とても緊張しましたが、大変貴重な経験をすることができました。

これらの経験を生かしたうえで、今後も高齢者を対象とした研究を計画しています。当院の高齢者歯科に来院する患者様は、複数の全身疾患を有しており、多くの服用薬を飲んでいますが、また厚生労働省の患者調査の報告を見ても、一般歯科における高齢者の割合は増加しており、リスクを保有した患者を診察する機会は増えてくると考えます。とくに近頃、直接経口抗凝固薬（DOAC: direct oral anticoagulants）を服用している患者が頻繁に見受けられ、DOACを服用中の患者では、観血的治療時の異常出血に関する多数の報告がありますが、その対応やリスクを増加させる因子については十分な情報が得られていません。

また、ビスホスホネート系製剤を服用中の骨粗鬆症患者への抜歯では、顎骨壊死のリスクが高くなるという報告があります。今回の研究では、実際にこれらの全身疾患を有した患者を対象とし、関連する因子の有無や抜歯時の状態と予後との関連を調査することで、有病高齢者の抜歯の際のリスク回避のための指針を形成することを目的としています。今回頂いた助成金で、この研究を遂行するために必要な備品の購入および学会発表も予定しておりますので、そちらにも充てさせていただこうと考えております。

最後になりましたが、日ごろから親身にご指導いただいております内藤徹教授をはじめとする高齢者歯科学分野の先生方、同窓会学術振興事業制度によりご支援いただきました福岡歯科大学同窓会に心より御礼申し上げます。



鹿児島県

「第74回九州歯科医学
大会報告」鹿児島県同窓会「福歯会」
専務理事・実行委員長

平川 俊洋（14期）

第74回九州歯科医学大会が、令和4年10月22日（土）に鹿児島県鹿児島市の宝山ホールにおいて開催されました。

大会終了後、福岡歯科大学同窓会が、鹿児島市新照院にある「城山ホテル鹿児島」にて行われました。例年であれば、懇親会の前に福岡歯科大学同窓会九州地区同窓会会議が行われますが、今年は新型コロナウイルスの感染を考えやむなく中止としました。

6時半より、城山ホテル鹿児島5階「ルビーホール」にて福岡歯科大学同窓会懇親会が開催されました。鹿児島県同窓会「福歯会」副会長の北園俊司の開会の辞で懇親会が始まり、主催者を代表して鹿児島県同窓会「福歯会」会長要光が、「鹿児島県同窓会全員でおもてなしの心を持って精一杯ご奉仕させていただきます。皆さん楽しい鹿児島の晩をお過ごし下さい」と挨拶されました。

続いて福岡歯科大学同窓会会長の吉永修先生が、

「コロナ禍のために会長に就任しての初めての対面での懇親会であり、多くの同窓生が参加していただいたことをうれしく思う」と挨拶されました。

来賓を代表して2名の先生にご挨拶頂きました。まずは福岡学園理事長水田祥代先生にご挨拶頂き、「同窓会懇親会が実開催され鹿児島に来られたことがとても嬉しい。うちの学生はとても真面目で素直で可愛い。口の健康から全身の健康まで分かる歯科医師を育てたい」という大学の取り組みについて話されました。

続いて福岡歯科大学学長高橋裕先生が、現在の学生のレベルアップ、国家試験対策等について取り組んでいることについて話されました。

続いて福岡歯科大学同窓会常務理事の江藤ゆかり先生が乾杯の挨拶をされ、これからも大学と同窓会が共に発展することを願って乾杯の音頭をとられました。その後各テーブルにて食事となりましたが、規制のある中でも久しぶりの再開に参加者全員楽しい会食に時間を過ごされました。

余興の「大抽選会」では、舌が肥えておられる方々にも納得していただけるクオリティーの鹿児島県特産の黒毛和牛・黒豚詰め合わせセットが用意されました。抽選で選ばれた15名の方がステージに上がられ目録を受け取られました。当選された方々はとても嬉しそうでした。

会の最後では、同窓の参議院議員比嘉奈津美先生も駆けつけてくださり、現在の活動報告や今後の意気込み等お話しくださり校歌が流れると同窓の団結が一気に盛り上がりました。



最後に次回開催県の宮崎県同窓会黒木康夫会長と小田瑞恵専務が宮崎県からの参加者とともに壇上に上がり、来年10月21日（土）宮崎県で行なわれる九地連にぜひ来て下さいと挨拶され黒木康夫会長の一本締めで閉会となりました。

懇親会は新型コロナウイルス感染症対策のためテーブルにはパーテーションが設置され、食事以外の時はマスク着用。大声での会話、席を離れてのお酌禁止などお願いばかりの異例の懇親会となりましたが、終止笑顔が飛び交う楽しい雰囲気でした。途

中挨拶に来られた鹿児島県の執行部の先生が、「挨拶に回った懇親会の中で、人数と、華やかさとも福岡歯科大学が一番だった」と申ししておりました。コロナ禍の中開催に関しては賛否両論ありましたが、懇親会の実開催により3年に渡るコロナ禍からの脱却の一步を踏み出せたのではないかと思います。最後に鹿児島まで来ていただいた先生方と、力を貸していただいた鹿児島県同窓会会員にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

福岡歯科大学学内同窓会・学術振興事業の実施について

本事業は、福岡歯科大学学内同窓会に属する正会員、準会員を対象とする学術および研究活動を支援するものです。同窓会年会費を滞りなく納めている者が対象です。4つの事業により成り立っており、同窓会特別委員会により管理運営されています。本事業の申請については、同窓会本部事務局へお尋ね下さい。

対象項目

- 1) 研究助成金（学内同窓会正会員の研究を対象とする）
- 2) 研究奨励賞（学内同窓会正会員の論文を対象とする）
- 3) 旅費援助金（国内外で開催される国際学会の発表に対する旅費の援助）
- 4) 留学援助金（外国・国内留学への援助金）

福岡歯科大学同窓会・学術振興事業内訳

事業名	対象者	金額	申請書類	備考
研究助成金	同窓会学内支部に属する正会員	50万円を上限とする。	様式1、様式2 推薦状	大学経理、推薦者を経て、申請者の研究費となる。
研究奨励賞	同窓会学内支部に属する正会員	3万円	様式1、様式3 推薦状、別刷2部	本賞金は同窓会総会等において同窓会長が賞状と共に授与し、2名を限度とする。
旅費援助金	同窓会学内支部に属する正会員、準会員	正会員 国内 5万円 海外 10万円 準会員 国内 3万円 海外 5万円 を上限とする。	様式1、様式4 発表演題の受領を証明する書類を添付	国際学会を対象とし、原則として正規の旅費以内で援助限度額以内とする。
留学援助金	同窓会学内支部に属する正会員	国内 10万円 海外 30万円	様式1、様式5 留学先の受け入れを証明する書類を添付	

*平成28年1月1日より施行する。

福岡学園はいま

(令和3年11月～令和4年10月)

福岡学園は、教職員が一丸となって、厳しい倫理観、さらに目的意識を持ち、学生が意欲を持って勉学し、同窓生が誇れる母校を目指して参りたいと思います。

福岡歯科大学同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、この一年間の学園の主なトピックスをご紹介します。

○学校法人福岡学園・福岡歯科大学 創立50周年記念式典を開催

令和4年7月24日、学校法人福岡学園ならびに福岡歯科大学は創立50周年を迎えたことを記念し、創立50周年記念式典を挙行了しました。

新型コロナウイルスの感染対策を徹底しつつ、50周年記念講堂で行った記念式典では、行政や自治体、同窓生、連携大学および医療機関の関係者等が参列しました。水田祥代理事長は、学園創設から今日に至るまでのご支援・ご協力に感謝の意を述べるとともに、『『学生が学びたい大学』、『学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校』、『地域の歯科医療・保健・福祉への貢献』、『口腔医学の確立による医学、歯学、看護学の進展への寄与』を目指すとともに、人生100年時代を見据えた健康長寿社会を支

える医療、保健、福祉分野の人材育成の総合学園としてさらに発展していく」とこれからの決意を述べました。

○学校法人福岡学園・福岡歯科大学 創立50周年記念募金 実績報告

平成30年7月より開始しました「学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念募金」について、多くの方からご寄付をいただいております、創立50周年特設記念サイトに「寄付者ご芳名一覧」を掲載させていただきますいております。

同窓会の皆さまより多大なるご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。また他にも個人・法人でご寄付をいただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

記念募金の趣旨にご賛同いただき、引き続き、ご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

●募金実績額

(平成30年7月1日～令和4年10月31日ご寄付分)

1,006名 108,643,000円

●募金期間

令和5年3月31日まで

○学校法人福岡学園開学記念式典を 挙行

令和4年7月27日、50周年記念講堂において、学校法人福岡学園開学記念式典が執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席の間



創立50周年記念式典



開学記念式典

隔を広く取り、マスクの着用やアルコールでの手指の消毒など対策を徹底して実施しました。

水田理事長の挨拶に続き、名誉教授称号授与、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学特待生表彰、福岡医療短期大学特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰が行われました。

○口腔医療センター10周年記念報告会を開催

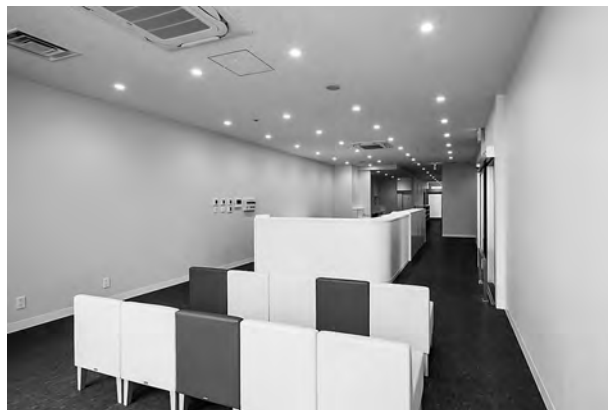
令和4年2月26日、福岡歯科大学口腔医療センターの開院10周年を記念した報告会が開催されました。口腔医療センターは、歯科大学の附属施設ならではの最新の技術と設備を備えた高度な医療を提供し、近隣歯科医院と連携することで地域医療に貢献するとともに各種講座の開催を通じて地域の歯科医療従事者の生涯学習を行っていく拠点として、平成23年12月14日に開所しました。報告会では、泉利雄センター長をはじめとするスタッフ7名が、それぞれの業務における現状や課題、今後の展望等について報告を行い、更なる地域医療への貢献に向けて、決意を新たにしました。



10周年記念報告会

○保健管理センターが開設

学校法人福岡学園の学生と教職員の心身の健康の維持および増進を目的に、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学保健管理センターが令和4年9月1日に開設されました。



保健管理センター

◆福岡歯科大学◆

○国際交流

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本学から協定締結校への訪問は中止いたしました。

○第115回歯科医師国家試験

令和4年3月16日、厚生労働省から第115回歯科医師国家試験の結果が発表されました。全国の実験者は3,198名で、合格者は1,969名でした。福岡歯科大学からは新卒者60名、既卒者126名、計186名が受験し、新卒者39名、既卒者27名、計66名が合格しました。

○生涯研修の充実

福岡歯科大学では平成23年12月に開院した口腔医療センターを生涯研修の中核施設として、歯科医師等の資質の保持・向上に向けた研修を積極的に開催しています。

令和3年度は、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」「歯周組織再生療法セミナー」「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」「口腔インプラント初級講習会」の5つのプログラムを実施し68名の方が参加されました。

令和4年度は、「歯周組織再生療法セミナー」「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」「睡眠

時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」
「口腔インプラント初級講習会」を実施・計画しております。

今後も、歯科医学・歯科医療の進展や社会環境の変化に対応し、社会のニーズに応えることの出来る歯科医師等の育成・支援を目指して、様々な生涯研修を開催しますので、是非ご参加ください。



生涯研修

◆医科歯科総合病院◆

○呼吸器内科を開設

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、医科と歯科が連携して地域医療に貢献することを目指しており、新たに呼吸器内科を令和4年4月1日に開設しました。呼吸器内科では、専門医が慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、慢性咳嗽、間質性肺疾患、肺炎、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器疾患の診断と治療に関する診療を行います。



医科歯科総合病院

◆福岡医療短期大学◆

○第31回歯科衛生士国家試験

令和4年3月25日、厚生労働省から第31回歯科衛生士国家試験の結果が発表されました。全国を受験者は7,416名で、合格者は7,087名でした。歯科衛生学科からは新卒者57名、既卒者4名、計61名が受験し、合格者は計57名でした。

今回も昨年同様、国家試験対策として国試問題集の出題範囲を限定した演習試験を実施し、各回の成績不振者に対して、放課後と土曜日に補習を行いました。また、演習ならびに模擬試験の成績不振者には冬期休暇中はもとより、国家試験直前まで特訓補習を実施しました。

○令和5年4月から男女共学化へ

医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化は年々進行しています。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成が強く求められています。福岡医療短期大学では、昭和56年4月に福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校として開校以来、こうした社会的要請に応えるために、幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた歯科衛生士の養成を目指してきました。

超高齢社会である日本において、介護現場への歯科の介入などにより、今後ますます男性歯科衛生士のニーズが高まることを見据え、また、全国の歯科衛生士養成校の半数以上が男女共学化している現状



福岡医療短期大学

を鑑み、福岡医療短期大学においても男子学生の受け入れを開始いたします。

これからも建学の精神・教育の理念に基づき、地域社会に貢献できる歯科衛生士の養成に努めてまいります。

(※専攻科については、女子のみ)

◆人 事◆

(令和3年11月1日～令和4年10月31日)

■名誉教授

令和4年7月27日に執り行われた学校法人福岡学園開学記念式典において、谷口 省吾前教授(麻醉管理学分野)ならびに埴岡 隆前教授(口腔健康科学分野)に福岡歯科大学名誉教授の称号が授与されました。

谷口氏は、平成11年1月に福岡歯科大学教授に就任後、令和4年まで麻醉科長、中央手術室長を務められ、教育では、学生部次長や情報図書館長を歴任し、約23年間、学園の発展に尽力されました。

また、埴岡氏は、平成15年5月に福岡歯科大学教授に就任後、大学入試委員、共用試験(CBT)実施責任者、研究倫理審査委員長等を歴任した他、令和4年まで社会医歯学部門長、口腔保健学講座主任教授を務められ、約19年間、学園の発展に尽力されました。



谷口 省吾 名誉教授



埴岡 隆 名誉教授

■新役職教員等紹介

●顧問

令和4年2月17日に開催された第571回理事会において、病院顧問ならびに情報顧問が次の通り決定しました。



病院顧問 阿南 壽

(略歴) 九州大学歯学部卒。同大学歯学部附属病院第一保存科講師、九州大学病院口腔機能修復科講師を経て、福岡歯科大学口腔治療学講座教授へ着任。福岡歯科大学医科歯科総合病院病

院長、学校法人福岡学園理事・評議員、日本歯科保存学会副理事長、日本歯内療法学会理事長等を歴任。歯学博士。



情報顧問 藤村 直美

(略歴) 九州大学工学部卒。同大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。同大学情報処理教育センター助教授、九州芸術工科大学助教授、同大学教授、九州大学芸術工学研究院教授、同

大学総長特別補佐、情報統括本部長、同大学附属図書館付設教材開発センター長等を歴任。九州大学名誉教授。工学博士。

●福岡歯科大学新役職教員

令和4年2月17日に開催された第571回理事会において、大学運営の中核を担う役職教員が次の通り決定しました。また、坂上病院長は学校法人福岡学園 理事・評議員に就任されました。

・病院長



坂上 竜資 病院長

・情報図書館長



大星 博明 情報図書館長

・社会医歯学部門長



壬生 正博 社会医歯学部門長

●医科歯科総合病院 副病院長

令和4年2月17日に開催された第571回理事会において、医科歯科総合病院副病院長が次の通り決定しました。また古村副病院長は、学校法人福岡学園 評議員に就任されました。



都築 尊 副病院長



古村 南夫 副病院長



樋口 勝規 副病院長



中畑 高子 副病院長

●福岡医療短期大学 歯科衛生学科長

令和4年2月17日に開催された第571回理事会において、福岡医療短期大学歯科衛生学科長が次の通り決定しました。



松尾 忠行 歯科衛生学科長

■新教授紹介

【令和4年4月1日付】



松崎 英津子 教授

まつざき えつこ
松崎 英津子

〔歯科保存学分野・教授〕

長崎大学歯学部卒。九州大学大学院歯学府博士課程修了。九州大学病院口腔機能修復科助教、福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野講師、同分野准教授を経て、令和4年4月1日、同分野教授に昇任。

博士（歯学）。



岡 暁子 教授

おか きょうこ
岡 暁子

〔成育小児歯科学分野・教授〕

九州大学歯学部卒。同大学大学院歯学研究院修了。同大学歯学部附属病院研修医、医員、南カリフォルニア大学歯学部

Postdoctoral Research Associate、九州大学病院医員、日本大学歯学部専修研究員、福岡歯科大学生体構造学講座機能構造学分野助教、同大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野講師、同分野准教授を経て、令和4年4月1日、同分野教授に昇任。博士（歯学）。



池田 水子 教授

いけだ みずこ
池田 水子

〔麻酔管理学分野・教授〕

九州大学医学部卒。同大学院医学系学府機能制御医学専攻博士課程修了。九州大学病院助教、オレゴン健康科学大学麻酔科研究員、九州大学病院別府病院助教、国家公務員共済組合連合会浜の町病院麻酔科部長、福岡歯科大学診断・全身管理学講座麻酔管理学分野講師を経て、令和4年4月1日、同分野教授に昇任。博士（医学）。



大島 裕司 教授

おおしま ゆうじ
大島 裕司

〔眼科学分野・教授〕

長崎大学医学部卒。九州大学大学院医学系研究科外科系専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、米国 Johns Hopkins University Wilmer Eye

Institute 研究員、別府医療センター眼科医長、北九州市立医療センター眼科部長、九州大学大学院医学研究院眼科助教、同学講師、福岡大学筑紫病院眼科准教授、済生会福岡総合病院眼科主任部長、九州大学病院眼科特任准教授、福岡歯科大学総合医学講座眼科学分野准教授を経て、令和4年4月1日、同分野教授に昇任。博士（医学）。



西尾 淳 教授

にしお じゅん
西尾 淳

〔整形外科科学分野・教授〕

福岡大学医学部医学科卒。福岡大学大学院医学研究科病態構造系早期修了。米国ネブラスカ大学医学センター客員研究員、福岡大学筑紫病院整形外科助

教、福岡大学医学部整形外科科学助教、同学講師、福岡大学病院整形外科診療准教授を経て、令和4年4月1日、福岡歯科大学総合医学講座整形外科科学分野教授に就任。博士（医学）。



谷口 奈央 教授

たにぐち なお
谷口 奈央

〔口腔健康科学分野・教授〕

九州大学歯学部卒。同大学院歯学研究科臨床系専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、奥羽大学歯学部助手、福岡歯科大学総合歯科学講座総合歯

科学分野助教、同分野講師、同大学口腔保健学講座口腔保健科学分野准教授を経て、令和4年4月1日、同分野教授に昇任。博士（歯学）。

■採用

【令和4年4月1日付】

今井 裕子〔訪問歯科センター・講師〕
安永まどか〔矯正歯科学分野・講師〕
千々岩芳朗〔整形外科科学分野・講師〕
藤本 暁江〔口腔健康科学分野・講師〕
堀部 晴美〔短大・歯科衛生学科・特任教員（教授）〕

■昇任

【令和4年1月1日付】

谷口 祐介〔口腔インプラント学分野・講師〕

【令和4年4月1日付】

門司真由美〔看護大・基礎看護学分野・准教授〕

【令和4年5月1日付】

吉住 潤子〔口腔腫瘍学分野・講師〕

【令和4年6月1日付】

山田 和彦〔総合歯科学分野・准教授〕
柳 東〔口腔インプラント学分野・講師〕

【令和4年7月1日付】

田崎 園子〔障害者歯科学分野・講師〕

【令和4年8月1日付】

馬場 篤子〔成育小児歯科学分野・准教授〕

■新任客員教員

【令和4年4月1日付】

清水 博史〔客員教授〕
尾崎 正雄〔客員教授〕

■新任臨床教員

【令和4年4月1日付】

本村 春彦〔臨床教授〕
牧野 路子〔臨床教授〕

■定年退職

阿南 壽〔歯科保存学分野・教授〕
尾崎 正雄〔成育小児歯科学分野・教授〕
谷口 省吾〔麻酔管理学分野・教授〕
川野 庸一〔眼科学分野・教授〕
井上 敏生〔整形外科科学分野・教授〕
埴岡 隆〔口腔健康科学分野・教授〕

橋本 修一〔病態構造学分野・教授〕
岡部 幸司〔細胞生理学分野・教授〕
永田華千代〔看護大・母性看護学分野・准教授〕
堀部 晴美〔短大・歯科衛生学科・教授〕

■退職

【令和3年12月31日付】

森永 健三〔口腔インプラント学分野・講師〕

【令和4年3月31日付】

牧野 路子〔訪問歯科センター・准教授〕
加島 伸浩〔整形外科科学分野・講師〕
高田 俊輔〔矯正歯科学分野・講師〕
梶原 江美〔看護大・基礎看護学分野・准教授〕
貴島 聡子〔短大・歯科衛生学科・講師〕
朔 敬〔客員教授〕

【令和4年8月31日付】

北河 憲雄〔機能構造学分野・講師〕

【令和4年9月30日付】

河本 陽介〔医療統計学分野・講師〕

「令和4年度学生近況」



福岡歯科大学
総務委員長

河本 大葵（5年）

任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が行われ、この度令和4年度総務委員長に就任しました河本大葵と申します。福岡歯科大学同窓会のみなさまにおきましてはいつも多大なるご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

昨今収まり止まぬコロナウイルスの影響により制限された学園生活が続いており、福岡歯科大学学生は昨年同様感染防止対策をとって日々生活しています。しかし、今年は新しく50周年記念講堂も建てられ、コロナの暗いニュースだけでなく明るいニュースも多く、部活動を再開でき感染対策を徹底しながら行っております。デンタルは開催された部活もされなかった部活もありましたが、少しずつ学園生活に彩りが戻りつつあります。新しく建てられた50周年記念講堂には食堂も新しくでき、既存のメニューの他に、その場で焼かれる種類豊富なパンがありど

れも美味しいのでぜひ一度訪れてみてください。

加えて、勉強の方でもとても喜ばしく、4年生で行われる、臨床実習を行うにあたって必要な能力や知識を評価するテスト CBT の学年平均点が全国の平均点を上回ることが出来ました。これを達成した理由としては、昨年から CBT の合格基準を例年より5%高く設定し学生へ危機感を与えたことと、先生方が数ある問題から選んで作って下さった見開き問題集が一番大きいと思っています。このまま福岡歯科大学が全国でもトップの国家試験合格率の学校になれるように頑張ります。

最後に私は今5年生として登院実習を通して、先生方の処置を見ながら勉強に励んでおります。実際の臨床現場では、多種多様な症状や色々な性格の患者様が来院され教科書や授業で学んだ知識を用いた処置だけでは一筋縄でいかない事があります。患者様一人ひとりに様々なニーズがありコミュニケーションをしっかりと取り患者様と考えをすり合わせながら処置を行うことが大切なのだと思います。しっかり勉強だけをしていてもそれだけでは臨床の場では戦っていけないということを思いしらされました。今は国家試験という大きな壁に向かって勉強に一生懸命になっていますが本当の勝負は国家試験を乗り越えてからがスタートです。次のステップに進むためにも国家試験に合格しなければいけないので現役合格を目指して頑張ります。

これからも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく申し上げます。

会計からのお願い

福岡歯科大学同窓会は昭和54年、第1期生の卒業と同時に設立され、本年度の第44期卒業生を含め、同窓生は総勢4,774名となります。本同窓会では会員の福祉増進と会員相互の親睦、母校への貢献を目的に活動を行っております。その他にも記念事業の開催、震災に被災した同窓生に対する義援金の援助などを行っております。

会費は入会金3万円、年会費1万円となっておりますが、過去3年間の同窓会費未納が続いた場合は、自動的に非会員扱いとなり、刊行物等の発送も停止されます。ただし過去の会費の未納があっても、再び本年会費を納入することで、正会員と認められ刊行物を発送します。

入会金を含む43万円をお支払いいただいた会員は終身会員（会費は払わなくても永久的な会員ですので刊行物などは受け取れます）となります。

また、本年度より全額または残りの会費を一括して納入できるようになりました。毎年の支払いが面倒な方や忘れがちの方等は1年度分だけではなく、3年・5年・10年分等纏めて全額を支払う事も可能です。ご利用いただければ幸いです。

福岡歯科大学同窓会の運営は、皆様が払われる会費で賄われております。何卒、ご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

（常務理事 浦 嘉訓）

「ものの見方、経験とともに」



福岡市開業
松永歯科クリニック
松永 興昌（16期）

最近では、新型コロナウイルスの脅威から少しずつ解放されてきて、人と対面する機会が増えて前の生活に戻ってきていると感じています。ここ数年は、人と会う機会が制限され、リモートやWebを使ったセミナーや会議などで診療以外の仕事が増えていました。しかしコロナ対策が緩和され、改めて人と集って直接話をすると、すごく刺激を感じて自分が何を考えて、どのように過ごしてきたか思い返されます。そして、年柄か昔話をよくするようになってきたかと思っています。

ふと気づけば、1994年に福岡歯科大学を卒業して28年が経ちました。慌ただしく毎日働きながら、はっと気づけば50代に突入し、昔を思い出しながら自分の変化を考えるようになりました。人間30年も経てば、色んなことが変わっていくと思います。特に「ものの見方」は、大きく変わりました。20代前半の福岡歯科大学学生の時、多くのことに対して行き当たりばったりで、目先のことだけを考えていたと思います。「試験は、どうにかして及第点を取ればいい」と考えて、毎日が楽しく友達と遊ぶことや、やりたいことをやっていたらいいという時代でした。そんな中、友人や先輩、後輩とのやりとりの中で、人との関わり合いの大切さをうっすらとですが感じ取っていたことは、今となって大変貴重な経験だったと思います。今は、人と関わる手段がメールやLineを使っていて、SNSで周りの人がどのように過ごしているかを簡単に知ることができます。自分が若い時と違い、考え方や人との関わり方も大きく変わってしまって、あまり感情の変化なく淡々と過ごしているように感じます。それは、私が若いときに経験をしていた感情的に人と接することが、薄れているような感じがあります。

私は、大学を卒業して補綴科大学院を卒業した

後、インプラントの勉強をするためにアメリカのニューヨークに留学していました。この時は、歯科医師となって少しでも歯科の知識と技術を学びたいと思い、がむしゃらに経験を積み勉強していたことを思い出します。大学の学生時代と違い、なぜこうなっていったのか？と考えると、この時に見ていた「ものの見方」が明らかに変わっていったからだと思います。歯科医師となって出会った友人や先輩、恩師の先生からたくさんの刺激と学びを受けたことによって、急にではなく少しずつものの見方が変わっていきました。自分が何か変わろうとするときに、自分の力だけで変わることは難しいと思います。特にものの見方や価値観を変えていくことは、容易ではありません。私の経験からですが、変えたいと思ったら目標となる人と自分から交わりを持って、そこでできた人間関係からたくさんの刺激を受け、経験を積み重ねることで自分が変わり、ものの見方が変わっていくのではないかと考えています。

アメリカから帰国後、福岡歯科大学咬合修復学講座に在籍させていただき、医局の先生や学生さんとの交わりの中で、さらにものの見方が変わりました。

人に何かを教えるという立場に立って、自分がどうあるべきか？何を求められているのか？と深く考えるようになりましたが、未だ答えは出ていません。

それから、2011年に大学を退職し、開業医となりつつも補綴科の臨床教授として大学との関係を持たせていただいていることは、私のものの見方を成長させてくれています。日々若い先生からの質問や私のセミナーに来てくださる歯科関係の全ての方との交わりで、自分なりの成長を感じています。現在では、福岡歯科大学同窓会学術の仕事をさせていただき、より多くの同窓生に私のものの見方から考えた学術事業を提供しています。まだまだ若輩者ではありますが、同窓会学術事業を通じて多くの先生と交わりをもち、ものの見方を成長させて行きたいと思っています。



「安心・安全な医療」



宮崎県開業
峯田歯科クリニック
峯田 公隆（17期）

最近まで医療における「安心・安全」とは、医療を受ける患者様のためだと思っていました。ところがコロナ禍でその概念は少し違うものへと変わりました。

2002年に開院して今年8月で20年目迎えました。卒業アルバムが無かった不運の17期卒 峯田公隆です。開院20年目のタイミングで母校同窓会より原稿依頼がくるのも何か縁だろうと感じました。

さて、コロナ禍で主役になったマスク！歯科医療は、もとよりマスク着用の仕事ですが、今では仕事以外もマスク生活が続く毎日。そんな日々が果たしていつまで続くのだろうか？そんな中で皆様は、診療に N95マスクは使用されていますか。

思い起こせば2020年1月に国内で最初に新型コロナウイルス発症者が確認され、歯科業界を襲ったものは、深刻な医療用マスクの不足だったと記憶しています。

日々、新型コロナウイルスに関する様々な情報が飛び交う中、歯科医療の現場は飛沫が飛び交う職業として求職者から敬遠され、一度離職した歯科医療従事経験者の再就職も二の足を踏む状況となり、いかに自院のスタッフをこのコロナウイルスの脅威から守り安心して仕事に従事できるようにするか？が課題でした。

飛沫の多い歯科医療の現場ではやはり「N95マスク」が必要。

しかしながら新型コロナのパンデミックが始まった当時、N95マスクの使用はコロナ患者の最前線で治療に携わるドクターやナースの一部に留まり、歯科医療の現場にまで供給されるような状況ではなく国内では入手困難な状況でした。

そんな状況下で N95マスクを支援していただいたのは N95マスク製造会社にパイプのある海外の友人でした。友人は「KIMITAKA の仕事はコロナウイルス流行の中では非常に危険な仕事！貴方と一緒に働くスタッフの健康のため N95マスクを送るから使ってね！」と貴重なマスクを沢山送っていただきました。これまで送っていただいた N95マスクの枚数は約1,000枚以上を数えます。

おかげで、私の医院では新型コロナウイルス感染者が国内で初めて見つかった2か月後には、患者様に携わるスタッフ全員が N95マスクを装着して安心して治療に従事できる体制が整っていました。

現在では国産の N95マスクも購入できるようになってきていますし、フェイスシールドなどの感染防止医療用物資も安定して供給されるようになっていきます。

コロナ禍での歯科医療で分かったことは、「安心・安全の医療」とは我々が患者様に提供するだけのものではなく、我々医療を提供する側にとってもそうでなければならないということ。つまり医療の現場は患者・医療提供者双方にとって安心・安全の環境でなければならないということです。勿論、それを主動するのは医院側ではありますが医療に関わる全ての人達の協力なしでは出来ないことと痛感しました。

同窓の先生方、今後も皆様どうぞお体を大切に歯科医療に従事下さいませ。

そして、この原稿が「背振」に掲載される頃には WHO がパンデミックの終息を宣言していること切に願います。



多種多様な NIOSH 認定の
N95マスク



海外から支援いただいた
N95マスク

サッカー部 OB 会

「サッカー部の歴史を感じて」



サッカー部 OB 会
青木 隆宜 (26期)

社会生活や学校生活が突如ストップし、様々な方との交流が分断され戸惑ったあの時からもうすぐ3年。マスクを外した皆様とお顔合わせできる日はもうそこだと信じております。

9月4日(日)に3年ぶりとなるOB戦を福岡歯科大学グラウンドで開催することができ、現役生と共に約30名のOBが汗を流しサッカーを楽しみました。残念ながら小生は参加できませんでしたが、OB連絡網では嬉々としたメッセージが飛び交い、いかに素晴らしい時間だったかが伝わってきます。

コロナ前は、毎年12月に他大学OBと「OBデンタル」なる大会もサガン鳥栖本拠地・駅前不動産スタジアムで20数年開催しておりました。前夜には総会・懇親会で交流を深め、試合当日は現役時代を彷彿とさせる熱い戦いが繰り広げられていました。

しかし、コロナ禍は他大学との交流を控えざるを得ませんでしたので、一昨年、昨年は駅前不動産スタジアムで小生が指導している小学生チーム主催のカップ戦を行わせていただきました。憧れるプロ選手が活躍するピッチに立つことができ、子供達目はきらきら輝いておりました。貴重な機会を提供して下さったOBOG会には誠に感謝しております。



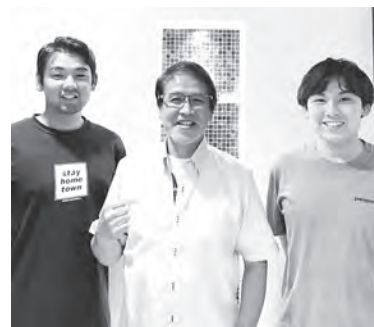
3年ぶりとなるOB戦

今年の駅前不動産スタジアムは、開催2週間前に余儀なくオールデンタルが中止とされた現役生に提供する予定です。思い存分サッカーを楽しんで欲しいとOBOG一同願っております。

福岡歯科大学サッカー部OBOG会は1期から44期までの150名を超える会員数となりました。小生が26期の43歳なので、1期生は御歳70歳くらいでしょうか。部活のお陰で、通常の大学生活では得難い、3世代ほどの貴重な繋がりができたことを心から有り難く思います。14期武田恭介先生のご令嬢はサッカー部マネージャーOGの42期、18期長友信樹先生のご息子は6年生と3年生で二人とも現在サッカー部に在籍されているとのこと。先輩から後輩だけでなく親から子へと紡がれていくサッカー部の歴史に感慨深い思いです。

現在は思うように活動できませんが、OB会長10期稲田育久先生ご発行の年2回の会誌で、会員の近況や開業情報、現役生の新入部員や戦績等をたくさんの写真と共に知ることができます。なかなか会えないご時世だからこそ、毎号本当に楽しみに拝読しております。その他にも、稲田会長が現役生と連絡を密に取られているので、必要としているものをOBOG会から支援提供するなど、現役部員との交流も深めております。本年度はユニフォームを寄贈いたしました。

今回原稿を依頼された時は大変恐縮致しましたが、先輩・同期・後輩を繋ぐ情報源となればと願い、若輩者ながら寄稿させていただきました。汗と涙と笑いが詰まった部活生活でしたが、世代を超えた繋がりが今も温かく続いていることに感謝しながら、また皆様と気兼ねなく会える日を楽しみにしております。来年こそは開催されるであろう「OBデンタル」に向け、そろそろ体作りを始動せねば!!



親子でサッカー部

「コロナ禍での医院承継と 移転開業」



こが歯科医院（佐賀県）
古賀 幹一（33期）

はじめまして、33期の古賀幹一と申します。私は2022年6月コロナ禍で医院承継と移転開業を行ったのですが、このご時世で開業の苦労話を寄稿してみないかとお話をいただきましたので、少しだけご報告させていただきます。

私は2011年に卒業後、熊本大学医学部附属病院の歯科口腔外科に入局し、6年間勤務して口腔外科の基礎を学ばせてもらいました。その後、福岡市内で開業されている25期の丸目先生の歯科医院でお世話になり、2020年からは地元である佐賀県唐津市の松尾しげき歯科医院で勤務をさせていただき、2022年6月に実家の歯科医院の承継と移転開業をしました。

タイトルの通り、承継と移転の計画を進めていくのに、新型コロナウイルスはずっと私についてまわってきました。（幸い私はまだ感染していませんが…）地元唐津に帰ってきたのは2020年4月でしたが、時を同じくして、新型コロナウイルス感染症に対して政府が初めて緊急事態宣言を行ったのが2020年4月7日でした。まだ未知の出来事であり、ワクチンも開発されておらず、先が全く予想ができない時期でした。唐津に帰ってくるのも、福岡から来たというだけで、嫌な目で見られたこともあった時期でした。土地探しから始まった移転開業計画。以前から不動産を数カ所あたっていました。新型コロナウイルスで見通しが不透明なため、市場が今閉鎖的になっていますと…あまり積極的に動いてくれる不動産も少なかったです。このまま納得いく土地は見つからないのかと頭をよぎりましたが、やっと、候補が見つかったのが1年後でした。そして、いざ建物を建てる計画に入ると、今度はウッドショックによる木材の価格高騰とアメリカと中国の貿易摩擦＋新型コロナウイルス拡大の影響による半導体不足…もちろん、予算は当初の予定から大幅に増大していました。周囲から聞いていた額から1.5倍くらいの費用が必要であり、計画を途中やめようかとも考

えましたが、依頼をした建築士さんと工務店の方々が本当に色々頑張ってください、何とか金額も器材も整うことができ、着工することができました。ただやはり、着工してから、新型コロナウイルスはついてまわりました。地鎮祭も極力少人数で、上棟時に餅まきなども行えず、開院まで少し寂しい日程となりました。また、3月にはロシアのウクライナ侵攻もはじまり、ユニットに関しては開院の1～2週間前に設置されるという本当にギリギリでした。（ちなみに今は半年待ちとの情報もあります…）幸いなことに、内覧会を行う5月末には比較的感染者数も落ち着いており、無事6月に開院することができました。ただし、開業してから、すぐに第七波が到来し、キャンセル、キャンセル、キャンセル…1日に10人キャンセルが出た時には本当に不安でしかありませんでした。今まで他人事であった医院経営がいざ自分事になると、とても気が気じゃありません。

ただ、他の先生方も同じ条件であり、コロナ禍においても、しっかりと対策を行い、乗り越えないといけません。コロナ禍の移転開業では、確かに色々な問題がありました。しかしながら、逆に目の前の問題を1つずつ解決することが、とても大事なことであり、色々方法を考えることで、乗り越えられない問題はないのだと教えてもらった気がします。これから歯科医院を経営していくにあたり、諸先輩方が乗り越えられてきたように、時代の移り変わりに置いて行かれることなく、試行錯誤しながら常に新しいことにチャレンジしながら、唐津の地域の方々に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

最後にはなりますが、今回の医院承継・移転開業に携わっていただいた、たくさんの方々に御礼を申し上げます。



「趣味の River SUP」



國松歯科医院（愛媛県）
國松 佳司（20期）

20期卒の國松佳司です。地元愛媛県に戻り、早10数年が経ちました。

今回趣味の事をとの事ですので、ここ数年釣りに代ってどっぷりと打ち込んでいる SUP について紹介致します。

最近わりとポピュラーに成って来た SUP（Stand Up Paddleboard）ですが、ご存知の方にはのんびりと穏やかな水面を漕ぐイメージだと思います。ご存知無い方は、大きなサーフボードに立って、パドルを漕いで遊ぶ事を想像してみてください。私がやっている SUP は、River SUP と言うかなりマニアックな分野で、医局時代の友人に誘われたのが切欠でした。

始めて数年はリバーサップのスクール、ツアーに参加して基礎的な技術、知識を身に付け、この数年は自己責任でリバーサップを楽しんでいます。ホームコースは四万十川中流域で、時々吉野川の激流に足を運びます。（なんせ200km 程離れている）この吉野川の大歩危小歩危は日本屈指の激流で、全国からリバースポーツホリックが集います。（カヤック、ラフトがメインですが）

しかしながら、地元愛媛のリバーサップ人口が皆無でして、これまでは同じリバースポーツのカヤックのグループに入れて貰って川を楽しんでいました。それが昨年に SNS で知り合ったパドラー数人を吉野川に案内する事となり、当然の様に意気投合し、その流れでリバーサップチームを結成する事に。その名も West River SUP Riders（WRSR）。

西日本のリバーサップを盛り上げて発展させようとの思いからの命名です。

現在リバーサップはカヤック等に比べてまだまだ遊びの文化としては未成熟です。スクールやツアーに参加しての遊び方が主であり、個人が装備を揃えて自己責任の元で川を下る、つまり自立したパドラーの数が少ないのです。リバースポーツは少しの油断やアクシデントが命に係るリスクがあり、軽い気持ちで挑める遊びではありません。

WRSR では、基本的に各々がホームリバーで技術を磨き、ダウンリバーを楽しみ、定期的にプロガイドに教を乞う機会も作りながら、リスクマネジメント対策を行っています。直近では天ヶ瀬温泉（玖珠川）に集り、天ヶ瀬温泉つなぐ会議主催のイベントに参加、プロガイドの指導を受けて来ました。私個人としては SIJ（日本 SUP 指導者協会）のレベル2 インストラクターを取得してます。WRSR の活動を通じて、リバーサップ文化の熟成に寄与出来ればと願っている所です。

この数年、南は九州から北は関越地方まで SUP をしに飛び回っており、この遊びを通じて各地に友人も増え、身体的にも年々調子が良く成りなんだか若返って来た様な感覚です。

今後の目標は吉野川の小歩危フルコースへの挑戦（前半は今年挑戦しました）で、これはかなりハードルが高いですが必ず実現させます！

文章ではリバーサップがどのような遊びかなかなか伝わらないと思いますので、お暇な時に私のインスタグラムアカウントを覗いて見て下さい。動画だとより面白さが伝わるとと思います。

インスタアカウントは kuni.roadster となります。

この度は、リバーサップと言うマイナースポーツを紹介する機会を頂き有難うございました。



「福岡歯科大学ボウリング部創設」

小坪 義博（3期）

75063 これが私の学籍番号でした。75は、1975年（昭和50年）の意味、63が出席番号です。私の記憶では、190名ほどが一緒に入学したと思います。

私は4年間、地元の久留米市から電車とバスを乗り継いで通学しました。朝6時くらいのNHKのテレビ体操を見終えるくらいの時間に自宅を出て、甘木線から大牟田線に乗り換えて、天神からはバスで大学に向かいました。大学に近づく頃には、とても眠たくてバスの座席に座りながらも頭を窓にぶつけてしまい、とても痛かった思い出があります。同級生の中には下宿している生徒も多くいました。田隈荘、タイガー荘、田奈加荘、などだったと思います。アパートに住んでいる学生もいましたが、下宿して皆んなで生活している友人の話聞くのが、とても楽しかったです。私も臨床実習が始まった5年生からは、荒江のアパートに住む事にしました。わずか2年間の一人暮らしでしたが、友人達と過ごしたこの時期は、話題がてんこ盛りです。楽しかったです。大学でも、友人達と遊ぶ場が欲しくて、5年生の時に数人の有志でボウリング同好会を創設しました。のちにボウリング部になります。息子も在学中は、同部に在籍してくれました。また1年間だけですが、田奈加荘にも下宿させて頂きました。

これからは、同じ歯科医師として精進していきます。宜しくお願い致します。



小坪 昌一郎（44期）

私は今春、歯科医師国家試験に合格し、現在は母校である福岡歯科大学の補綴科で研修医としての日々を過ごしています。

学生時代は、ボウリング部に所属し暇があれば投げに行くようなボウリング中心の学生生活を送っていました。ボウリングは、6年の国家試験受験の年にも息抜きとして一役買ってくれていました。また友人にも恵まれ退屈だった年は1年もなく、勉学においては互いに高め合い、遊ぶ時はとことん馬鹿になって遊びました。福岡歯科大学で過ごした6年間は一生忘れることはないと思います。

研修医としての生活は、実習や国家試験の勉強で得た知識は歯科医師としての最低限のものであるということを実感しており、臨床の難しさ、歯科医師としての責任の重さを痛感しています。歯科医師としての人生は長く、日々進歩する知識や技術修得のため勉強に終わりはありません。一生勉強するんだということを心に刻み頑張ろうと思います。

歯科医師になることができたのは、何があっても支えてくれた家族と人生を豊かにしてくれた友人や先生方のお陰です。今まで関わってくれた全ての人に感謝し、立派な歯科医師になって恩返ししたいと思います。



「感謝と恩返し」

馬場 篤子 (12期)

同窓生の皆様、こんにちは。12期生の馬場篤子です。いつも大変お世話になっております。私は1984年4月に福岡歯科大学に入学し、楽しい6年間を過ごしました。卒業後は小児歯科学講座に入局し早いもので32年、2022年8月より准教授を拝命し、母校の発展に携わらせていただいております。また、同窓生の先生方からは、いつも沢山の患者様をご紹介いただきまして、本当にありがとうございます。この場をおかりして心より御礼申し上げます。

こんな私ですが、1997年6月に一人息子に恵まれました。育児と仕事の両立には小児歯科はもってこいの環境でした。息子が急病の時は医局の先生方に仕事をフォローしていただき、また、夏休みには本川教授が休暇をとって息子を釣りに連れて行ってくださいましたし、医局の男性陣は息子をゴルフやヤフードームの野球観戦に連れて行ってくださいました。こうして色々な方々にお世話

になった息子も、無事2022年3月に福岡歯科大学44期生として卒業し、4月から歯科医師になり、九州大病院の歯科医師臨床研修医として研鑽を積み始めました。医局員をはじめ、保育園の先生、家族など多くの人達に私達母子は助けられました。この場をおかりして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

私の定年退職まであと7年。息子の成長も楽しみに、母校に恩返しをしていきたいと思っています。

馬場 裕康 (44期)

今春、無事に歯科医師国家試験に合格し、母と同じ歯科医師になることができました。

5、6年生の頃は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限がある中での学生生活でしたが、同期の友人や野球部の先輩・後輩など、周りの人達に恵まれ、充実した楽しい6年間を過ごすことができました。

現在は慣れ親しんだ母校を離れ、歯科医師臨床研修医として日々研鑽しています。分からないこと、できないことばかりで悪戦苦闘する日々ですが、患者さんのことを第一に考え、今の自分にできることを精一杯頑張っています。

これからは、歯科医師として、今まで支えてくれた家族や母校に恩返しができるように、初心を忘れず、学ぶ姿勢を常に持ち続けて努力していきたいと思っています。



卒業式の日水田理事長先生と

「感謝です！」

南原 賢一（12期）

私は12期卒で、息子が44期卒です。

私たちの学生時代といえば、やりっぱなしで奔放な生活を送っておりました。（また戻りたいです。）自由でおおらかな校風の中に身を置くことができ、福岡歯科大学には本当に感謝しております。それが今の診療にもつながっているのだと思います。

息子の学生生活を見ておりましたが、私たちの頃とはかけ離れた環境で時間を過ごしていたように思います。厳しい時代を感じ取っていたのでしょうか。もっと羽を伸ばしてもいいのではないかと思うこともございました。しかしながら、この大学で得た友人、先生方、先輩方や後輩達は、私と同様に彼の一生の宝になるものと信じております。貴重な経験をさせて頂き、本当に感謝いたしております。

現在、開業して30年あまりが経ちました。これから息子たちが頑張る世代へと移っていきます。私たちはこれから、何事もより深く掘り下げる作業に専念しなければなりません。学生の頃は勉強せずに遊んでばかりだったので、これから息子にいろいろ教えてもらおうと期待しております。同窓生として、息子と楽しくやっていきたいと考えております。

南原 太晴（44期）

私は、今年国家試験に合格し、4月から研修医として福岡歯科大学医科歯科総合病院にて歯科医師人生をスタートしました。

先生方、職員の皆様、先輩や友人、そして家族のお陰でここまで来ることができました。6年間本当にありがとうございました。

研修医として勤務し始めてから数か月が経ちますが、まだまだ知識も技術も足りず、学ぶべきことは多いなと感じます。父親の背中には遠いなと実感しました。今は少しずつでも出来ることを増やして、患者さんからの信頼を得られるような歯科医師になるため日々頑張ります。幸い先生方や同期に恵まれ、良い環境の中で研鑽することができ、つくづく仲間に恵まれているな、と感じています。自分を支えてくれる人々に、成長した自分を見せられるよう精進していきます。

まだこの先どのような人生を歩んでいくのかわかりませんが、自分を支える人々への感謝を忘れず、歯科医師として大成するため日々歩んでいきます。

昇格



令和4年1月1日
福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野・講師

谷口 祐介 (33期)

令和4年1月1日付で口腔インプラント学分野の講師に任命されました。口腔インプラント学分野において、臨床・研究・教育に貢献できるよう日々精進していく所存です。今後とも諸先生方をはじめ、同窓会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年4月1日
福岡歯科大学
口腔保健学講座
口腔健康科学分野・講師

藤本 暁江 (29期)

令和4年4月1日付で口腔保健学講座口腔健康科学分野の講師を拝命いたしました。

谷口奈央教授のもと、教育、研究、臨床の各専門分野において更なる発展に寄与するため、日々研鑽を重ね精進して参りたいと思っております。

今後とも同窓会の諸先生方をはじめ、皆様のご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。



令和4年4月1日
福岡歯科大学
成長発達歯学講座
矯正歯科学分野・講師

安永 まどか (36期)

令和4年4月1日付で矯正歯科学分野の講師に任命されました。自身と後輩の歯科医師の成長のため、今後も臨床・研究・教育に精進していく所存です。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年6月1日
福岡歯科大学
総合歯科学講座
総合歯科学分野・准教授

山田 和彦 (13期)

令和4年6月1日付で総合歯科学分野の准教授に任命されました。

今後も母校のために充実した臨床実習・臨床研修を運営することに努めます。

更なるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

昇格者紹介



令和4年6月1日

福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野・講師

令和4年6月1日付で口腔インプラント学分野講師に任命されました。これからも地域社会の患者様の口腔内を守るように精進していくつもりです。今後とも同窓会の皆様にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

柳 東 (32期)



令和4年7月1日

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
障害者歯科学分野・講師

令和4年7月1日付で障害者歯科学分野の講師に任命されました。口腔医学を実践した障害者歯科医療の臨床・研究・教育に貢献できるよう、これからも日々精進していく所存です。更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

田崎 園子 (35期)



令和4年8月1日

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野・准教授

令和4年8月1日付けで福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野の准教授に昇任させていただきました。今後も母校の発展に貢献できますよう『精励恪勤』を以てますます精進してまいりますので、今まで以上に皆様までご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

馬場 篤子 (12期)

広報からのご案内

広報委員会では次年度同窓会誌『背振42号』に向けて企画中です。

つきましては、下記の通り募集しています。自薦他薦は問いませんので、是非ご一報下さい。

1. **学位取得者** 今まで取得された先生で、会誌に掲載されていない方、本学以外で取得された方等。
お知らせ頂きたい内容は下記の通りです。

①学位論文題目 ②取得年月日 ③学位専攻(所属・取得校) ④学位番号(甲・乙別) ⑤顔写真1枚

2. **巻頭フォト募集** 表紙の写真を募集しています。風景・植物・動物・抽象的な物、感動した物など何でも結構です。尚、その写真のコメントも一言お書き添え下さい。

3. **原稿募集** トーク、支部報告、OB会、個人の趣味・近況・旅行等、学会報告、結婚報告、開業報告等、何でも結構です。また、その原稿に因んだスナップ写真等も同封して頂ければ幸いです。
どしどしご応募下さい。(最後尾の原稿用紙をご利用下さい。)

※お送り頂いた写真はお返し致します。

連絡先 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学同窓会事務局まで

TEL/092-863-2966 FAX/092-863-2967 E-mail: dousoukai@fdcnet.ac.jp

本学学位取得者（甲）



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
矯正歯科学分野
歯科医療工学講座
生体工学分野

國 見 亮 太（38期）

博士（歯学）（甲第336号）

令和4年3月12日

学位論文題名

Color control of orthodontics stainless steel wires by Inco method

（インコ法による矯正用ステンレス鋼製ワイヤーの色調コントロール）



福岡歯科大学
咬合修復学講座
有床義歯学分野

前 芝 宗 尚（37期）

博士（歯学）（甲第3375号）

令和4年3月12日

学位論文題名

The effects of occlusal disharmony on the expression of Alzheimer disease related molecules and cognitive ability

（咬合不調和によるアルツハイマー型認知症関連分子の発現と認知能への影響）

他大学学位取得者

九州大学大学院歯学研究院
口腔機能修復学講座
クラウンブリッジ補綴学分野

藤 川 夏 恵（38期）

博士（歯学）

令和2年10月25日

学位論文題名

Validation of masticatory function and related factors in maxillectomy patients based on the concept of “oral hypofunction”: A retrospective cross-sectional study

「口腔機能低下」の概念に基づく上顎切除患者の咀嚼機能および関連因子の検証：後ろ向き横断研究

本部会務報告

令和3年度 定時評議員会・総会報告

令和4年6月11日福岡国際会議場中会議室にて、令和3年度福岡歯科大学同窓会第58回定時評議員会第44回定時総会が開催された。新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、特別講演会、懇親会の開催は断念し、吉永執行部初の、また3年ぶりの対面開催となった。定時評議員会は、佐賀県の山口評議員が議長、福岡県西同窓会の中田評議員が副議長に選出され、8議案すべてが可決承認された。

その後、定時総会が開催され最後に参議院議員で母校8期卒の比嘉奈津美先生から国政報告とご挨拶を頂き閉会となった。



比嘉なつみ参議院議員

- 第1号議案 福岡歯科大学同窓会会則諸規則一部改正について
- 第2号議案 会議費用弁償の件について
- 第3号議案 福岡歯科大学同窓会選挙管理委員長の推薦について
- 第4号議案 令和3年度福岡歯科大学同窓会事業報告・収支決算書について
- 第5号議案 特別会計令和3年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業・収支決算書について
- 第6号議案 令和4年度福岡歯科大学同窓会事業計画（案）について

第7号議案 令和4年度福岡歯科大学同窓会収支予算（案）について

第8号議案 特別会計令和4年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業・収支予算（案）について

専務理事 江藤ゆかり（12期）



福岡歯科大学同窓会 第18期本部役員交代のお知らせ

この度、専務理事の秋山達也先生（7期）が一身上の都合により専務理事の役職を辞任されました。つきましては、下記のように、役員を交代した事をご報告します。

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

記

新 専務理事

江藤ゆかり先生（12期）（前常務理事：総務）

新 常務理事（総務）

中岡 俊智先生（12期）（前理事：厚生福祉）

平成4年12月1日

福岡歯科大学同窓会

会長 吉永 修

第69回全国歯科大学歯学部・同窓会校友懇話会

令和4年11月5日（土）岩手県医科大学歯学部同窓会の当番校にて、ホテルメトロポリタン盛岡本館で第69回全国歯科大学歯学部同窓会。校友懇話会が開催され、新型コロナウイルスの影響により、3年ぶりの対面開催となった。

岩手県医科大学歯学部同窓会副会長、小山田勇樹先生の司会で始まり、日本歯科医師会副会長柳川忠廣先生、日本歯科医師連盟会長高橋英登先生、岩手県歯科医師会会長佐藤保先生、岩手県知事（代理）、岩手医科大学小川彰理事長の来賓挨拶があった。

報告としては、事前アンケートの結果が配布され、各校から以下のように報告された。

- ・大阪歯科大学同窓会の専務恩田信雄先生より3000人規模の100周年記念事業への御礼
- ・愛知学院大学同窓会の池山正仁会長より、昨年よりリモート開催ができた事の御礼。

協議事項

- (1) 次回当番校の選出・承認について
神奈川歯科大学令和5年11月18日（土）
- (2) 次々回当番校の選出・承認について
神奈川歯科大学

次回当番校の挨拶の後、閉会となった。休憩後、特別講演が開催された。宮沢賢治が岩手医科大学入院中に看護師さんに一目惚れしてたとのエピソードなどが披露された。

テーマ：岩手県から全国へ「宮沢賢治に学ぶ」

講演1「宮沢賢治作品と岩手県」

講演2「作家としての宮沢賢治～草稿から作品をみつめる～」

専務理事 江藤ゆかり（12期）



12校会議（Web 会議）

令和4年9月30日（金）19:00より12校会議がZOOMによるWeb会議で開催され、吉永会長と江藤が出席した。

司会は、私立歯科大学歯学部同窓校友会連絡協議会の事務局でもある鶴見大学歯学部同窓会長の竹内千恵先生、議長は岩手医科大学歯学部同窓会長の三善潤先生の下、以下の意見が交わされた。

- ①現在、国家試験が選抜制になっている為、それぞれの大学への入学者も減少し、存続が危ぶまれる。
- ②日本歯科医師会会長の改選に向けて、12校の中から出馬されるのではとされているが、まだ正式表明はされてない。

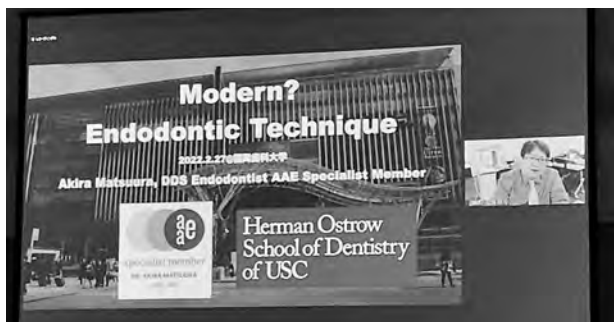
以上の2点が主な内容であった。

専務理事 江藤ゆかり（12期）

第34回学術講演会開催 第38回福岡歯科大学臨床セミナー開催

今年度は感染対策を徹底した中、福岡歯科大学同窓会主催である第34回学術講演会と第38回福岡歯科大学臨床セミナーを開催しました。第34回学術講演会では口腔画像診断学分野教授 香川豊宏先生、福岡市開業の松浦顕先生、北九州市開業の倉富寛先生から歯内療法の術式や症例経過をご講演いただきました。

さらに第38回福岡歯科大学臨床セミナーでは「実践!! 歯内療法コース」と題し、上田秀朗先生から歯内療法の予知性を高めるために臨床的アプローチをご紹介いただきました。一本の根管治療のエラーが



第34回学術講演会 松浦 顕先生



第34回学術講演会 倉富 寛、先生

治療計画全体に影響を及ぼすことさえあるため、正確な判断力と手技を身につけ、根管治療の成功率をあげたいという上田先生の歯科治療に対する熱意をご教授頂きました。コロナ禍においても学びの場を復元することを模索し、今年度は感染対策を徹底した中、ハンズオン形式で開催し、多くの先生方が参加していただきました。また新たな学術講演会や臨床スキルアップセミナーも開催しますので、是非多くの皆様にご参加いただければと思います。

学術委員 宮園祥爾（37期）



第38回福岡歯科大学臨床セミナー

2022年度臨床スキルアップセミナーの開催と第35回学術講演会のお知らせ

平素より福岡歯科大学同窓会活動にご協力ご理解賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスにより同窓会の学術委員会活動も現在オンラインによる方法での活動が続いております。

最近では世の中が少しずつではありますが開放の方向に移行しつつあり次期のセミナーに関してはリアル開催も視野に入れての計画がすすんでおります。

オンデマンド形式も採用することで何度も見直す事ができ、学ぶ側からするとメリットもある反面、やはり対面形式でのリアル開催を望む声も多く、一日でも早く社会が以前の様に戻りリアル開催ができる事を願っております。

2022年度のスキルアップセミナーのテーマは「臨床の判断どうしてる？」～臨床のエキスパートが考える判断基準～ となっております。

全4回の開催で、第1回は「深在う蝕に対する臨床判断」で6月に開催されました。泉利雄教授による抜髄処置の対応のポイントと基本術式から始まり津覇雄三先生の歯髄保存の考え方、陶山新吾先生による生活歯、失活歯に行うコンポジットレジンへの所を講演していただき、やはり診断の大切さを改めて感じた内容でした。

第2回は「中等度から重度歯周病症例に対する臨床判断」で吉永泰周准教授による歯周外科処置介入のタイミングと術式選択、田代芳之先生によるかかりつけ歯科医における歯周治療を考える、芳賀剛先生による歯周組織再生療法の術式選択とその可能性という各テーマで歯周外科を行うにあたり、やはり初期治療が重要でそこからの外科に介入する時期、また再生療法の手技について様々なディスカッションが行われました。

10月には「高齢者に対する多数歯欠損及び無歯顎補綴に対する臨床判断」来年1月には衛生士4人による「口腔内清掃を向上するための臨床的な取り組み」など企画しております。全コース受講から気になるコース単発受講まで選べます。できましたら一

Web開催
オンデマンド

福岡歯科大学同窓会主催 2022年度臨床スキルアップセミナー

臨床の判断 どうしている？

-臨床のエキスパートが考える判断基準-

第4回 口腔内清掃を向上するための臨床的な取り組み

配信：2023.1.28(土)～2.10(金)

1.在宅療養者と向き合う-口と心のケア-

福岡歯科大学同窓会 歯科衛生士 相川高津子 先生



歯科訪問診療においては患者さんにはもちろん、その家族、その方に関わる医療従事者の連携が必要になることが少なくありません。今回訪問診療の現場とその取り組みについて共有していきたいと思っています。

2.人生を豊かにする歯磨きを学ぶ歯磨き道場

福岡歯科大学同窓会 歯科衛生士 秋好綾波 先生



歯磨きのより良い口腔内を維持するため当院では「歯磨き道場」という取り組みを2019年から開始しています。この取り組みによって増えた患者さんのブラークコントロールへのモチベーション向上、口腔衛生の向上に繋がるノウハウをお伝えしたいと思います。

3.TBIで健口をサポート！

そして、オンライン診療のDHの関わりを考える

福岡歯科大学医科歯科総合病院総合歯科衛生士 北野 香 先生



福岡歯科大学医科歯科総合病院の衛生士として行っている患者さんのセルフケアを成功へ導くための取り組み。近年導入されたオンライン診療についての取り組みについて紹介しています。

4.フリーランス歯科衛生士が考える口腔内清掃

フリーランス歯科衛生士 山田智子 先生



フリーランスの衛生士という立場から、患者さんとの関わり方や早期治療の機転などの創意工夫について、また口腔ケアの有用性を向上させるポイントを紹介しています。

座長

今回のセミナーは、一般家庭、大学病院、訪問診療、フリーランスと様々な現場で活躍されている歯科衛生士4名の講師それぞれの立場から、日々の取り組みや臨床におけるポイントをディスカッションを交えて解説していただきます。歯科医師・歯科衛生士共にとても興味深い内容になっていますので、スタッフのみなさんもお誘いの上、ご参加ください。



森川秀典先生



青木隆寛先生

さまざまな臨床の現場で、症例に対する治療選択や予後を考慮していくためには、多くの経験や知識、技術が必要とされる。そこで今回のスキルアップセミナーでは、比較的臨床経験の浅い先生に対して、治療判断を行う上で考慮するポイントをそれぞれの立場から考え方や治療法を解説していただき、座長と講師とともにディスカッションしてもらいたい。

福岡歯科大学同窓会
学務委員長 松永 潤馬

福岡歯科大学同窓会事務局 TEL 092-863-2966 FAX 092-863-2967 お申込みはこちらから -
e-mail academic@fdc-dousou.com https://fdc-dousou.com/

福岡歯科大学同窓会主催 第35回学術講演会
ハイブリッド開催（現地開催＋後日オンデマンド配信）

これまでの50年、これからの50年を考える歯科医療

2023年2月26日（日）9:30～16:30
オンデマンド配信期間：3月8日（水）～3月21日（火）の2週間

Challenging periodontal regenerative therapy for severe case
白石和仁 先生(9期)

欠損補綴治療の進歩と未来
城戸寛史 先生(6期)

咬合再構成を極める
-歯列不正、歯周疾患、多数歯欠損を読み解く-
上田秀朗 先生(5期)

精密歯科治療の勧め
良好な長期予後求めて
川崎俊明 先生(1期)

福岡歯科大学は創立50周年を迎えました。同窓会主催学術講演会も35回を迎えるに当たり、50周年記念講演にて開催します。臨床、教育に従事されている同窓生4名の演者に講演をしていただきます。福岡歯科大学卒業後どのように研鑽を積み、専門性を持った今日の歯科医療をなされているのか御教授していただきます。

定員：500名
会場：福岡歯科大学50周年記念講堂 〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1
当日、昼食時に本学、新医科歯科総合病院の見学ツアーを予定しています。変わりゆく福岡学園・福岡歯科大学を見学してください。詳しい申し込みは、趣意を記載ください。

参加申込み

度、福岡歯科大学同窓会のホームページで学術事業をクリックして確認していただけると嬉しく思います。

2023年2月26日（日）に第35回学術講演会を開催します。テーマは「これまでの50年、これからの50年を考える歯科医療」です。講師4人も各分野で活躍されています同窓会メンバーで1人目が白石和仁（9期）先生でテーマが「Challenging periodontal regenerative therapy for severe case」2人目が城戸寛史（6期）先生でテーマが「欠損補綴治療の進歩と未来」3人目が上田秀朗（5期）先生でテーマが「咬合再構成を極める一歯列不正、歯周疾患、多数歯欠損を読み解く」4人目が川崎俊明（1期）先生でテーマが「精密歯科治療の勧め～良好な長期予後求めて～」となっております。会場が母校に新設された福岡歯科大50周年記念講堂になっております。昼食時には新医科歯科総合病院の見学ツアーも企画しておりますので是非この機会に皆様の参加をお待ちしています。

学術委員会も今期から人数を増やし、ウェブでの理事会をこまめに開催し皆様のお役に立てる様日々活動しております。今後ともご意見、要望等ありましたらご意見をお願いしたいと考えています。

西 耕作（15期）

第38回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会



令和4年8月28日（日）、13:00～17:00東京医科歯科大学歯科同窓会が主催し第38回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会がWebで開催された。

参加校は28校中27校出席者は68名で、本同窓会か

らは吉永会長、葛西が参加しました。

今回、各大学にコロナ後の生涯研修事業とこれからの学術担当者連絡会の活動について事前アンケートを取り、調査結果の報告と各内容に関するディスカッションが行われた。①コロナ禍2年間での生涯研修事業の取り組みについて、開催形式は2020年度、対策下通常開催2校、ハンズオン開催1校で、オンライン開催、ハイブリッド開催が多く、中止は10校。2021年度は対策下通常開催2校、ハンズオン開催3校、オンライン開催及びハイブリッド開催17校、中止6校、②講演会開催数と参加者数の増減については、増加した12校、減少した5校、変化なし4校、不明4校、無回答3校でした。

③コロナ後の生涯研修事業についての開催方法は通常講演、オンライン、ハイブリッド、ハンズオンセミナー等を各校検討とし、受講者のメールアドレスの収集と、管理、PRについては、新しい媒体のメールアドレス収集方法としてGoogleフォーム2校、Googleフォーム+メールアドレス2校、アンケート2校、QRコード2校でした。その他Z世代ではLINEの申し込みニーズが高く若い世代の受講者が増加したとの報告があり、興味深い内容でありました。オンライン講演における問題点やその対策については、コンテンツ流出対策、ライブ感がない、質疑応答が少ない、配信トラブルの対応等が挙げられました。④最後にその他有用と思われる知見等の報告では、Yahooのセミナー、イベント等の申込サイト、パスマーケットを活用すれば講演会・セミナー等の申込みから会計まで、事務手続き等が省ける媒体であるとの情報を得ました。

また、オンライン形式のハンズオンセミナーも、今後の検討課題となった。コロナ禍における現状、様々な取り組みや情報を集積し大いに参考になりました。

引き続き東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面解剖学分野 教授/テュレーン大学医学部脳神経外科学講座 准教授 岩永譲 先生の講演会が行われた。演題は「なぜ今、歯科臨床解剖か？」—私の考える歯学部解剖が目指すべき方向性—と題して歯科医師として、また、歯学部の解剖

学教員として、臨床解剖研究を教育に生かし、臨床解剖教育から得たフィードバックをもとにさらなる研究へと発展させていくための講演で今回はオトガイ孔の正常解剖、臼後部と舌側の臨床解剖について有意義なお話がありました。

最後に各大学からのスピーチが行われ、本校から同窓会会長吉永修先生が校友会学術担当者連絡会で得た情報、知見を参考に同窓生のために役立つよう同窓会に尽力したいと挨拶されました。2023年度、第39回学術連絡会は広島大学・岡山大学・徳島大学3校の主管で広島で現地リアル開催予定との挨拶で閉会となりました。

葛西秀夫（6期）

ご逝去のお知らせ

【大学関係】

松尾 繁先生（享年93）
歯科保存学第Ⅱ講座 元教授 令和4年6月5日

【同窓生】

河喜多伸一（4期	福岡北）	令和3年12月22日
福地 康浩（6期	佐賀）	令和4年2月26日
安本 勝観（17期	福岡北）	令和4年4月15日
栗原 宏行（25期	福岡東）	令和4年4月28日
石司 敏雄（12期	所属なし）	令和4年4月29日
白谷 誠二（9期	佐賀）	令和4年5月31日
西澤浩太郎（21期	大分）	令和4年8月15日
西嶋 浩樹（11期	山口）	令和4年8月19日
三股 政夫（9期	宮崎）	令和4年9月5日
城間 孝（11期	沖縄）	令和4年10月6日
安藤 順司（9期	沖縄）	令和4年10月27日
芦原求仁子（1期	熊本）	令和4年11月6日
下村 英二（1期	福岡南）	令和4年11月8日

学校法人福岡学園・福岡歯科大学 創立50周年記念事業報告

令和4年に、学校法人福岡学園・福岡歯科大学は、創立50周年を迎えました。その記念事業に協力すべく、本同窓会では、福岡歯科大学創立50周年記念事業準備臨時委員会を設置し、対応して参りました。

本委員会の最も大きな使命は、同窓生の皆様に、記念事業へのご寄付をお願いすることでありました。コロナ禍の中で、歯科医院経営も困難を極めている時期でありました。それにも関わらず、同窓生の皆様と各都府県同窓会会長の力強いご支援のおかげで、所期の目的を達成することができました。

この誌面をお借りしまして、ご協力を賜りました皆様に、衷心より敬意と感謝の意を表したいと存じます。本当にありがとうございました。

50周年記念事業の一環として建設されました、福岡歯科大学50周年記念講堂入り口横には、ご芳志を賜りました皆様の銘板が設置されています。機会がございましたら、新病院共々、ご高覧を賜りたいと存じます。

既に、ご存じの通り、令和4年7月24日（日）午前10時より、完成した500席を備えた、50周年記念

講堂において学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年の記念式典が挙行されました。

水田祥代理事長からの式辞の後、文部大臣代理、福岡市長、福岡県副知事、佐藤日本歯科医師会副会長など7名の方々から祝辞がありました。その後、記念講演や記念コンサートが行われましたが、当初企画されていた祝宴は、新型コロナ感染拡大防止のために急遽中止となりました。

設立当時は、見渡す限りの「田んぼ」であった大学周辺が、地下鉄の開業や高速道路の開通によって住宅地となって行く変遷、目覚ましい大学の施設拡充によって発展して来た様子が、脳裏を走馬灯のように駆け巡りました。校歌を歌いますと、私たちが育んでくれた大学への感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

50周年、本当におめでとうございます。そして、次の50年へ向けて更なる飛躍を祈念して止みません。

福岡歯科大学同窓会福岡歯科大学創立50周年
記念事業準備臨時委員会委員長 高嶺 明彦





病院との連結部分（渡り廊下）

1階 学生食堂



2階 記念講堂メインホール



緞帳（学生共済会寄贈）



感謝状贈呈



鏡割り



令和4年7月6日（水）福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念として、50周年記念講堂設立に伴いヤマハグランドピアノ（自動演奏付）を福岡歯科大学同窓会より5,060,000円（税込）を学園に寄贈しました。



各府県同窓会生花

第18期福岡歯科大学同窓会本部役員

令和3年4月1日～5年3月31日

役 職	氏 名	期	地 区
名誉会長	宮 口 厳	1	長崎
	高 橋 裕	3	学内/福岡北
最高顧問	寺 尾 隆 治	1	佐賀
顧 問	長 尾 博 通	1	大分
顧 問	岩 本 憲 明	2	福岡西
顧 問	伊 藤 明 彦	5	熊本
顧 問	比 嘉 奈津美	8	沖縄

同窓会長		吉 永 修	4	熊本
副会長	(総合対策)	高 嶺 明 彦	6	沖縄
	(総合対策)	石 田 哲 也	9	大阪
	(総合対策)	馬 場 篤 子	12	学内/福岡西
	(会員拡大対策)	中 四 良	5	福岡西
	(組織)	神 田 晋 爾	4	福岡西
	(学術)	上 田 秀 朗	5	福岡北
	(学内)	都 築 尊	18	学内/愛媛
	(広報・企画情報)	小 柳 進 祐	12	佐賀
	(福祉厚生)	水 谷 匡 秀	6	福岡西
	(選挙対策)	松 島 一 夫	8	沖縄
	(関東地区)	槇 原 政 博	7	関東
	(近畿地区)	藤 田 忠 篤	2	兵庫
	(近畿地区)	森 直 樹	6	奈良
	(中国地区)	大 橋 義 文	13	岡山
	(九州地区)	黒 木 康 夫	6	宮崎
(九州地区)		江 藤 ゆかり	12	宮崎
常務理事	総務	芝 池 覚	4	大阪
		中 岡 俊 智	12	大阪
	福祉厚生	俣 野 正 仁	5	長崎
	組織	吉 兼 透	22	福岡西
	広報・企画情報	大 川 伊 織	23	福岡南

役 職		氏 名	期	地 区
常務理事	学術	葛 西 秀 夫	6	福岡西
		松 永 興 昌	16	福岡西
	学内	内 田 竜 司	18	学内/熊本
	会計	浦 嘉 訓	12	佐賀
総務	理事（委員長）	石 本 圭	16	福岡西
	理事	岡 浩 司	7	福岡南
	理事	浅 尾 武	10	福岡北
	理事	村 川 昇	10	大阪
	理事	原 田 裕 教	12	大分
	理事	平 川 俊 洋	14	鹿児島
	理事	新 垣 斉	14	沖縄
	理事	椿 誠	16	熊本
厚生福祉	理事（委員長）	田 中 靖 彦	12	長崎
	理事	北 村 勝 文	9	福岡西
	理事	大 塚 秀 一	9	福岡西
組織	理事（委員長）	杉 本 大 輔	24	福岡西
	理事	花 水 麻 美	30	福岡西
広報・企画情報	理事	劉 中 憲	12	福岡西
	理事	田 代 剛	26	佐賀
学術	理事	江 崎 和 久	8	福岡南
	理事	西 耕 作	15	福岡南
学内統括	理事	大 城 希美子	29	学内 / 福岡西
	理事	吉 田 兼 義	28	学内 / 福岡南
	理事	山 口 雄一郎	32	学内 / 福岡西
	理事	谷 口 祐 介	33	学内 / 大阪
会計	理事	加 倉 加 恵	24	学内 / 広島

監事	今 本 道 也	2	福岡南
	城 戸 寛 史	6	学内/福岡西

選挙管理委員長	粉 泰 生	11	福岡西
---------	-------	----	-----

第18期福岡歯科大学同窓会委員会

総務委員会

役 職	氏 名	期	府 県
常務理事	芝池 覚	4	大 阪
常務理事	中岡 俊智	12	大 阪
理事（総務委員長）	石本 圭	16	福 岡 西
理事（総務）	岡 浩司	7	福 岡 南
理事（総務）	浅尾 武	10	福 岡 北
理事（総務）	村川 昇	10	大 阪
理事（総務）	原田 裕教	12	大 分
理事（総務）	平川 俊洋	14	鹿 児 島
理事（総務）	新垣 齊	14	沖 縄
理事（総務）	椿 誠	16	熊 本

厚生福祉委員会

役 職	氏 名	期	府 県
副会長	水谷 匡秀	6	福 岡 西
常務理事	俣野 正仁	5	長 崎
理事（福祉厚生委員長）	田中 靖彦	12	長 崎
理事（福祉厚生）	北村 勝文	9	福 岡 西
理事（福祉厚生）	大塚 秀一	9	福 岡 西
委員（福祉厚生）	三箇 正賢	18	福 岡 北
委員（福祉厚生）	椿 賢	18	熊 本
委員（福祉厚生）	今田 圭二	21	福 岡 東

組織委員会

役 職	氏 名	期	府 県
副会長	神田 晋爾	4	福 岡 西
常務理事	吉兼 透	22	福 岡 西
理事（組織委員長）	杉本 大輔	24	福 岡 西
理事（組織副）	花水 麻美	30	福 岡 西

学内統括委員会

役 職	氏 名	期	府 県
副会長	都築 尊	18	学 内 / 愛 媛
常務理事	内田 竜司	18	学 内 / 熊 本
理事	吉田 兼義	28	学内/福岡南
理事	大城希美子	29	学内/福岡西
理事	山口雄一郎	32	学内/福岡西
理事	谷口 祐介	33	学 内 / 大 阪

学術委員会

役 職	氏 名	期	府 県
副会長（学術）	上田 秀朗	5	福 岡 北
常務理事（渉外担当）	葛西 秀夫	6	福 岡 西
常務理事（学術企画）	松永 興昌	16	福 岡 西
理事	江崎 和久	8	福 岡 南
理事	西 耕作	15	福 岡 南
委員	中村 恵子	18	学内/福岡北
委員	坂田 憲彦	20	福 岡 西
委員	鈴木 宏樹	23	福 岡 西
委員	青木 隆宜	26	福 岡 西
委員	森川 秀典	31	福 岡 南
委員	田中 宏	35	福 岡 北
委員	熊谷 徹弥	36	学内/福岡西
委員	松本 和磨	36	学 内 / 宮 崎
委員	宮園 祥爾	37	学内/福岡南
委員	荒川 未来	43	学内/福岡南

広報・企画情報委員会

役 職	氏 名	期	府 県
副会長	小柳 進祐	12	佐 賀
常務理事（委員長）	大川 伊織	23	福 岡 南
理事	劉 中憲	12	福 岡 西
理事	田代 剛	26	佐 賀
委員	香川 豊宏	15	学 内 / 香 川
委員	後藤加寿子	21	学内/福岡西
委員	川口 智弘	29	学内/福岡西
委員	廣松 亮	32	福 岡 南
委員	白本 和志	38	福 岡 西
委員	田平 和久	39	学内/鹿児島

会計委員会

役 職	氏 名	期	府 県
常務理事	浦 嘉訓	12	佐 賀
理事（会計副委員長）	加倉 加恵	24	学 内 / 広 島
委員（学術担当会計）	松本 彩子	35	学内/福岡南

学内・府県同窓会会長・評議員

地区会	府県	役 職	氏 名	期	勤 務 先
学 内		地区会会長・学内会長 (本部副会長)	都 築 尊	18	咬合修復学講座 有床義歯学分野
		評 議 員	橋 本 憲一郎	23	口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野
福 岡 県	福岡東	府県会長・評議員	平 岡 貴 礼	22	ひらおか歯科医院
		評 議 員	山 下 尚 志	2	医) 尚美会 山下歯科
	福岡西	地区会会長・府県会長	持 山 達 郎	13	持山歯科医院
		評 議 員	日 高 英 治	5	日高歯科医院
		評 議 員	小 河 清 裕	8	小河歯科医院
		評 議 員	中 田 宏	13	中田歯科医院
		評 議 員	赤 間 圭	14	たくみ歯科医院
		評 議 員	西 原 浩 平	10	西原歯科医院
		評 議 員	飯 田 聖 子	17	まえばる歯科医院
		評 議 員	池 田 正 博	18	いけだ歯科医院
		評 議 員	重 富 澄 保	24	重富歯科医院
		評 議 員	牧 野 正 敬	25	牧野歯科医院
	福岡南	府 県 会 長 (本部理事)	岡 浩 司	7	岡歯科医院
		評 議 員	吉 田 亨	11	よしだ歯科
		評 議 員	蒔 江 拓	13	しぶえ歯科・小児歯科
		評 議 員	姫 野 尚 宏	11	姫野歯科医院
		評 議 員	野 田 慎一郎	21	のだ歯科・小児歯科
	福岡北	府 県 会 長 (本部理事)	浅 尾 武	10	浅尾歯科医院
		評 議 員	川 野 俊 介	14	川野歯科医院
		評 議 員	友 岡 和 紀	17	友岡歯科診療所
		評 議 員	向 坊 明 浩	24	むかいぼう歯科
九 州	佐 賀	地区会会長・府県会長 (本部副会長)	小 柳 進 祐	12	小柳歯科医院
		評 議 員	山 口 倫 仁	7	やまぐち歯科医院
		評 議 員	寺 谷 烈	18	医) TERRA 矯正歯科 クリニック
		評 議 員	酒 井 正 男	14	酒井歯科医院
	長 崎	府県会長・評議員	渡 邊 知 英	13	わたなべ TOMO 歯科医院
		評 議 員	原 精一郎	21	はら歯科医院
		評 議 員	東 義 隆	21	東歯科医院
		評 議 員	橋 一 史	27	たちばな歯科
	熊 本	府県会長・評議員	渡 辺 猛 士	5	渡辺歯科医院
		評 議 員	武 藤 健 史	6	武藤歯科医院
		評 議 員	渡 辺 洋	9	渡辺歯科クリニック
		評 議 員	井 上 裕 邦	15	井上歯科クリニック

地区会	府県	役 職	氏 名	期	勤 務 先
九州	大 分	府県会長・評議員	山 田 道 男	6	高城やまだ歯科
		評 議 員	茂 山 裕 之	20	南立石イトセ歯科医院
		評 議 員	西 澤 浩太郎	21	にしざわ歯科口腔外科 クリニック
	宮 崎	府 県 会 長 (本部副会長)	黒 木 康 夫	6	黒木康夫歯科医院
		評 議 員	陶 山 隆	6	陶山歯科医院
		評 議 員	小 田 瑞 恵	12	恵歯科クリニック
	鹿児島	府県会長・評議員	要 光	11	かなめ歯科医院
		評 議 員	山之内 伸	1	山之内歯科医院
	沖 縄	府 県 会 長 (本部副会長)	松 島 一 夫	8	まつしま歯科医院
		評 議 員	根 間 政 宏	21	ねま歯科医院
		評 議 員	城 間 吉 弘	4	しろま歯科医院
中国	山 口	府県会長・評議員	佐々木 猛	1	佐々木歯科医院
		評 議 員	児 玉 昭 彦	5	児玉歯科医院
	広 島	府県会長・評議員	村 上 誠 一	7	村上歯科医院
		評 議 員	佐 藤 美穂子	4	医療法人社団裕穂会 さとう歯科医院
		評 議 員	西 谷 展	9	にしや歯科医院
	島 根	府県会長・評議員	青 笹 之 夫	2	青笹歯科医院
	岡 山	地区会長 (本部副会長)	大 橋 義 文	13	大橋歯科医院
		府県会長・評議員	平 和 義	7	ひら歯科クリニック
	四国	愛 媛	府 県 会 長	小 林 悟	4
高 知		府県会長・評議員	矢 野 宗 憲	9	矢野歯科医院
香 川		府 県 会 長	濱 岡 宏 典	9	はまおか歯科医院
徳 島		地区会長・府県会長・評議員	野 口 圭 司	2	野口歯科医院
近畿	大 阪	府 県 会 長 (本部副会長)	石 田 哲 也	9	石田歯科医院
		評 議 員	加 藤 秀 治	13	医療法人昭成会加藤歯科
		評 議 員	竹 田 具 弘	17	たけだ歯科
	京・滋	府 県 会 長	金 谷 徹	15	金谷歯科医院
	兵 庫	地区会会長・府県会長 (本部副会長)	藤 田 忠 篤	2	フジタ歯科医院
		評 議 員	宮 脇 正 樹	10	宮脇歯科医院
	和歌山	府 県 会 長	藤 田 知 則	8	藤田歯科診療所
	奈 良	府 県 会 長	上 林 融	3	上林歯科医院
中部	地区会長・府県会長・評議員	伊 藤 恒 一	2	中津第一歯科医院	
関東	地 区 会 会 長 (本 部 副 会 長)	榎 原 政 博	7	榎原歯科新橋 インプラントセンター	
	府県会長・評議員	中 野 裕 次	6	なかの歯科医院	

会 務 報 告

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

月日	曜日	詳 細	出 席 者	場 所
4/2	金	福岡歯科大学入学式		本学園
4/8	木	令和2年度監査	監事、秋山専務、 浦常務会計委員会	同窓会室
4/12	月	第1回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
4/19	月	令和3年度第1回総務委員会	総務委員会	Web 会議室
4/20	火	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長	本学園
4/25	日	令和3年度第1回理事会 Web ハイブリッド開催	本部役員	福岡県歯科医師会中ホール
4/26	月	第1回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
5/7	金	第2回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
5/12	水	2021年度臨床スキルアップセミナー第1回 目収録	学術委員会	同窓会室
5/15	土	長崎県同窓会総会		長崎県歯科医師会
5/17	月	第2回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
5/31	月	法人理事会・評議員会	宮口名誉会長、吉永会長、 神田・中副会長	本学園
6/4	金	第3回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
6/5	土	第68回全国歯科大学同窓・校友会懇話会 (愛知学院大学歯学部同窓会主催)	吉永会長、秋山専務	Web 会議室
6/21	月	第3回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
6/25	金	2021年度臨床スキルアップセミナー第1回 (オンデマンド開催)		ZOOM
7/6	火	第4回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
7/13	火	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
7/15	木	2021年度臨床スキルアップセミナー2回目 収録	学術委員会	Web 会議室
7/17	土	第1回組織委員会	組織委員会、秋山専務	福岡市歯科医師会
7/19	月	第4回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
7/27	火	福岡学園記念式典/第1回広報・企画情報 委員会	広報・企画情報委員会	Web 会議室
7/28	水	福岡県南同窓会総会	秋山専務	久留米歯科医師会館
8/16	月	第5回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
8/23	月	第5回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
8/27	金	2021年度臨床スキルアップセミナー第2回 (オンデマンド開催)		ZOOM
8/28	土	第37回全国歯科大学同窓会・校友会学術担 当者連絡会	矢野常務、松永理事	Web 会議室

9/21	火	第6回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
〃	〃	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
9/27	月	第6回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
9/30	木	2021年度臨床スキルアップセミナー 3 回目 収録	学術委員会	Web 会議室
10/14	木	福岡学園第46回献体者慰霊祭		萬行寺
10/18	月	第7回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
10/19	火	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
10/23	土	九地連		熊本県
10/25	月	第7回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
10/27	水	大阪府同窓会 Web 会議	吉永会長、秋山専務	Web 会議室
10/29	金	2021年度臨床スキルアップセミナー第3回 (オンデマンド開催)		ZOOM
10/29	金	学術講演会打ち合わせ	坂田先生、青木先生	Web 会議室
11/15	月	令和3年度第2回理事会 Web 会議	理事	Web 会議室
11/16	火	法人理事会、評議員会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
11/28	日	12校会議 WEB 会議	吉永会長	ZOOM
11/29	月	第8回学術委員会 WEB 会議	学術委員会	Web 会議室
12/2	木	口腔健康科学分野教授埴岡隆先生最終講義	尾崎顧問	601講義室
12/6	月	会長・監事選挙立候補届開始		
12/13	月	第34回講演会打ち合わせ	学術委員会坂田先生	Web 会議室
12/14	火	細胞生理学分野教授岡部幸司先生最終講義	尾崎顧問	601講義室
12/15	水	成育小児歯科学分野教授尾崎正雄先生最終講義	吉永会長	701講義室
12/20	月	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
〃	〃	病態構造学分野教授橋本修一先生最終講義	吉永会長	601講義室
12/27	月	会長・監事選挙立候補届締切		
1/5	水	会長・監事選挙辞退届期限		
1/12	水	第9回学術委員会	学術委員会	Web 会議室
1/16	日	第38回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会準備会	葛西常務理事、松永理事	Web 会議室
1/17	月	第8回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
1/20	木	法人理事会、評議員会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長、 神田・中副会長	本学園
1/28	金	2021年度臨床スキルアップセミナー第4回 (オンデマンド開催)		ZOOM
2/2	水	第10回学術委員会	学術委員会	Web 会議室
2/17	木	法人理事会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
2/21	月	第9回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
2/24	木	日本歯科医師連盟参与会議	吉永会長	日本歯科医師会会館 大会議室

2/27	日	福岡歯科大学主催第34回学術講演会（ハイブリッド開催）		福岡国際会議場 2 F201
3/1	火	第11回学術委員会	学術委員会	Web 会議室
3/12	土	卒業式	都築学内同窓会長	本学園
3/14	月	第10回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web 会議室
3/15	火	法人理事会、評議員会、50周年記念事業委員会	宮口名誉会長、吉永会長	本学園
3/25	金	歯科医師臨床研修医修了式	都築学内同窓会長	本学園
3/26	土	宮崎県同窓会学術講演会		宮崎県歯科医師会

一般会計

令和3年度 福岡歯科大学同窓会会計収入支出決算書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

収入の部

単位：円

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	執 行 率	備 考
1		会費・入会金	22,160,000	22,770,000	610,000	102.8%	
	1	会員	20,000,000	22,500,000	2,500,000	112.5%	会費及び入会金
	2	準会員	2,160,000	270,000	-1,890,000	12.5%	入会金
2		学術	2,300,000	2,995,900	695,900	130.3%	
	1	講演会	1,000,000	1,121,400	121,400	112.1%	33・34回 Web 学術講演会受講料
	2	臨床セミナー	0	126,500	126,500		次年度第38回臨床セミナー
	3	スキルアップセミナー	1,300,000	1,158,000	-142,000	89.1%	2021年度スキルアップセミナー
	4	抄録広告・CM料		590,000			スキルアップセミナー・講演会 企業広告収入
3		雑収入	901,000	1,900,076	999,076	210.9%	
	1	預金利息	1,000	76	-924	7.6%	一般会計分利息(762×10%)
	2	広告料	800,000	1,590,000	790,000	198.8%	同窓会誌・同窓生名簿広告
	3	その他	100,000	310,000	210,000	310.0%	同封手数料
		小 計	25,361,000	27,665,976	2,304,976	109.1%	
4		預り金	-12,000	-19,200			源泉徴収分一時預かり
	4	預り金	-12,000	-19,200			
5		前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0		
	1	前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0		
		合 計	32,214,066	34,511,842	2,297,776	107.1%	

支出の部

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	執 行 率	備 考
1		人件費	4,350,000	3,861,041	-488,959	88.8%	
	1	人件費	4,350,000	3,861,041	-488,959	88.8%	
2		通信費	960,000	1,606,940	646,940	167.4%	
	1	通信費	960,000	1,606,940	646,940	167.4%	通常郵送の他、選挙案内・50周年案内2回含む
3		事務費	540,000	472,191	-67,809	87.4%	
	1	事務費	540,000	472,191	-67,809	87.4%	
4		連絡会議費	3,850,000	167,998	-3,682,002	4.4%	
	1	連絡会議費	3,850,000	167,998	-3,682,002	4.4%	
5		広報印刷費	2,050,000	2,172,477	122,477	106.0%	
	1	広報印刷費	2,050,000	2,172,477	122,477	106.0%	同窓会誌40号・封筒印刷代
6		慶弔費	360,000	197,833	-162,167	55.0%	
	1	慶弔費	360,000	197,833	-162,167	55.0%	
7		学術費	2,600,000	2,700,429	100,429	103.9%	スキアップセミナー・34回 Web 学術講演会
	1	学術費	2,600,000	2,700,429	100,429	103.9%	
8		渉内費	3,200,000	189,588	-3,010,412	5.9%	
	1	渉内費	3,200,000	189,588	-3,010,412	5.9%	
9		渉外費	3,300,000	1,515,155	-1,784,845	45.9%	会長会務費用弁償
	1	渉外費	3,300,000	1,515,155	-1,784,845	45.9%	
10		雑費	100,000	17,263	-82,737	17.3%	
	1	雑費	100,000	17,263	-82,737	17.3%	
11		予備費	1,000,000	0	-1,000,000	-	
	1	予備費	1,000,000	0	-1,000,000	-	
12		積立金	4,500,000	4,500,000	0	100.0%	
	1	名簿積立金	600,000	600,000	0	100.0%	
	2	退職金積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	3	備品積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	4	周年記念準備基金	1,000,000	1,000,000	0	100.0%	同窓会記念事業の積立金
	5	学園改修等協力積立金	2,500,000	2,500,000	0	100.0%	学園施設改修等・事業協力基金
		小 計	26,810,000	17,400,915	-9,409,085	64.9%	
13		次年度繰越金	5,404,066	17,110,927	11,706,861	316.6%	
	1	次年度繰越金	5,404,066	17,110,927	11,706,861	316.6%	令和元年度繰越金
		合 計	32,214,066	34,511,842	2,297,776	107.1%	

令和3年度積立金会計収支決算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

単位：円

基 本 財 産 積 立 金	
過年度積立金	68,557,665
計上利息（普通・定期預金利息90%）	686
合 計（次年度繰越金）	68,558,351

周年記念準備基金			
収 入		支 出	
過年度積立金	12,106,995	残高証明書	330
本年度積立金	1,000,000		
利息（西日本シティ/野芥）	101	合 計	330
合 計	13,107,096	合 計（次年度繰越金）	13,106,766

学園改修等協力金			
過年度積立金	33,294,502	残高証明書発行手数料	103
本年度積立金	2,500,000		
利息（ゆうちょ銀行/通常貯金4月10月）	12		
利息（ゆうちょ銀行/通常貯金）			
利息（ゆうちょ銀行/定額貯金）		小 計	103
合 計	35,794,514	合 計（次年度繰越金）	35,794,411

名 簿 積 立 金			
過年度積立金	2,767,183	会員名簿確認案内郵送料	140,001
本年度積立金	600,000		
利息（西日本シティ/原）	26	小 計	140,001
合 計	3,367,209	合 計（次年度繰越金）	3,227,208

備 品 積 立 金	
過年度積立金	1,703,848
本年度積立金	200,000
利息（西日本シティ/野芥）	15
合 計	1,903,863

退 職 金 積 立 金	
過年度積立金	5,549,879
本年度積立金	200,000
利息（西日本シティ/野芥）	47
合 計	5,749,926

特別会計

令和3年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書

(PRF/CGF 臨床研究プログラム & NYU シンポジウムコース)

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

単位：円

収入の部

款	項	科 目	予 算 案	決 算 額	予算との差額	備 考
1		参加費	5,000,000	400,000	-4,600,000	
	1	参加費	5,000,000	400,000		NYU 協力金
2		雑収入	1,000		-1,000	
	1	雑収入	1,000			預金利息
小 計			5,001,000	400,000	-4,601,000	8.0%
3		繰入金	121,469	121,469		前期繰越金
	1	繰入金	121,469	121,469		
小 計			121,469	121,469	0	
収 入 合 計			5,122,469	521,469	-4,601,000	

支出の部

款	項	科 目	予 算 案	決 算 額	予算との差額	備 考
1		人件費	200,000	30,000	-170,000	
	1	人件費	200,000	30,000		
2		通信費	100,000	0	-100,000	
	1	通信費	100,000	0		郵送料等（一般会計へ振替）
3		会場費	100,000	0	-100,000	
	1	会場費	100,000	0		
4		講演費	750,000	0	-750,000	
	1	講師料	500,000	0	-500,000	講師・インストラクター礼金、交通費・宿泊代
	2	材料費	50,000	0	-50,000	材料・機材費
	3	昼食費	100,000	0	-100,000	
	4	印刷費	100,000	0	-100,000	
	5	その他	0	0	0	
5		事務費	100,000	0	-100,000	
	1	事務費	100,000	0		事務手数料
6		会議費	100,000	0	-100,000	
	1	会議費	100,000	0		
7		雑費	50,000	0	-50,000	
	1	雑費	50,000	0		
8		予備費	50,000	0	-50,000	
	1	予備費	50,000	0		
9		学会関連費	100,000	208,230	108,230	
	1	学会関連費	100,000	208,230		学会旅費、翻訳代
10		大学関連費	100,000	0	-100,000	
	1	大学関連費	100,000	0		
小 計			1,600,000	238,230	-1,361,770	14.9%
11		繰越金	3,522,469	283,239	-3,239,230	次年度繰越
	1	繰越金	3,522,469	283,239		
支 出 合 計			5,122,469	521,469	-4,601,000	

令和4年度福岡歯科大学同窓会会計収支予算書

収 入 額 29,211,000円 支 出 額 27,750,000円
前年度繰越金 17,110,927円 次年度繰越金 18,552,727円

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

収入の部

単位：円

款 項	科 目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備 考
1	会費・入会金	22,770,000	24,410,000	1,640,000	
1	1 会員	22,500,000	22,340,000	-160,000	会費及び入会金（国試合格者34名含み）
2	2 準会員	270,000	2,070,000	1,800,000	入会金（学生）
2	学術	2,995,900	3,800,000	804,100	
1	1 講演会	1,121,400	1,050,000	-71,400	Web 講演会
2	2 臨床セミナー	126,500	1,000,000	873,500	第38回臨床セミナー
3	3 スキルアップセミナー	1,158,000	1,200,000	42,000	2022年度臨床スキルアップセミナー（オンデマンド配信）
4	4 抄録広告・CM料	590,000	550,000	-40,000	講演会・スキルアップセミナー企業CM/広告料
3	雑収入	1,900,076	1,001,000	-899,076	
1	1 預金利息	76	1,000	924	普通預金利息10%
2	2 広告料	1,495,000	800,000	-695,000	同窓会誌広告
3	3 求人広告	95,000	100,000	5,000	
4	4 その他	310,000	100,000	-210,000	同封手数料
	小 計	27,665,976	29,211,000	1,545,024	
4	預り金	-19,200	-19,200		源泉徴収分預かり
4	4 預り金	-19,200	-19,200		
5	前年度繰越金	6,865,066	17,110,927	10,245,861	前年度から繰越
1	1 前年度繰越金	6,865,066	17,110,927	10,245,861	
	合 計	34,511,842	46,302,727	11,790,885	

支出の部

款 項	科 目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備 考
1	人件費	3,861,041	6,900,000	3,038,959	
1	1 人件費	3,861,041	6,900,000	3,038,959	外部委託、パート・アルバイト込
2	通信費	1,606,940	1,100,000	-506,940	
1	1 通信費	1,606,940	1,100,000	-506,940	通信費・郵送料他
3	事務費	472,191	520,000	47,809	
1	1 事務費	472,191	520,000	47,809	コピー代、消耗品他
4	連絡会議費	167,998	2,470,000	2,302,002	
1	1 連絡会議費	167,998	2,470,000	2,302,002	各会議・WEB 会議費用弁償等
5	広報印刷費	2,172,477	2,300,000	127,523	
1	1 広報印刷費	2,172,477	2,300,000	127,523	同窓会誌
6	慶弔費	197,833	330,000	132,167	
1	1 慶弔費	197,833	330,000	132,167	
7	学術費	2,700,429	3,050,000	349,571	
1	1 学術費	2,700,429	3,050,000	349,571	学術事業関係
8	渉内費	189,588	2,650,000	2,460,412	
1	1 渉内費	189,588	2,650,000	2,460,412	府県同窓会総会・学術講演会・出張費
9	渉外費	1,515,155	2,830,000	1,314,845	
1	1 渉外費	1,515,155	2,830,000	1,314,845	学園関係・渉外活動費・学会助成金
10	雑費	17,263	100,000	82,737	
1	1 雑費	17,263	100,000	82,737	
11	予備費	0	1,000,000	1,000,000	
1	1 予備費	0	1,000,000	1,000,000	
12	積立金	4,500,000	4,500,000	0	
1	1 名簿積立金	600,000	600,000	0	
2	2 退職金積立金	200,000	200,000	0	
3	3 備品積立金	200,000	200,000	0	
4	4 周年記念準備基金	1,000,000	1,000,000	0	同窓会周年記念事業の積立金
5	5 学園改修等協力積立金	2,500,000	2,500,000	0	学園施設改修等事業協力基金
	小 計	17,400,915	27,750,000	10,349,085	
13	次年度繰越金	17,110,927	18,552,727	1,441,800	次年度へ繰越
1	1 次年度繰越金	17,110,927	18,552,727	1,441,800	
	支 出 合 計	34,511,842	46,302,727	11,790,885	

令和4年度福岡歯科大学同窓会積立金収支予算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

単位：円

学 園 改 修 等 協 力 金	
福岡学園創立50周年 グランドピアノ寄贈 (株)日本楽芸社	5,170,000

名 簿 積 立 金	
2021年度名簿印刷代 大同印刷(株)	1,354,500
名簿送料 (株)タウンズポスト	245,914
合 計	1,600,414

備 品 積 立 金	
デスクトップパソコン2台	600,000
同窓会ホームページリニューアル	500,000
合 計	1,100,000

特別会計

令和4年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支予算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部

単位：円

款 項	科 目	前年度決算額	予 算 案	予算との差額	備 考
1	参加費	400,000	0	400,000	
	1 参加費	400,000			
2	雑収入	0	0	0	
	1 雑収入				預金利息
小 計		400,000	0	400,000	
3	繰入金	283,239	283,239		前期繰越金
	1 繰入金	283,239	283,239		
小 計		283,239	283,239	0	
収 入 合 計		683,239	283,239	400,000	

支出の部

款 項	科 目	決 算 額	予 算 案	予算との差額	備 考
1	人件費	30,000	90,000	60,000	NYU コース インストラクター費用
	1 人件費	30,000			
2	通信費	0	0	0	
	1 通信費	0			郵送料等（一般会計へ振替）
3	会場費	0	0	0	
	1 会場費	0			
4	講演費	0	0	0	
	1 講師料	0		0	講師・インストラクター礼金、交通費・宿泊代
	2 材料費	0		0	材料・機材費
	3 昼食費	0		0	
	4 印刷費	0		0	
	5 その他	0		0	
5	事務費	0	0	0	
	1 事務費	0			事務手数料
6	会議費	0	0	0	
	1 会議費	0			
7	雑費	0	0	0	
	1 雑費	0			
8	予備費	0	0	0	
	1 予備費	0			
9	学会関連費	208,230	100,000	-108,230	
	1 学会関連費	208,230	100,000		学会関連関係
10	大学関連費	0	0	0	
	1 大学関連費	0			
小 計		238,230	190,000	-48,230	
11	繰越金	445,009	93,239	-351,770	次年度繰越
	1 繰越金	445,009	93,239		
支 出 合 計		683,239	283,239	-400,000	

〈会則〉

福岡歯科大学同窓会会則

第1章 総 則

第1条 名 称

本会は、福岡歯科大学同窓会と称する。

第2条 組 織

1. 本会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）した者及び福岡歯科大学在校生で組織する。
2. 本会は、各地区、学校法人福岡学園勤務の同窓との連携を計り、会務運営の円滑を期待するために地区会、学内同窓会を置くことができる。
3. 地区会の区割り及び学内同窓会、その他必要な事項については別に規則を定める。

第3条 目 的

本会は歯科界、並びに母校の発展に寄与し、併せて会員の福祉及び会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第4条 事 業

本会は、第1章第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 母校の発展に関すること。
2. 会員の福祉増進及び親睦に関すること。
3. 歯科医学の向上に関すること。
4. その他本会の目的に関すること。

第5条 事務局

本会は事務局を福岡市早良区田村2丁目15-1、福岡歯科大学内に置き所在地とする。

第2章 会 員

第6条 会 員

本会は次の会員を以って組織する。

1. 正会員 福岡歯科大学（大学院を含む）卒業（修了）者で、第2章第7条第1項を満足するものとする。
2. 準会員 福岡歯科大学在校生。

第7条 会員の権利と義務

1. 会員は居住、又は就業する地域の地区会都道府県同窓会に所属することを原則とする（但

し、学内同窓会に所属する会員は、この限りではない）。

2. 会員は本会の主催する事業に参加し、本会の発行する機関誌及び印刷物の頒布を受け、若しくは購入することができる。
3. 会員は総会に出席し、意見を述べることができる。
4. 会員は、総会並びに評議員会の決定事項を遵守する義務を有する。
5. 会員は、住所を異動した場合、所属の都道府県同窓会を経由して本会に届け出なければならない。
6. 会員が死亡又は除名されたときは、本会会員の身分を失ったものとする。
7. 会員が本会を退会するときは、その旨を記載した書面を本会に提出しなければならない。
8. 正会員は、総会において議事を審議し、議決権を有する。また役員になることができる。
9. 準会員は、本校在学者とし、正会員としての権能は有しない。

第3章 名誉会長・名誉会員・

特別会員・臨床研修会員

第8条 名誉会長・名誉会員・特別会員・臨床研修会員

本会に名誉会長、名誉会員、特別会員、臨床研修会員を置くことができる。また、前項の会員は、本会の研修会等に出席し学術研究を発表し、あるいは本会の会誌及び刊行物の配布を受けまたは購入することができる。本条の会員は前項のほか、正会員の権利を有しない。但し、本会員の正会員で名誉会員に推薦された者はこの限りではない。

1. 名誉会長は、理事会の議決を経て会長が推薦する。任期は、会長の在任期間とする。
2. 名誉会員は、母校並びに本会に対して特に功労があった者を評議員会の議決を経て会長が推薦する。
3. 特別会員は、退職した母校の教授、または母

〈会則〉

校並びに本会に対して特に功労があった者を理事会の議決を経て会長が推薦する。

4. 臨床研修会員は、他大学卒業の歯科医師法に定める臨床研修歯科医師で、本学で臨床研修を行っている者を会長が推薦する。また、会員の資格は臨床研修の期間とする。

第4章 会費及び負担金

第9条 会費及び負担金

1. 会員は本会所定の入会金、会費、及び負担金を本会へ納入しなければならない。
2. 入会金、会費及び負担金の額ならびに支払いの方法は、総会で決める。

第10条 会費の減免

本会の会員にして長期疾病及び災害等により本会所定の会費の支払いが極めて困難な者は、都道府県同窓会会長の申請に基づき理事会の議を経て、復帰するまでの期間を前提として会費を減免、またはその納入を猶予することができる。但し、都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、本部へ直接減免願いを提出することができる。

第11条 会費の返還

本会に納入された入会金、年会費及び負担金はいかなる理由があっても返還しない。

第12条 負担金その他

本会は、評議員会、総会の承認を経て負担金を徴収することができる。

第5章 役員

第13条 役員の種別と定数

本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副会長 若干名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3名以内

第14条 役員の選出

1. 会長、監事は選挙規則に従い、評議員会において正会員の中から選出する。但し、監事は他役員を兼任できない。
2. 副会長、理事、委員は会長が指名する。

3. 理事の内、1名を専務理事、若干名を常務理事とする。

第15条 役員の職務

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 会長は総会、評議員会、理事会、委員会、地区会長会議を招集する。
3. 会長は、理事会の決議を要する事柄でありながら、緊急必要事項については専決することができる。但し、後日理事会へ報告しなければならない。
4. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時または欠けた時は会長の職務を代行する。
5. 専務理事は、会長の旨を受け会務を掌理し、会長及び副会長共に事故ある時または欠けた時はその職務を代行する。
6. 常務理事は、会長の旨を受けその担当業務を掌理して専務理事を補佐する。
7. 各前号に定める以外の理事は、会長の旨を受けて会務を分掌して会長を補佐する。
8. 監事は本会の業務と会計を監査し、評議員会、総会に報告しなければならない。

第16条 役員の任期

1. 会長、監事及び役員、委員の任期を2年とする。但し、再任を妨げない。
2. 役員は任期満了後も、後任が選出されるまでは、その職務を行う。

第17条 役員の補充

副会長、理事の欠員が生じた時は、本会会則5章第14条に従い補充することができる。その任期は前任者の残留任期とする。

第18条 顧問・最高顧問・特別顧問

本会は、顧問・最高顧問・特別顧問を置くことができる。顧問・最高顧問・特別顧問は会長が推薦し委嘱する。顧問・最高顧問・特別顧問は原則として本学同窓生とする。顧問・最高顧問・特別顧問の任期は、委嘱した会長の在任期間とする。顧問・最高顧問・特別顧問は会長の諮問にこたえ本会の各種会議に出席して意見を述べることができる。ただし表決に加わることはできない。

〈会則〉

第6章 評 議 員

第19条 評議員

1. 本会に評議員を置く。
2. 評議員は第13条で規定する役員と兼ねることができない。

第20条 選任等

1. 評議員は正会員で地区会、学内同窓会より選出される。
2. 評議員の選任数は、地区会、学内同窓会における1月末日現在の本会会員50名までに対して1名、50名を超える場合は、50名までごとに1名の割合で加えた数の評議員を上限として選出するものとする。
3. 地区会、学内同窓会は評議員に変更がある場合は、速やかに本会に報告しなければならない。
4. 評議員の任期は2年とし、選任された年の4月1日に始まる。

第21条 職務及び権能

1. 評議員は評議員会に出席し、地区会、学内同窓会の同窓会会員の意見を反映させると共に、その決定事項を地区会、学内同窓会の同窓会会員に報告しなければならない。
2. 評議員は、評議員会で会則その他の規定で定められていることを審議し、又は、本会の目的、事業について意見を述べることができる。

第22条 職務代理及び代行

評議員に事故ある時または欠けた時は、当該地区より評議員会の議長宛に委任状を提出するか、または当該地区より代理人は書面をもって指定し届ける事とする。代理人は、評議員と同等の権利と義務を有する。

第7章 会 議

第23条 会議の種類

1. 本会の会議は、総会・評議員会・常務理事会・理事会・委員会・地区会会長会議とする。但し、会長は必要に応じ会議を開催することができる。
2. 評議員会を本会の最高議決会議とする。

〈会則〉

第8章 総 会

第24条 構成・種別及び開催等

1. 総会は正会員を以って構成し、議決、報告及び承認する。
2. 総会は定時総会と臨時総会とする。
3. 定時総会は毎年1回原則として5月に開催する。
4. 臨時総会は、会長が必要と認めた場合に開催する。

第25条 招 集

1. 評議員の3分の2以上又は監事から、臨時総会の招集の要求があった場合は、会長はできるだけ早く臨時総会を招集しなければならない。
2. 会長は総会を招集しようとする時は、事前に日時、場所及び会議の目的を示した書面を以って会員に知らせなければならない。

第26条 総会の権能

総会では、次の事項を承認又は議決し会員へ報告しなければならない。

1. 評議員会の決議承認事項
2. 会務全般にわたる事項
3. その他、総会において必要と認めた事項

第27条 議長及び副議長

総会の議長及び副議長は出席正会員の中から選出する。

第28条 委任規定

議事規則は、別に定める。

第9章 評 議 員 会

第29条 構成・種別及び召集

評議員会は評議員を以って構成する決議機関である。

1. 評議員会は定時評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定時評議員会は総会開催前に会長が招集する。
3. 臨時評議員会は会長が必要と認めた時、あるいは全評議員の4分の1以上の要求があった時に招集する。
4. 評議員会は、委任状を含む全評議員の3分の

〈会則〉

2以上の出席で成立する。

第30条 意見陳述

役員は評議員会に出席して意見を述べることができるが、表決に加わることはできない。

第31条 評議員会の権能と総会への上程

評議員会では次の事項を行い承認又は議決を経てこれを総会へ上程する。

1. 会則及び諸規則改正の審議
2. 会長選出
3. 前年度会計報告の審議並びに承認
4. 前年度会務及び事業報告の審議並びに承認
5. 新年度予算案の審議並びに承認
6. 役員の承認
7. 入会金、会費及び負担金の金額並びに徴収方法の決定
8. 本会の目標達成に必要な事業で経費を要するものの承認
9. その他の必要と認める事項

第32条 議長及び副議長

評議員会の議長及び副議長は評議員で互選する。

第33条 委任規定

議事規則は別に定める。

第10章 常務理事会

第34条 常務理事会の構成

常務理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事を以って構成し会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第35条 権 能

常務理事会は、常務会務並びに緊急を要する会務に関することを執行する機関であり、会長がこれを招集する。

1. 常務理事会で処理した事項は、理事会に報告しなければならない。

第11章 理 事 会

第36条 理事会の構成及び招集

1. 理事会は、本会の会務全般を執行する機関であり、会長がこれを招集する。
2. 理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理

事、理事、委員を以って構成し、会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第37条 理事会の権能

理事会は本会の業務に必要な事項の審議を行う。

1. 総会及び評議員会の招集に関する事項とこれに付議する事項
2. 会費の減免に関する事項
3. その他本会の運営業務執行に関する事項

第38条 監事の権能

監事は随時出席して意見を述べるができるが表決に加わることはできない。

第12章 委 員 会

第39条 委員会

1. 会長は、必要に応じて理事会の同意を得て、委員会を置くことができる。
2. 委員会は、理事会の議を経て会長が委嘱した委員で構成する。
3. 委員会の種類、構成、活動は必要に応じ理事会で決定する。
4. 会長は随時必要な場合にこれを招集することができる。

第40条 委員会の事業

委員会は、会務処理の円滑を図るため次の事業部を置き、常務理事会が各委員会を統括をする。

1. 総務
2. 福祉厚生
3. 組織
4. 広報・企画情報
5. 学術
6. 学内統括
7. 会計

第41条 臨時委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた時に理事会の承認を経て臨時委員会を設置することができる。
2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第42条 特別委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた

〈会則〉

〈会則〉

ときに評議員会の承認を経て特別委員会を設置することができる。

2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第13章 地区会会長会議

第43条 地区会会長会議

本会議は、会長が必要と認めたとき随時開催することができる。

第14章 選挙管理委員会

第44条 選挙管理委員会

1. 本会に選挙管理委員会を置く。
2. 選挙管理委員会は、選挙管理委員をもって組織する。
3. 選挙管理委員会の構成及び任務その他必要なことは、選挙規則で定める。

第15章 会計及び財産

第45条 会計年度

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第46条 財産の構成

本会の財産は、次にあげるものをもって構成する。

1. 入会金
2. 年会費
3. 寄付金
4. 前年度の繰越金
5. その他の収入

第47条 財産の管理

本会の財産は、会長が代表としてこれを管理し、毎年その状況を評議員会、総会で報告しなければならない。

第48条 経費の支弁

本会の経費は、財産をもって支弁する。

第49条 委任規定

本規則に定める以外の財産の管理及び会計に関する規則は別に定める。

第16章 賞 罰

第50条 表 彰

会員で本会に功労のあった者、及び医療界に貢献した者は、評議員会の議決によって表彰することができる。

第51条 処 罰

会員で本会の目的趣旨に反し、またはその体面を汚したものは総会の議決によって適当な処置を講ずる。

第17章 会則の改正

第52条 会則の改正

本会則の改正には、評議員会及び総会において出席者の3分の2の賛成を以って議決されることを要する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成23年5月28日から施行する。
4. この規則は平成26年4月1日から施行する。
5. この規則は平成29年5月27日から施行する。
6. この規則は令和元年5月25日から施行する。
7. この規則は令和4年6月11日から施行する。

〈会則〉

福岡歯科大学同窓会地区会設置規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 地区会は、地区会会長を選出できる。
2. 地区会に都道府県同窓会を置くことができる。

第2条 地区会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため地区会を置く。
2. 地区会は当該地域内の都道府県同窓会、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う機関とする。

第3条 地区会、都道府県同窓会の設置

各地区においては下記のように7地区（ブロック）に分割し地区の中に都道府県同窓会を置く。但し、福岡県に限っては4分割設置し、関東地区においてはこの限りでない。

福岡県地区会

（福岡県東、福岡県西、福岡県南、福岡県北）
同窓会

九州地区会

（長崎県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、
鹿児島県、沖縄県）同窓会

中国地区会

（山口県、広島県、島根県、鳥取県、岡山県）
同窓会

四国地区会

（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）同窓会

近畿地区会

（兵庫県、大阪府、京・滋、奈良県、和歌山県）
同窓会

中部地区会

（福井県、岐阜県、愛知県、三重県、石川県、
富山県、長野県、静岡県）同窓会

関東地区会

（関東以北の都道府県を含む）

第4条 地区会の任務

1. 地区会は評議員を選出する。
2. 地区会は次の事項を本会に届けなければならない。

（1）役員の名簿

（2）会員の異動

（3）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 地区会会長

地区会会長は、地区会から選出し、本部長が指名する。地区会会長は地区会を代表して次の任務を行う。

1. 地区会会長は地区の同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 地区会会長は本部との連絡を密にし、地区会の決定事項、実施した事項及び本会本部に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない

第6条 都道府県同窓会会長

都道府県同窓会会長は、都道府県同窓会会員から選出し、本部長が指名する。都道府県同窓会会長は都道府県同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 都道府県同窓会会長は都道府県同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 都道府県同窓会会長は地区会、本部との連絡を密にし、都道府県同窓会の決定事項、実施した事項及び地区会、本部に対する要望事項、その他必要な事項を地区会会長に報告しなければならない。

第7条 会議

1. 地区会会長は、必要に応じて会議を開催することができる。
2. 地区会会長は、会議に本部役員の出席が必要な場合、必要な役員を招聘することができる。
3. 近隣の地区会との協議が必要な場合は、合同で開催することができる。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。
4. この規則は平成28年6月11日から施行する。
5. この規則は平成30年6月2日から施行する。

〈学内同窓会規則〉

福岡歯科大学同窓会学内同窓会規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 学内同窓会は、学内同窓会会長を選出することができる。

第2条 組織

1. 学内同窓会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）したもの、準会員及び学内勤務会員で組織する。

第3条 学内同窓会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため学内同窓会を置く。
2. 学内同窓会は、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う。

第4条 学内同窓会の任務

1. 学内同窓会は評議員を選出する
2. 学内同窓会は次の事項を本会に届けなければならない。
 - （1）会員の名簿
 - （2）会員の異動
 - （3）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 会員

学内同窓会正会員

本会正会員で学校法人福岡学園勤務の者。

準会員

本会の準会員

第6条 学内勤務会員

学校法人福岡学園に5年以上勤務で、学内同窓会会長が推薦し本部理事会の議決を得て、会長が指名した者で、会費は正会員に準ずる。但し、正会員としての権能を有しない。

第7条 学内同窓会会長

学内同窓会会長は、学内同窓会会員から選出し本部の会長が指名する。学内同窓会会長は学内同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 学内同窓会会長は学内同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 学内同窓会会長は本部との連絡を密にし、学内同窓会の決定事項、実施した事項及び本会に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない。

〔附 則〕

1. この規則は平成26年4月1日から施行する。

〈学内同窓会規則〉

福岡歯科大学同窓会総会議事規則

第1章 会議の開閉

- 第1条 この規則は、本会会則第8章第28条に基づいて定めるものとする。
- 第2条 議事日程に記載した事項の議事が終わったときは、議長は散会を宣告する。会議を終わらない場合でも、議長は、過半数の賛成を得て延会又は散会をすることができる。
- 第3条 議長が会議を宣告する前、又は散会若しくは延会を宣告した後は、何人も議事について発言することはできない。
- 第4条 議事日程には、会議の日時及び会議に付する事項並びにその順序を記載しなければならない。

第2章 議 事

第1節 審 議

- 第5条
1. 審議中発言せんとする会員は、手を挙げ議長の許しを得て発言しなければならない。
 2. 二人以上発言を求めたときは、議長はその発言の順序を決めることを要する。
- 第6条 すべての問答は、議長に向かってしなければならない。
- 第7条 一議案の審議中は、他の議案について発言することはできない。
- 第8条 発言は、個人の事柄にわたってはならない。
- 第9条
1. 会員が発議しようとするときは、その理由を付し、建議を添え、5人以上の賛成者とともに連署して会議の2週間前までに会長に提出しなければならない。
 2. 動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。
 3. 議長は、第1項・第2項に規定する発議及び動議について議場に諮り、出席者の過半数の賛成を得た場合、これを議題とすることができる。

第2節 決 議

- 第10条 出席者は特別の理由がない限り、可否いずれかの数に加わらなければならない。

- 第11条 議長表決をとるときは、表決に附する事項を明らかにしなければならない。議長表決に附する事項を宣言した後は、何人も議案について発言することはできない。
- 第12条 賛否は出席者の過半数で決める。賛否を決める方法は、議長が適宜決める。賛否が同数のときは議長が決める。
- 第13条 修正案は、原案より先に賛否を決めなければならない。同一の議案について数個の修正案が提出された場合は議長が採決の順序を決める。その順序は、原案に最も遠いものから先に採決する。
- 第14条 修正案が全部否決されたときは、原案について賛否を決める。
- 第15条 修正案及び原案が共に過半数の賛成を得なかった場合は、委員会を設置して更に修正案を提出させることができる。
- 第16条 議決の条項中、字句の整理を議長に委任することができる。
- 第17条 討論終結及び散会、休憩の合議は、討論を用いないで議長が決める。
- 第18条 議長は、議事を妨げると認めるものがあるときは、退場を命ずることができる。
- 第19条 議長は、議事整理のためやむを得ないときは出席者の発言を止め又は中止することができる。

第3章 議 事 録

- 第20条 議事録には次の事項を記載する。
1. 総会の名称と開会の年月日時
 2. 出席者の氏名
 3. 会議に附した議案の題目
 4. 議題となった動議及び発議者の氏名
 5. 議決事項
 6. 賛否の数を計算したときはその数
 7. 議長において必要と認めた事項
- 第21条 議事録は、議長の指名した会員2人がこれに署名捺印しこれを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

〈評議員会議事規則〉

福岡歯科大学同窓会評議員会議事規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第9章第33条に基づいて定めるものとする。

第2条 氏名点呼

開議の時刻に至るときは、執行部はその席に着き、出席評議員の氏名を点呼する。

第3条 会議の開閉

1. 議長は、前条による氏名点呼の結果、定足数に達していることを確認したときは、開会を宣言する。
2. 会議の閉会は議長が宣言する。

第4条 欠席の届出

1. 評議員が欠席しようとするときは、予め議長に委任状と共に届けなければならない。
2. 評議員は、出席できないときは、その職務を代理する代理人を議長に届け出なければならない。

第2章 議 事

第5条 議題の宣言

議長は、会議に付する案件を議題とするときは、その旨を宣言する。

第6条 一括議題

議長は、必要があると認められるときは、2件以上の案件を一括して議題とすることができる。

第7条 案件の説明と質問

会議に付する案件は会議において提出者の説明を聞き、質問がある時は質問を行わせ、質問が終わった時は討論に付しその終結の後、表決に付する。

第8条 議決案件の条項、字句及び数字等の整理

評議員会は、議決の結果生じた条項、字句、数字、その他の整理については議長に委任することができる。

第3章 発 言

第9条 発言の許可等

1. 評議員が発言しようとするときは、挙手により議長を呼び自己の地区名と姓名を告げ、議長の許可を得なければならない。
2. 2人以上の挙手により発言を求めたときは、議長は先に挙手をした者と認めた者を指名して発言させる。
3. 評議員の発言は、すべて議長に向かってこれをなさなければならない。

第10条 発言内容

1. 発言はすべて簡明を旨とし、重複を避け、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。
2. 議長は、その発言が前項の規定に反すると認めるときは注意をし、なお従わないときは発言を禁止することができる。
3. 評議員は、議題になっている案件に限り、質問をすることができる。

第11条 発言時間

1. 議長は、必要があると認めたときは予め発言時間を定めることができる。
2. 前項により、発言時間の定めをした場合に、評議員の発言がその予定時間を超えたときは、議長は注意し、又は発言の中止を命ずることができる。

第12条 議事進行に関する発言

1. 議事進行に関する発言は、議題に直接関係あるものについて、又は議事進行上の問題について、質問し、注意し、又は希望を述べるものでなければならない。
2. 議事進行の発言が、その趣旨に反すると認めるときは、議長は直ちに制止しなければならない。

第13条 議長の発言及び討論

1. 議長が討論しようとするときは、案件朗読後評議員席に着き代理者を議長席に着かせなければならない。

〈評議員会議事規則〉

2. 議長が討論したときは、その議題の表決が終わるまで議長席に復することができない。

第14条 質疑又は討論の終結

質問又は討論が終わったときは、議長はその終結を宣告する。

1. 発言が尽きないときは、評議員から質疑又は討論終結の動議を提出することができる。
2. 前項の動議が提出されたときは、議長は直ちに表決しなければならない。

第4章 議 決

第15条 表決事項の宣告

議長は、議決しようとするときは、議決に付する議案又は動議の内容を宣告しなければならない。

第16条 挙手による表決

表決は、挙手により議長はその多少を認定して可否を宣告する。

第17条 修正案の採決の順序

1. 修正案は、原案より先に採決しなければならない。
2. 同一の議案について数個の修正案が出された場合は、議長が採決の順序を定める。その順序は原案に最も遠いものから採決する。
3. 修正案がすべて否定されたときは、原案について採決しなければならない。

第5章 発議と動議

第18条 発 議

評議員会において評議員が議案を提出しようとするときは、提案理由を付し、5人以上の賛成者とともに連署して、開催日の2週間前までに会長に提出することができる。

第19条 動 議

動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。

第6章 議 事 録

第20条 議事録の作成

議長は、評議員会の会期ごとに議事録を作成しなければならない。

第21条 議事録署名人

議事録は、議長及び当日議長の指名した出席評議員2名がこれに署名捺印し、これを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会監査規則

第1章 総 則

第1条 本会会則第5章第15条第8項の規定に基づいて監事が行う監査は、この規則に定めるところによる。

第2条 監査は会務運営と財産管理の全般について、その実態を正確に把握し運営の合理化と業務の改善に資すると共に過誤を防止し、財産の保全を図ることを目的とする。

第3条 監事は、前条の目的を達成するため経理の適正と財産の保全の監査を行う。

第4条 監査は、公平不偏なる態度をもって事実に基づいて行い、想像推察によって事象を判断してはならない。

第2章 監査の方法・種別及び時期

第5条 監査の方法は、書類監査と実地監査とする。

第6条 監査の種別は、定時監査と臨時監査に分かれ、次の各号によることとする。

(1) 定時監査は年1回、4月に行う

(2) 臨時監査は必要と認めた場合

第7条 実地監査は年1回以上行うものとする。

第8条 監事は監査を実施するために役員又は事務局に対し、帳簿、諸報告書及び諸統計その他必要な資料の提出を命じ、又は事実の説明その他監査に必要な事項を要求することができる。

第9条 監査は、書類、帳簿、証拠書類等の記録に基づき、突合わせ、分析、実査、質問、立会い等必要と認める監査手段を選択適応して実施する。又、監査手段の選択適応については、その重要性、範囲、日数、効果等を勘案して決定する。

第3章 監 査 報 告

第10条 監事は、監査の都度、監査報告書を次により作成し、会長に提出するとともに、評議員会及び総会に監査の実地状況及び結果などを総括し、文書により報告するものとする。

第11条 会長は監査の結果に基づき対策及び措置を必要とするときは、速やかに理事会にはかり措置するものとする。

第12条 監事の監査報告書は、本会の運営管理全般に関し、有効な改善を計るための重要な資料とするものである。

第4章 補 則

第13条 役員の任期満了の年の年度会計決算書の監査は、新任監事で行い、旧監事が立会いするものとする。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日より施行する。

福岡歯科大学同窓会財産管理及び会計規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は本会会則第47条に基づいて定めるものとする。

第2条 財産管理及び会計の責任者

1. 財産管理及び会計の最終責任者は、会長とする。
2. 会長は、財産管理及び会計について直接的責任を会員に対して負うものとし、会計担当役員がこれを補佐する。

第3条 予算統制

本会のすべての収入及び支出は、予算に基づいて統制を行う。

第4条 予算期間

予算は単年度予算とする。

第5条 予備費の設置

1. 不時の支出に充てるため予備費を設けることができる。

第6条 決算剰余金の次年度繰越

各会計年度において決算上剰余金を生じたときは、次年度に繰り越すものとする。

第2章 財産の管理

第7条 会計の資金区分

本会の会計は、次の資金区分による。

- (1) 一般会計資金
本会の経常的な事業活動に使用される資金
- (2) 積立会計資金
引当資金としての積立資金
- (3) 別途会計資金
別途の事業資金

第8条 会計相互間の貸借の禁止

各会計相互間の貸借を禁ずる。ただし、評議員会の承認を得た場合はこの限りではない。

第9条 運用収益金

各会計の運用収益金は、各会計に繰り入れるものとする。

第10条 寄付金品の使途

使途を決めて寄付された金品はその使途に用い、決められていないものは評議員会に諮って使途を決める。

第11条 取引銀行・有価証券・固定資産

1. 次の事項は、会長が理事会の議を経て行う
(1) 取引銀行の新設及び変更
(2) 有価証券（電話債券を除く）の取得、売却、貸付、入質
(3) 固定資産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質
2. 前項の規定にかかわらず、次の事項は評議員会の承認を要する。
(1) 多額の積立金の取引銀行の新設及び変更
(2) 不動産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質

第12条 金銭の定義

1. この規則で金銭とは、現金、預金および合同運用信託をいい、現金とは通貨のほか、小切手、郵便為替証書、振替貯金証書などをいう。
2. 公社債、債権などの有価証券及び手形は金銭に準ずるものとして扱う。

第13条 資金の範囲

本会において資金の範囲とは、次に掲げるものとする。

- (1) 第12条に規定する金銭
- (2) 短期間において入金或いは支払うべきことが確実な、未収、未払金等の債権債務

第14条 固定資産の定義

1. この規則で固定資産とは次に掲げるものをいう。ただし、時の経過によりその価値を減少する償却資産については、耐用年数が1年以上で1単位当たり取得価格が償却資産課税額のものをいう。

- (1) 有形固定資産
土地、建物（建物付属設備含む）・構築物・備品（機械装置、車両運搬具、器具含む）

- (2) 無形固定資産
借地権・施設利用権・電話加入権など
2. 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる資産は、会計書類上固定資産として仕訳する。

- (1) 長期預託を目的とした預金・合同運用信託、長期保有を目的とした有価証券など。

第15条 固定資産の取得価格

固定資産の取得価格は次の各号による。

- (1) 購入によるものは、購入価格に付帯費用を

〈財産管理及び会計規則〉

加算した金額

(2) 交換によるものは、交換に際し提供した物件の帳簿金額

(3) 贈与によるものは、評価額

第16条 物品の定義

この規則で物品とは、事務用品等で耐用年数1ヶ月以上で、1単位当たり取得価格が5千円以上、償却資産課税額未満のものをいう。

第3章 会 費

第17条 入会金及び年会費

正会員、準会員、勤務会員の入会金及び年会費は次のとおりとする。

1. 入会金 30,000円
2. 年会費 10,000円

第18条 支払方法

1. 本会所定の入会金、会費並びに負担金は所属の都府県同窓会を経由して本会に支払わなければならない。但し、所属の都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、直接本部に会費を支払うことを妨げない。
2. 会員は終身会員の資格を得るまでの本部同窓会会費を一括して納入することを認めることとする。但し、一括納入後はいかなる場合によっても会費の返金・追加徴収は行わないものとする。

第4章 会費の減額及び免除

第19条 会費の免除

1. 本会の会員にして、通算40年を経過し、本会則4章第9条第1項の義務を果たしているものについては、評議員会の承認を得て、その会費を全額免除する。
2. 本学卒業以外の本病院所属臨床研修医は、年会費は正会員の2分の1とし、入会金は免除とする。
3. その他の特別会員・名誉会長・名誉会員は、会費、入会金は徴収しない。
4. 前項のほか会員のうち特別な事情ある者に対しては、理事会の決定により、会費を減免することができる。

〈財産管理及び会計規則〉

第5章 予算の編成と執行

第20条 予算編成

予算編成は、会長が理事会の議を経てこれを行う。

第21条 予算科目

1. 予算は、収支の性質、目的に従い、款、項の科目に区別する。
2. 予算科目は、事業計画との関連を明瞭に表示する名称を用いる。

第22条 予算の補正

規程予算の変更を必要とするときは、会長は理事会の議を経て予算の補正を行い、評議員会の承認を求める。

第23条 款相互間の流用の禁止

予算の執行にあたって、各款の予算金額は、相互に流用してはならない。

第24条 予算執行上の理事会付議事項

次の事項は、会長が理事会の議を経て行い、次の評議員会で報告する。

- (1) 同一款内における各項の予算の流用
- (2) 緊急の必要にもとづく軽微なる予算の変更

第6章 決 算

第25条 決算の作成時期

会長は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に会計担当役員に決算書類の作成を求め、会長に提出する。

会長は理事会でこの決算書類を審議、監事の認証を得て、評議員会及び総会の承認を求める。

第7章 補 則

第26条 委 任

この規則の施行についての必要な事項は、会長が理事会の議を経て定める。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成24年5月26日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。
4. この規則は平成30年6月2日から施行する。
5. この規則は令和元年5月25日から施行する。
6. この規則は令和4年6月11日から施行する。

福岡歯科大学同窓会福祉共済規則

第1章 総 則

第1条 この規則は、本会会則第1章第4条第2項に基づいて規定する。

第2条 本共済は、福岡歯科大学同窓会会員を以って組織し、会員相互扶助の精神に基づき、福祉厚生をはかることを目的とする。

第3条 前述の目的達成の為、次のことを行う。
弔慰金、慰労金、会員の療養、火災、天災その他、福祉厚生に関して必要な給付を行う。

第2章 給 付

〈給付〉

第4条 給付の有無並びに支給額は理事会において決定する。

〈弔慰金〉

第5条 会員死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。但し5万円を上限とする。

第6条 名誉会員および特別会員の死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。

〈会員の療養〉

第7条 会員が入院加療の場合は次の通りとする。
(入院後2ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して診断書を本部に提出)

イ. 1ヶ月以上 3万円

〈火災〉

第8条 火災見舞金は、次の通りとする。(火災発

生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全焼又は総面積の50%以上 3万円

ロ. 総面積の50%未満 2万円

〈天災、その他〉

第9条 水害等の天災に対する見舞金は、次の通りとする。(災害発生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全壊又は総面積の50%以上の破壊 3万円

ロ. 床上浸水又は総面積の50%未満の破壊 2万円

〈会長先決〉

第10条 会長は、緊急必要事項については応急の処分をすることができる。但し、後日理事会への報告が必要である。

〈会則改正〉

第11条 本共済の規則改正は理事会の承認を経て改正される。

〔附 則〕

1. この改正規則は、昭和59年5月より施行する。
2. この改正規則は、昭和61年5月より施行する。
3. この改正規則は、昭和63年5月より施行する。
4. この改正規則は、平成2年5月より施行する。
5. この改正規則は、平成10年5月より施行する。
6. この改正規則は、平成19年5月より施行する。
7. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
8. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

〈選挙規則〉

福岡歯科大学同窓会選挙規則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第5章第14条第1項に基づいて定めるものとする。

第2条 選挙方法

選挙管理委員会が評議員会に委嘱する。

第3条 選挙管理組織

1. 選挙管理委員長を同窓会会長が指名し、評議員会の承認を得る。
2. 選挙管理委員長は選挙管理委員を若干指名することができる。

第4条 選挙管理委員長の任期

任期は2年とする。

第5条 選挙権

福岡歯科大学同窓会の評議員とする。

第6条 被選挙権

1. 福岡歯科大学同窓会正会員とする。
2. 重複立候補の禁止
候補者は会長と監事の重複立候補はできない。
3. 選挙事務関係者の立候補制限
選挙管理委員長、選挙管理委員は、その在職中に候補者となることはできない。立候補する場合は、その職を辞することとする。

第7条 選挙期日

選挙管理委員会が指定する日

第8条 選挙の告示

選挙は選挙期日の2ヶ月前に選挙管理委員会が告示する。

第9条 立候補の届出

選挙の告示から1ヶ月以内に郵送かあるいは文書で選挙管理委員会に届ける。

第10条 立候補の辞退

文書を選挙管理委員会の定める期日迄に選挙管理委員会に届ける。

第11条 当選人

1. 有効投票の最多数を得た者。

2. 得点が同数ならば（最多数同志）決選投票とする。

3. 候補者が定員数以内の場合には、投票を行わず、当該候補者をもって当選人と定める。なお、定員に足りないときには、別段の方法をとることができる。

第12条 当選人決定の告知及び告示

当選人が決定したら、選挙管理委員会は直ちに当選人の住所、氏名及び得票数、各候補者の得票数を会員に報告しなければならない。

第13条 当選の効力発生

当選人の住所、氏名の告示のあった日から生ずる。

第14条 選挙に際しては次の細則をもうける。

1. 選挙運動の期間
立候補の届出より選挙の前日まで。
2. 選挙運動
選挙管理委員会の指示に従う。
3. 選挙立会人
候補者は選挙立会人を1人指名して、前日迄に選挙管理委員会に届け出る。
4. 開票の指定及び告示
選挙管理委員会が指名及び告示する。

第15条 選挙規則の改正

選挙規則の改正は、選挙管理委員会が審議し、評議員会の承認を得るものとする。

〔附 則〕

1. この規約は、昭和54年3月より施行する。
2. この改正規約は、昭和58年5月より施行する。
3. この改正規約は、昭和62年5月より施行する。
4. この改正規約は、平成19年5月29日より施行する。
5. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
6. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

〈選挙規則〉

編集後記

大学を卒業して早21年。歯科医師となり社会に出て、自らの歯科医師スキルを上げ患者の口腔の健康を改善すべく日々治療をし、またプライベートも年々忙しくなり、なかなか自分の母校を訪れる機会がなかった。その間に地下鉄や都市高速道路が開通していたのは知っていた。

ところが令和4年度同窓会本部役員へお声がかかり、未熟ながら拝命することとした。ちょうど母校は創立50周年。令和4年7月24日、これが柿落としとなる福岡歯科大学50周年記念講堂で創立50周年記念式典が挙行され、久々大学に足を踏み入れた。

学生時代、登院でさまざまな思いの詰まった病院棟跡にその記念講堂は建築され、以前のテニスコートに真新しい非常に立派な医科歯科総合病院が建っていた。田の歯科祭でミュージックアソシエーションで演奏した大学と短大の間にあったグラウンドは、介護老人保健施設や特別養護老人ホームが、他にも福岡看護大学が新設され、看護師等の新たな医療従事者の育成も行われていた。

この21年間で『口腔医学』の創設・育成」を母校は着々と推し進めていた。今の歯科医師に必須項目である口腔健康管理や多職種連携が図れる環境面は整ってきた。しかし、ハードだけが揃っても医療の提供は決してできない。臨床医は患者から主訴や内なる願望を引き出し、それになるべく応えながら最良の医療を提供し、更には医科の医療従事者やケアマネジャー等介護福祉関係者とも連携を密にしながら治療に当たらなければならない。その際大切な

のは人と人とのコミュニケーション、言い換えるなら腹の見える関係であり、それが治療の成否を分けることも多々ある。ぜひ今の学生には、学生の時代に歯科関係者だけでなく、他の職種の人たちとたくさん交わり、コミュニケーションスキルを上げて欲しいものである。

逆に、今の学生が得意であろう分野もある。歯科だけでなく全医療、ひいては今の日本に求められているICT技術・DX（デジタルトランスフォーメーション）のスキルである。今後加速度的にそのデジタル化の勢いは進む。どうしても年齢を重ねるごとに保守的になり、新しいものへの受け入れが遅かったり、拒否したりしがちである。新しい世代が、柔らかな頭で新たな歯科界を生み出してもらいたい。

学生時代という多感な時期にどのような環境で学んだかは、後の人生に大きく影響を及ぼしている。いわゆる校風というものである。福岡歯科大学の校風は「真面目に遊び、やる時はやる」であろうと個人的には思っている。ただ色々なことを「真面目に遊ぶ」ことで、人とのコミュニケーションスキルはどんどん上達し、様々な困難に立った時も「やる時はやる」精神で柔らかな頭と最新のツールを武器にぶつかれば何かしらの打開策は開ける。綺麗な学舎でその精神を持った福岡歯科大学卒業の歯科医師が増えることが同窓会を盤石なものにするだろう。

常務理事 大川 伊織 (23期)



『背振』 第41号

福岡歯科大学同窓会誌 2022年12月22日発行

発行責任者 吉永 修

編集責任者 小柳 進祐、大川 伊織

福岡歯科大学同窓会

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1

TEL (092) 863-2966 FAX (092) 863-2967

E-mail dousoukai@college.fdcnet.ac.jp

URL <http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/index.html>

印刷所 大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀市久保原町大字上和泉1848-20

TEL (0952) 71-8520(代) FAX (0952) 71-8528

広報・企画情報委員会

副会長	小柳 進祐 (12期)
常務理事 (委員長)	大川 伊織 (23期)
理事	劉 中憲 (12期)
理事	田代 剛 (26期)
委員	香川 豊宏 (15期)
委員	後藤加寿子 (21期)
委員	川口 智弘 (29期)
委員	廣松 亮 (32期)
委員	白本 和志 (38期)
委員	田平 和久 (39期)

福岡歯科大学同窓会定時評議員会・第45回定時総会・特別講演会・懇親会のお知らせ

令和4年度定時評議員会・第45回定時総会・特別講演会・懇親会を下記の日程で執り行います。

なお、来年度より懇親会は会費制（1万円）となります。懇親会に出席される際は、事前申し込みが必要になります。詳細については後日、改めてお知らせいたしますので、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

記

日 時	令和5年6月17日（土）		
	評議員会・総会	16：30～18：00	電気ビル本館地下2階
	特別講演	18：00～19：00	//
会議会場	電気ビル本館地下2階（大会議室8号） 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号		
懇 親 会	懇親会会費：10,000円 19：00～ ホテルニューオータニ博多 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号（向側ホテルに徒歩で移動）		

会議・ご宴席承ります



株式会社西鉄ホテルズ 営業部 TEL. 092-781-0211・0311



RACE® EVO

レース エボ

ニッケル チタン ファイル

超柔軟性を実現！
周期疲労破折を軽減！
切削効率をアップ！
滅菌済み！

2022年4月
健保適用品
NI-Tiロータリーファイル

ヒートトリートメントによって実現した超柔軟性

レース エボを使用した臨床ケース



90度を超えるような湾曲では柔軟性の高い
ファイルを使用しないと形成は難しい。



コールドハイドロリック
コンデンセーションにて根管充填

臨床写真提供：ユーズデンタルクリニック院長 牛窪敏博 先生

医療機器認証番号 302AKBZX00094000 管理医療機器



白水貿易株式会社 福岡営業所

〒812-0013 福岡市博多区博多駅2-18-30 八重洲博多ビル5F
TEL (092) 432-4618 FAX (092) 432-4617

福岡デンタル販売株式会社

〒813-0034 福岡市東区多の津4-7-5 KNセンタービル
TEL (092) 629-1491 FAX (092) 629-1494

地球の貴重な資源をリサイクルして次世代へ

〈取扱品目〉

撤去冠、研磨屑、キャスト屑、
集塵機粉、産業廃棄物

〈営業窓口会社〉

JMT

日本メディカルテクノロジー株式会社

本社：〒163-0558

東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 6F
☎03-3993-2211 (代)

営業所：北海道、仙台、東京、神奈川、静岡、名古屋
大阪、福岡

- 東京工業品取引所において、金・銀・白金・パラジウムの4品目が、受渡供用品並びに指定鑑定業者として認定
- LPPMでのプラチナ・パラジウムの市場指定荷渡品の認定
- LBMAでゴールド・シルバーの市場指定荷渡品の認定
- 日本金地金流通協会正会員



〈精錬親会社〉
東京証券取引所市場第一部上場

松田産業株式会社

くらしを支える、良質な地域医療をすぐそばで。

30th
Anniversary
クオール

ael クオール薬局

Quality Of Life

全国すべての病院・医院の処方箋をお受けいたします。

クオール薬局福岡店 福岡県福岡市早良区田村2-15-35

TEL:092-836-6389 FAX:0120-088-901



お薬ができたらLINEでお知らせ

処方箋
LINEで簡単予約!

ご利用は
こちらから

友だち追加



チラシ・カタログ・ポスターから専門書・自費出版物まで、
すぐにお見積り致します。



大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20
<http://www.daidou-jp.com>

TEL(0952)71-8520

FAX(0952)71-8528

Thinking ahead. Focused on life.



Signo T series

Studio F. A. Porscheのデザイン哲学と、
モリタの妥協のない技術が融合した新たな形、
シグノTシリーズ。

Design by **STUDIO F·A·PORSCHE**



Signo T500



reddot design award
best of the best 2019



Signo T100



Signo T300

販売 株式会社モリタ 大阪本社：大阪府吹田市重水町3-33-18 〒564-8650 T 06.6380 2525 東京本社：東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03.3834 6161
お問合せ：お客様相談センター〈歯科医療従事者様専用〉 T 0800.222 8020(フリーコール)
製造販売 株式会社モリタ東京製作所 本社工場：埼玉県北足立郡伊奈町小室7129番地 〒362-0806
販売名：シグノT (シグノT500 シグノT300 シグノT100) 一般的名称：歯科用ユニット 機器の分類：管理医療機器 (クラスⅡ) 特定保守管理医療機器
医療機器認証番号：229AKBZX00081000 法定耐用年数 (償却年数)：7年

www.dental-plaza.com

詳しくはWebサイトを
ご覧ください

シグノTシリーズ



製品の詳細は
こちら



プロモーション
ビデオはこちら



歯科充填用フロアブルコンポジットレジン 前臼歯対応 ビューティフィル ユニシェード フロー



100年先にも輝く笑顔を
Bright smiles for another 100 years

シェード選択不要！
天然歯の色調と調和する
ユニバーサルタイプのフロアブルレジン



在庫管理がラク

付形性の高い
ゼロフロー

艶出し
カンタン



ビューティフィル ユニシェード フロー
1,2mL (2,2g) ... ¥3,200
【付属品】松風ニードルチップ (Thin Wall 20G) 5

ビューティフィル ユニシェード ブロッカー フロー
1,2mL (2,2g) ... ¥3,200
【付属品】松風ニードルチップ (Thin Wall 20G) 5

接着には
1本で
各種被着体に接着可能な

BeautiBond Xreme

がおすすめ



管理医療機器 認証番号
302AKBZX00026000
5.0mL 1セット ¥16,000

販売名	一般的名称	承認・認証・届出番号
ビューティフィル ユニシェード	歯科充填用コンポジットレジン	管理医療機器 医療機器認証番号 302AKBZX00097000



特長動画は
コチラ

価格は2022年9月現在の標準医院価格 (消費税抜き)



世界の歯科医療に貢献する

株式会社 松風

●本社：〒605-0983京都市東山区福福上高松町11 お客様サポート窓口(075)778-5482 受付時間8:30~12:00 12:45~17:00(土日祝除く) www.shofu.co.jp
●支社：東京(03)3832-4366 ●営業所：札幌(011)232-1114/仙台(022)713-9301/名古屋(052)709-7688/京都(075)757-6968/大阪(06)6330-4182/福岡(092)472-7595

PIEZOSURGERY®

white

mectron
medical technology
made in ITALY

骨の切断面へのダメージを抑え、
効果的に硬組織を形成します。



PIEZOSURGERY® white
ピエゾ ホワイト



ピエゾサージェリー®の
詳細はこちらから。
※スペック、臨床レポート、
動画等を閲覧いただけます。

インサートチップは安心の純正品をお使いください。

メーカー希望小売価格 ピエゾホワイト: 780,000円(税別) ※LEDハンドピース含む

販売名: ピエゾサージェリータッチ 一般的名称: 電動式骨手術器械 分類: 管理医療機器 認証番号: 224ALBZX00012000

**ピエゾサージェリー®は
一部保険適用です。**

歯科: J200-4-3 超音波切削機器加算 1,000点

注 区分番号 J069、J075 及び J075-2 に掲げる手術に
当たって、超音波切削機器を使用した場合に加算する。

医科: K939-8 超音波切削機器加算 1,000点 注 区分番号 K443、K444 及び K444-2 に掲げる手術に当たって、超音波切削機器を使用した場合に算定する。
詳細のお問合せ、デモなどのご希望は下記までお気軽にご連絡ください。弊社WEBサイトでも詳細をご覧ください。

製造販売元



株式会社 インプラテックス

いつも、とやかに

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-33-19 YDM日暮里ビル
TEL.03-5850-8555 FAX.03-5850-8505 www.itx.co.jp

お電話でのお問合せは土・日・祝祭日除く9:00~17:00にお願いいたします。

Kawaryo Group



歯科用スクラップを どうしていますか?

現在、環境問題は、地球規模となり、人々の生活に大きく関わっています。
一人一人ができること、市や国ができること、スケールは様々ですが、
企業ができることのひとつとして、限りある資源を大切に
そして有効に利用していくことがあります。
このリサイクルについて、独自のシステムを開発、構築し、
環境保全や人々に喜ばれる事業を目指しています。

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)ICAWARYO九州

0120-920-942

HP <http://www.kawaryo-q.co.jp>



九州本社	〒860-0052	熊本県熊本市西区田崎本町10-4 TEL 096-356-2578 / FAX 096-274-1221
福岡支社	〒812-0053	福岡県福岡市東区箱崎1-11-11F TEL 092-409-2418 / FAX 092-409-2427
鹿児島営業所	〒891-0112	鹿児島県鹿児島市魚見町112-12 TEL 099-297-6938 / FAX 099-297-6935
沖縄営業所	〒901-2214	沖縄県宜野湾市我如古2-7-12 TEL 098-897-4002 / FAX 098-988-0248

Kawaryo Group Organization

(株)ICAWARYO PGM 〒431-1103
静岡県浜松市西区湖東町5850-2F

ユタカ(株) 〒604-8467
京都市中京区西ノ京大炊御門町8-19

(株)ピージーエム・プラス 〒770-0006
徳島県徳島市北矢三町3-1-55

信頼・安心・真心のサポート



総合リスク産業
有限会社 ファイン

代表取締役

吉村 大二郎

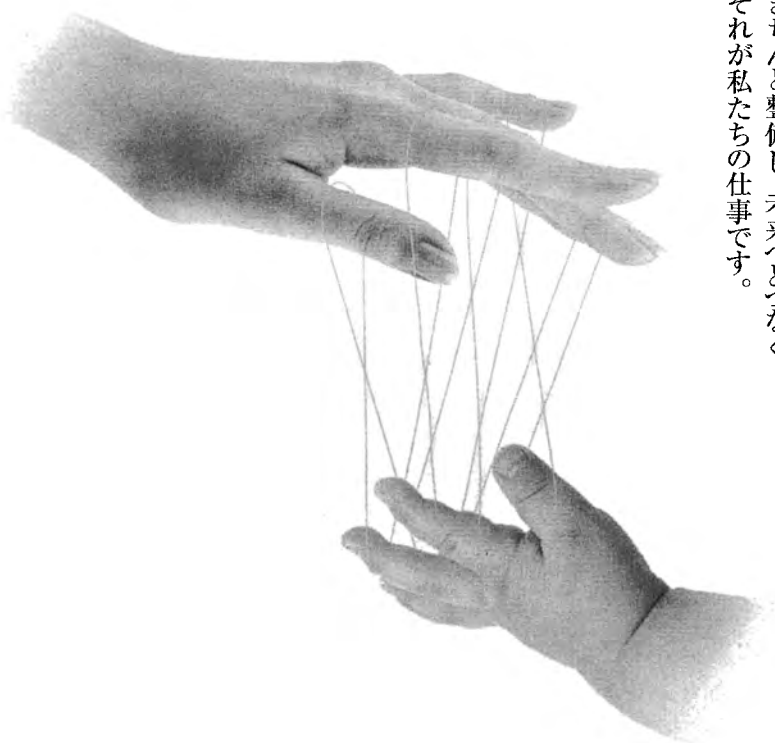
〒818-0132 太宰府市国分1-13-26

TEL(092)918-1230 FAX(092)918-1231

【取扱保険会社】

- ・三井住友海上火災保険(株)
- ・三井住友海上あいおい生命保険(株)
- ・メットライフ生命保険(株)

リスクマネジメント業務・保険に関するコンサルティング・交通事故相談



エネルギーがつくりだす
未来の環境を
あなたに。
未来を明るく
照らします。
世の中には、いろいろな電気の道が走っています。
その道をいろいろなカタチにしながら、
きちんと整備し、未来へとつなぐ。
それが私たちの仕事です。

HOT LINE OF HUMAN RELATIONS

設計・施工／電気設備工事(屋内・屋外)、空調・給排水衛生設備工事

株式会社 佐電工

本社／佐賀市天神1丁目4番3号 0952-23-4144
福岡支店／福岡市早良区祖原21番2号 092-821-3033

Precio Plus

~ Dental Clinic System

シンプルで直感的なシステム

カルテ
入力

予約管理

歯周検査

柔軟な連携システムで徹底した時短を実現

・どこよりも使いやすく、どこよりも速く

独自のマウス自動誘導機能を搭載。歯科未経験者にも正確な入力をサポート。マニュアル不要の直感的な操作感で、最短・最速の入力をご提供いたします。

・自社開発だからできる柔軟な連携

自社製の歯周検査システムと予約管理システムとの連携が可能。スムーズな連携で業務効率を向上。さらなる時短を実現。



株式会社 システム開発

本 社：〒880-0022 宮崎市大橋3丁目101番地1号
鹿児島支社：〒890-0066 鹿児島市真砂町84-1 MIKI BLD202
大 分 支 社：〒870-0025 大分市顕徳町1丁目14-1 河邊ビル103

TEL0985-22-1168 FAX0985-23-0831
TEL099-285-1030 FAX099-285-1031
TEL097-538-6163 FAX097-538-6164



子どもたちに 誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していた
あの頃から、私たちの
ものづくりへの気持ちは変わりません。
ずっと思い描いてきた夢や情熱を、
建造物に込めて未来へ伝えていきます。

SHIMIZU CORPORATION ㊦
清水建設

NEW

チェアサイド・マーケティング・ツール

VisualMax III プラス

ビジュアルマックス



患者コミュニケーションを円滑にして
患者さんに気づきを与え、
自由診療を伸ばす。

時系列で一元管理

画像、文書、検査結果などを
患者毎に整理

提供文書を ビジュアルでわかりやすく

チェアサイドで書き込みした画像を
提供文書に添付

850枚以上の 説明サンプル

自費等の訴求を支援
インプラント自費カルテも！

患者さんの離脱防止

活用事例動画はWebで！

ビジュアルマックス



メディア株式会社 九州支店

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-18-30 八重洲博多ビル7F
Tel: 092-433-6811 (代) Fax: 092-433-6812

公益社団法人日本口腔インプラント学会 専修医・専門医申請のための認定講習会

第29期生(2023年度)受講生募集

主催



九州インプラント研究会 (KIRG)

(公益社団法人日本口腔インプラント学会指定研修施設)

日本口腔インプラント学会認定専修医・専門医受験申請資格を得るためには、学会が定めた研修施設において所定の講習を受講し、その後継続して指導を受けなければなりません。KIRGでは、高い倫理性とプロフェッショナリズムをもってそのサポートをいたします。KIRGは受講生の皆さんに一流の講師陣によるベーシックからアドバンスまでの広汎な知識と技術の習得のお手伝いをさせていただき、口腔インプラント専門家への支援をいたします。なお、この講習会は学会会員以外の先生方にも公開されています。一緒に勉強し、ともに向上いたしましょう。



九州インプラント研究会会長 伊東隆利



■ 研修日程

- ① 2023年 4/15(土) ・ 4/16(日)
- ② 2023年 5/20(土) ・ 5/21(日)
- ③ 2023年 6/17(土) ・ 6/18(日)
- ④ 2023年 7/15(土) ・ 7/16(日)
- ⑤ 2023年 8/19(土) ・ 8/20(日)
- ⑥ 2023年 9/23(土) ・ 9/24(日)
- ⑦ 2023年 10/21(土) ・ 10/22(日)
- ⑧ 2023年 11/18(土) ・ 11/19(日)

■ 定 員 24名

■ 受講費用 95万円

(受講料80万円 器材・材料費別途15万円、消費税込み)

※月毎の分割払い可能(お支払方法についてはご相談ください)

■ 研修会場 (予定)

九州インプラント研究会研修施設

熊本市中央区桜町1-28-105 熊本デンタルフォーラム内
TEL: 096-352-5976 (担当: 佐藤 哲夫)

九州インプラント研究会(KIRG)のおすすめポイント

- ① 指導医 7名、専門医 89名、専修医 92名 を輩出している実績
- ② 研修会終了後の生涯研修が継続しやすいシステム (入会金1万円+年会費1万円)
- ③ 短期間での専門医取得実績 (最短研修終了後4年・高い合格率)
- ④ 充実したカリキュラムと実習、Q&A
- ⑤ KIRG主催学術講演会への無料参加と模擬ケースプレでの細かな指導
- ⑥ 定期的なKIRG会誌の発行、無料配布

九州インプラント研究会事務局

〒860-0851 熊本県熊本市中央区区銅本町4-14
伊東歯科口腔病院内(事務局担当:相良、兼子)
TEL 096-343-0377 FAX 096-341-1130
E-mail: kirg@itoh-dh.or.jp URL: <http://www.kirg-implant.jp>

受講料振込先

肥後銀行子飼橋支店 普通預金
店番号154 口座番号2072514
九州インプラント研究会
会計 相良 孝治



歯科医師募集

福利厚生が充実しており、
強い財務体制を持っているため、
安心して働ける環境です。

募集要項

給与

総支給：400,000円～1,000,000円
(新卒時400,000～)
経験年数によって変動あり

求める人材

学会での発表や講師としても活躍している歯科医師の
もとで、幅広い診療項目の深い知識と技術を身に付けたい方

福利厚生

退職金(3年勤務以上) / 賃金規定あり / 産前休暇(産前6週間) / 産後休暇(産後8週間)
/ 育児休暇(生まれた日から1年間) / 介護休暇 / 慶忌休暇 / 就業規則
/ 健康診断(全額医院にて負担) / 時短勤務 / 人事評価制度による年2回の昇給

医療法人徳治会
リクルートサイト



医療法人社団徳治会
吉永歯科医院

〒869-0521 熊本県宇城市松橋町浦川内824-8
TEL: (訪問) 0964-32-5893 (外来) 0964-32-5801

医療法人社団徳治会

松山歯科医院 MATSUSHITA
DENTAL OFFICE

〒866-0062 熊本県八代市豊原中町字南原2360-1
TEL: (訪問) 0965-65-9801 (外来) 0965-35-1881

医療法人社団徳治会

長野歯科医院

〒861-1103 熊本県合志市野々島4787-18
TEL: (訪問) 096-242-1987 (外来) 096-242-1891



歯科医師 衛生士 募集中



春次メディカルグループで
『働きやすさ』『やりがい』『スキルアップ』をご実感ください。



厚生労働省認可
臨床研修施設
(OBPデンタルクリニック)

スキルアップの獲得
インプラント専門医・
指導医在籍

福利厚生施設
箱根・湯布院・函館・
石垣島・南紀白浜

きれいでオシャレな
クリニック多数

スタッフルーム完備
リラックスできる

駐車場完備
通勤もラクラク
※一部のクリニックを除く



給 与	●歯科医師 月給50万円以上(歩合制もあり) ●歯科衛生士 月給24万円以上
勤務時間	週間労働時間40時間 ※相談可
休 日	完全週休2日制
待 遇	昇給年1、賞与年2、交通費全額支給、歯科医師国保、 雇用・労災保険、制服貸与
勤 務 地	OBPデンタルクリニック(大阪市中央区)、古川橋駅前歯科(門真市) ハル歯科クリニック(寝屋川市)、もずデンタルクリニック(堺市) 藤井寺デンタルクリニック(藤井寺市)、塚口駅前デンタルクリニック(尼崎市) いこまデンタルクリニック(生駒市)、樫原デンタルクリニック(樫原市) へぐり歯科(平群町)、東近江歯科(東近江市) ※勤務地応相談 ※遠方の方は住居手当等応相談
応 募	下記の採用担当迄ご連絡ください。

■春次メディカルグループ

TEL.06-7709-9367 FAX.06-6910-1189

〒540-6121 大阪府大阪市中央区城見2丁目1-61 ツイン21・MIDタワー21階

◎まずは採用担当迄、お気軽にお問い合わせください。(平日9時～18時)

◎各クリニック見学等は随時ご予約の上、受け付けております。

- **同窓会の入会金と年会費**：入会金 3 万円、年会費 1 万円
同窓会誌・名簿等の刊行物の発送は同窓会会費の支払いが、3年以上未納が続いた場合は停止されます。また、学術講演会・セミナーの参加も会員外の参加費となりますので、同窓会費の納入（年会費1万円）をお願いし
- **終身会費制度**：通算 40 年を経過して会費納入がなされた会員に対しては、以後の会費は免除される制度です。できるだけ、滞納なくお支払いされる事をお勧めします。
- **住所・氏名等の変更届け**：用紙にご記入の上ファックス等でお送り下さい。
- **地区同窓会（支部）へ参加しましょう。**
地元の地区同窓会の活動は身近で、同窓生同士で共に理解することができ、同窓会という横の繋がりが地域活動の中では時には、非常に有り難いものがあります。出来るだけ地元の地区同窓会に参加し親交を深めて頂きたいと思います。現在、地区同窓会（支部）において、本部会費を一括して納入する制度を導入する地区同窓会（支部）も増加し、会員把握を含め同窓会の活性化に繋がっております。本部会費の地区同窓会による一括納入に関しましては、所属地区同窓会の担当の先生へお問い合わせ下さい。

ご不明な点は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。(Tel092-863-2966 Fax092-863-2967)

「福岡歯科大学同窓会における個人情報の取扱」

- 同窓会事務局に登録される皆様の情報は、氏名／卒業年（期）／自宅住所／自宅電話番号／勤務先／勤務先電話番号です。また、勤務先などが定まっていない若い卒業生においては、帰省先の登録が行われています。その他にメールアドレス、元所属クラブ等といったことが登録されています。
- 収集した個人情報は、同窓生名簿の作成や同窓会会誌発送時の宛名出力など同窓会活動の付帯業務に使用する事を目的としており、それ以外には利用については、各種委員会並びに同窓会役員会との協議の上、やむを得ない事由に限定して利用いたします。
- 提供先は、同窓会会員（在校生を含む）、福岡歯科大学現・旧職員や広告主とし、原則としてそれ以外に頒布いたしません。尚、広告主様につきましても個人情報保護の観点から、慎重な取り扱いを協定いたします。
- 収集した個人情報を第三者へ委託並びに再委託する場合は、各種委員会にて委託業者等に守秘義務履行を基本に選定し、理事会において決定致します。
- 収集した個人情報について、委託先も含め、機密保護には万全をつくします。
- ご自分の情報は、任意です。ただし提供されない場合は、同窓会から各種案内（会誌、大学広報誌、学術案内、同期会等）が出来なくなる場合があります。また、同窓会名簿にも氏名のみの掲載となります。
- ご自分の情報を照会したい場合は、同窓会事務局までご連絡ください。ご本人であることが確認できた場合に限り開示いたします。その際、ご自分の情報の訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

「福岡歯科大学同窓生名簿」登録(変更)届け

フリガナ

氏 名

(男・女)

フリガナ

旧 姓

卒業期

期卒

所属地区名

名簿冊子上に掲載しない箇所には✓を入れてください

① 自 宅	住 所	〒	県	
	Tel 番号			
	Fax 番号			
② 勤 務 先	住 所	〒	県	
	勤務先名	開業・勤務医・教職・大学院・研修医・その他		
	Tel 番号			
	Fax 番号			
フリガナ E-Mail		※フリガナ：例えば) i「アイ」・数字の1「イチ」 英字 o「オー」・数字の0「ゼロ」		
メールマガジン		1.新規希望 2.希望しない 3.登録済み 4.解除したい		
郵送物送り先		①自宅 ・ ②勤務先 ・ ③帰省先		

以下は名簿に記載されません。住所等が不明になった際に郵便物を送ることがあります。

③ 帰 省 先	住 所	〒	県	
	Tel 番号			
	Fax 番号			
所属クラブ				

Fax 092-863-2967 / dousoukai@co | | ege.fdcnet.ac.jp

★同窓会事務局(本館7F)までに返送ください！

福岡歯科大学同窓会誌用原稿用紙

FAX 092-863-2967

[illegible]

